

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
研究方法論A	青 晴海	3
研究方法論A	木村 俊昭	12
研究方法論A	岡本 佐智子	21
研究方法論A	小西 正人	30
研究方法論A	高橋 保夫	39
研究方法論A	巫 靚	48
研究方法論A	魯 諍	57
研究方法論A	渡部 淳	66
研究方法論A	青 晴海	75
研究方法論A	木村 俊昭	84
研究方法論A	岡本 佐智子	93
研究方法論A	小西 正人	102
研究方法論A	高橋 保夫	111
研究方法論A	巫 靚	120
研究方法論A	魯 諍	129
研究方法論A	渡部 淳	138
研究方法論B	青 晴海	147
研究方法論B	木村 俊昭	156
研究方法論B	岡本 佐智子	165
研究方法論B	小西 正人	174
研究方法論B	高橋 保夫	183
研究方法論B	巫 靚	192
研究方法論B	魯 諍	201
研究方法論B	渡部 淳	210
研究方法論B	青 晴海	219
研究方法論B	木村 俊昭	228
研究方法論B	岡本 佐智子	237
研究方法論B	小西 正人	246
研究方法論B	高橋 保夫	255
研究方法論B	巫 靚	264
研究方法論B	魯 諍	273
研究方法論B	渡部 淳	282
特別課題研究 I	青 晴海	291
特別課題研究 I	岡本 佐智子	303
特別課題研究 I	木村 俊昭	315
特別課題研究 I	小西 正人	327
特別課題研究 I	青 晴海	339
特別課題研究 I	岡本 佐智子	351
特別課題研究 I	木村 俊昭	363
特別課題研究 I	小西 正人	375
特別課題研究 II	青 晴海	387

特別課題研究Ⅱ	岡本 佐智子	.....	399
特別課題研究Ⅱ	木村 俊昭	.....	411
特別課題研究Ⅱ	青 晴海	.....	423
特別課題研究Ⅱ	岡本 佐智子	.....	435
特別課題研究Ⅱ	木村 俊昭	.....	447
異文化コミュニケーション研究Ⅰ	岡本 佐智子	.....	459
異文化コミュニケーション研究Ⅱ	渡部 淳	.....	468
国際関係論特別研究Ⅰ	渡部 淳	.....	477
国際関係論特別研究Ⅱ	渡部 淳	.....	486
地域社会特別研究Ⅰ	小西 正人	.....	495
地域社会特別研究Ⅱ	岡本 佐智子	.....	504
英語学特殊研究	高橋 保夫	.....	513
英米言語文化特殊研究Ⅰ	高橋 保夫	.....	522
英米言語文化特殊研究Ⅱ	渡部 淳	.....	531
英語文献翻訳実践演習A	高橋 保夫	.....	540
英語文献翻訳実践演習B	渡部 淳	.....	549
中国学特殊研究	魯 諍	.....	558
中日言語文化特別演習Ⅰ	巫 靚	.....	567
中日言語文化特別演習Ⅱ	魯 諍	.....	576
中国語文献翻訳実践演習A	巫 靚	.....	585
中国語文献翻訳実践演習B	巫 靚	.....	594
日本語学特殊研究Ⅰ	小西 正人	.....	603
日本語学特殊研究Ⅱ	小西 正人	.....	612
日本言語文化特別研究	小西 正人	.....	621
日本語教育学研究Ⅰ	小西 正人	.....	630
日本語教育学研究Ⅱ	岡本 佐智子	.....	639
日本語教育学演習Ⅰ	岡本 佐智子	.....	648
日本語教育学演習Ⅱ	岡本 佐智子	.....	657
地域活性化システム論	木村 俊昭	.....	666
地域ビジネス特論Ⅰ	木村 俊昭	.....	675
地域ビジネス特論Ⅱ	木村 俊昭	.....	684
地域創生・SDGs特論Ⅰ	木村 俊昭	.....	693
地域創生・SDGs特論Ⅱ	木村 俊昭	.....	702

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	青 晴海						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

指導教員は約30年にわたる国際協力業務の経験がある教員である。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>インタビューの記録:録音と書き起こし(トランスクリプト) リサーチクエスションの再検討 関連する文献を探す,読む,整理する</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの分析1:データの整理 ファイリングとデータベース</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの分析2:コーディング オープンコーディングと軸足コーディング</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する (90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>データの分析3:概念化 カテゴリー間の関係を見つける</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する (90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>論文を書く1:データの呈示と解釈</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する (90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	3 論文を書く2:問題と方法 リサーチクエスチョンに答えているか	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第14回	質的研究の評価基準	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第15回	まとめ	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『コピーと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社

No	著者名 (Author/Editor)	書籍名 (Title)	出版社 (Publisher)	出版年 (Date)	ISBN/ISSN
1	Yin,R	Qualitative research from start to finish	Guilford	2015	1462517978
2	佐藤郁哉	『フィールドワークの技法:問いを育てる仮説をきたえる』	新曜社	2002	4788507889
3	Corbin,J.Strauss,A/ 操華子・森岡崇訳	『質的研究の基礎:グラウンデッドセオリーの技法と手順(第3版)』	医学書院	2012	4260012010
4	箕浦康子	『フィールドワークの技法と実際Ⅱ』	ミネルヴァ書房	2009	9784623053551
5	ブラサド／箕浦監訳	『質的研究のための理論入門』	ナカニシヤ出版	2018	9784779512230

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>大学院のディプロマ・ポリシーにおける、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。(知識・技能)・言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる。(関心・意欲・態度)・各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)に位置づけられる。いかに問題点、課題を整理し、そこからテーマ、リサーチクエスチョンを見つけ出し、先行研究の整理、仮説を立て、最適な立証方法を考える、そして、まとめるチカラを養う。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>地域創生・SDGsに関する学術論文の書き方を重点的に指導するもの。</p>							
<b>到達目標</b>							

大学院生本人がテーマとする学術論文を適切に調査分析することができる。  
 大学院生本人がテーマとする学術論文を目的、調査、結論を適切に完結させて、完成することができる。  
 大学院生本人がテーマとする学術論文を完成させてそれを適切に発表できる。

**授業の方法**

学び、習い、問い立て、対面の対話方式とする。

**ICT活用**

関係資料等はすべてオンライン対応とし、ペーパーレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席のこと。

**実務経験のある教員の教育内容**

修士課程、博士課程における論文指導をしてきた経験から、具体的な論文指導となる。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の講義時に個別対応することにより、随時、アドバイス、助言する。また、講義時に理解度を確認するもの。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の説明、各自の研究テーマの確認、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第2回	論文とは何か？の講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第3回	論文作成のプロセスに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第4回	論文テーマに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第5回	論文構造に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第6回	論文テーマの先行研究に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第7回	論文の仮説に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第8回	論文作成の証拠に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第9回	論文作成の構成に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第10回	論文作成時の禁止事項に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第11回	説得力ある論文に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第12回	論文査読に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第13回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第14回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第15回	各自修士論文概要の発表、助言・アドバイス、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表や対話による総合評価とするもの。
その他	0	なし。
<b>教科書</b>		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)ほか、随時、講義時に必要なものは、メール添付で配布する。		
<b>参考文献</b>		

必要に応じ、随時、講義時に紹介する。

**履修条件・留意事項等**

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

Google Classroomで、授業および研究に関わる補完情報の追加提示や、課題提示と投稿に使う。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

### 課題に対するフィードバックの方法

対人で個別にコメントを記したうえで、詳細を口頭説明して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究</p> <p>アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『『新版 論文の教室』』戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社  
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房  
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究</p> <p>アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社  
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房  
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究</p> <p>アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問い－主張－論証」という論文構成を身につけることができる。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社  
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房  
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(巫 靚)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学習する。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学習する。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。論証の方法(1)論証の方法のうち、「自然科学的方法」について具体的に学習する。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2)論証の方法のうち、「人文科学的方法」について具体的に学習する。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3)論証の方法のうち、「哲学的方法」について具体的に学ぶ。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

第7回	論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学習する。	山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第8回	歴史学方法論①:総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第9回	歴史学実践論①:総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第10回	歴史学方法論②:文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第11回	歴史学実践論②:文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第12回	歴史学方法論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第13回	歴史学実践論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第14回	歴史学方法論④:考古学・文献史学(前近代)	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第15回	郷土史研究論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

無断欠席は必ず減点要素になる。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」の区別について学修する。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「人文科学的方法」について具体的に学修する。 量的研究法、質的研究法、混合研究法を使用した研究の事例を紹介する。</p>	<p>指定する文献を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 受講者の研究テーマに適する研究方法について検討する。</p>	<p>指定する文献を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 内容分析について学修する① ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』の下記の各章を読む。 第1章イントロダクション 第2章社会科学のツールとしての内容分析 第3章内容分析のデザイン</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 内容分析について学修する② ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』下記の各章を読む。 第4章測定 第5章サンプリング 第6章信頼性</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 内容分析について学修する③                  ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『                  内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』下                  記の各章を読む。                  第7章妥当性                  第8章データ分析                  第9章コンピュータ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理                  解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する                  (90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第11回</p>	<p>データの収集と分析(4) 言説分析について学修する①                  この回は「言説」とは何かについて学修する。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理                  解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する                  (90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第12回</p>	<p>データの収集と分析(5) 言説分析について学修する②                  ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研                  究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。                  第2章テキスト、社会的出来事、社会的実践                  第3章間テキスト性と前提</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理                  解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する                  (90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第13回</p>	<p>データの収集と分析(6) 言説分析について学修する③ ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第4章ジャンルとジャンル構造 第5章文と文および節と節の間の意味関係</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第14回</p>	<p>データの収集と分析(7) 言説分析について学修する④ ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第7章ディスコース群 第8章社会的出来事の表象</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第15回</p>	<p>受講者の研究テーマに適する研究方法を再確認し、研究の事例を紹介する。</p>	<p>自分自身の研究に適する研究方法を考える(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ 勁草書房  
『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』ノーマン・フェアクラフ くるしお出版  
『混合研究法の基礎』チャールズ・テッドリー アッバス・タシヤコリ 西村書店  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究</p> <p>アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問い－主張－論証」という論文構成を身につけることができる。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社  
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房  
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A《秋入学者用》(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	青 晴海						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

指導教員は約30年にわたる国際協力業務の経験がある教員である。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を作るように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>インタビューの記録:録音と書き起こし(トランスクリプト) リサーチクエスションの再検討 関連する文献を探す,読む,整理する</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの分析1:データの整理 ファイリングとデータベース</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの分析2:コーディング オープンコーディングと軸足コーディング</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する (90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>データの分析3:概念化 カテゴリー間の関係を見つける</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する (90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>論文を書く1:データの呈示と解釈</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する (90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	3 論文を書く2:問題と方法 リサーチクエスチョンに答えているか	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第14回	質的研究の評価基準	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第15回	まとめ	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『コピーと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社

No	著者名 (Author/Editor)	書籍名 (Title)	出版社 (Publisher)	出版年 (Date)	ISBN/ISSN
1	Yin,R	Qualitative research from start to finish	Guilford	2015	1462517978
2	佐藤郁哉	『フィールドワークの技法:問いを育てる仮説をきたえる』	新曜社	2002	4788507889
3	Corbin,J.Strauss,A/ 操華子・森岡崇訳	『質的研究の基礎:グラウンデッドセオリーの技法と手順(第3版)』	医学書院	2012	4260012010
4	箕浦康子	『フィールドワークの技法と実際Ⅱ』	ミネルヴァ書房	2009	9784623053551
5	ブラサド／箕浦監訳	『質的研究のための理論入門』	ナカニシヤ出版	2018	9784779512230

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A《秋入学者用》(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>大学院のディプロマ・ポリシーにおける、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。(知識・技能)・言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる。(関心・意欲・態度)・各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)に位置づけられる。いかに問題点、課題を整理し、そこからテーマ、リサーチクエストを見つけ出し、先行研究の整理、仮説を立て、最適な立証方法を考える、そして、まとめるチカラを養う。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>地域創生・SDGsに関するテーマの課題整理、先行研究、仮説を立て、その立証方法を考え、いかに新規性ある研究開発、修士論文を執筆するか、指導するもの。</p>							
<b>到達目標</b>							

地域創生・SDGsに関する自らのテーマに基づき、修士論文を執筆できる。自らの専門領域における先行研究を幅広く収集・整理し、取り組むべき具体的な課題を特定できる。特定した課題に基づき、明確なリサーチクエスチョンと仮説を立て、それを検証するために調査・分析手法を論理的に設計し、提示できる。自らの研究テーマが、どのような社会的なニーズや現代的課題に応えるものであるかを自覚し、最適にまとめ、発表できる。

**授業の方法**

対面による対話重視の講義とする。

**ICT活用**

参考資料等はすべてオンライン、ペーパーレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席すること。

**実務経験のある教員の教育内容**

これまで、修士論文、博士論文の作成を主査指導してきた実績上、テーマの設定から先行研究の整理、仮説の立て方、最適な立証方法、全体のストーリー性等を指導するもの。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の講義時に質疑の時間、対話の時間を設ける、また、講義時、適宜、理解度を確認する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>講義全体の流れ説明、各自テーマ概要を発表、指導アドバイス、質疑応答</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第2回</p>	<p>研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 日常の課題や社会ニーズから「研究テーマ」を抽出</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第3回</p>	<p>研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 データベースの活用法と、情報の信頼性評価</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第4回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 既存研究の検索方法と整理方法	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第5回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 自分の研究の立ち位置の把握	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第6回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 検証可能な問いへの絞り込み	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		

<p>第7回</p>	<p>研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 リサーチクエスチョンに対する答えを導き出す論理構成</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第8回</p>	<p>研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 分析の根拠となる概念の検討</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第9回</p>	<p>研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 分析の根拠となる既存理論の検討</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 インタビュー、先駆的な事例研究、フィールドワークの設計</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 アンケート調査、統計データ分析の検討</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第12回</p>	<p>研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 研究倫理とデータの妥当性の検討</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第13回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 全体の整合性の確認、文章化のあり方	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第14回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 プレゼンテーションのポイント、論理の飛躍に関する確認	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第15回	各自のテーマ・概要の構想発表、質疑、助言アドバイス、 総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	対話状況や発表を総合的に評価するもの。
その他	0	
<b>教科書</b>		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)のほか、随時、授業内容はレジュメにて配布(配信)する。		
<b>参考文献</b>		

随時、講義時に紹介するもの。

**履修条件・留意事項等**

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A《秋入学者用》(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付プリントとパワーポイントによる講義、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メールやGoogle Classroomを活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

### 課題に対するフィードバックの方法

課題は次回授業までにコメントをつけて個別返却し、授業の中で共通する問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを解説する。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく。(90分)</p>	<p>授業で説明された論文の書き方を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく。(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく。(90分)</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究</p> <p>アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく。(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業で適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社  
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房  
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A《秋入学者用》(小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究</p> <p>アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社  
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房  
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A《秋入学者用》(高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究</p> <p>アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問い—主張—論証」という論文構成を身につけることができる。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
<p>『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版                  『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋                  その他、授業中に適宜指示する。</p>		
<b>参考文献</b>		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社  
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房  
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A《秋入学者用》(巫 靚)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学習する。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学習する。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。論証の方法(1)論証の方法のうち、「自然科学的方法」について具体的に学習する。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2)論証の方法のうち、「人文科学的方法」について具体的に学習する。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3)論証の方法のうち、「哲学的方法」について具体的に学ぶ。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)。</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

第7回	論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学習する。	山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第8回	歴史学方法論①:総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第9回	歴史学実践論①:総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第10回	歴史学方法論②:文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第11回	歴史学実践論②:文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第12回	歴史学方法論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第13回	歴史学実践論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第14回	歴史学方法論④:考古学・文献史学(前近代)	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第15回	郷土史研究論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

無断欠席は必ず減点要素になる。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A《秋入学者用》(魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」の区別について学修する。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「人文科学的方法」について具体的に学修する。 量的研究法、質的研究法、混合研究法を使用した研究の事例を紹介する。</p>	<p>指定する文献を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 受講者の研究テーマに適する研究方法について検討する。</p>	<p>指定する文献を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 内容分析について学修する① ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』の下記の各章を読む。 第1章イントロダクション 第2章社会科学のツールとしての内容分析 第3章内容分析のデザイン</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 内容分析について学修する② ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』下記の各章を読む。 第4章測定 第5章サンプリング 第6章信頼性</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 内容分析について学修する③                  ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『                  内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』下                  記の各章を読む。                  第7章妥当性                  第8章データ分析                  第9章コンピュータ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理                  解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する                  (90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第11回</p>	<p>データの収集と分析(4) 言説分析について学修する①                  この回は「言説」とは何かについて学修する。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理                  解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する                  (90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第12回</p>	<p>データの収集と分析(5) 言説分析について学修する②                  ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研                  究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。                  第2章テキスト、社会的出来事、社会的実践                  第3章間テキスト性と前提</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理                  解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する                  (90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第13回</p>	<p>データの収集と分析(6) 言説分析について学修する③ ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第4章ジャンルとジャンル構造 第5章文と文および節と節の間の意味関係</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諄</p>			
<p>第14回</p>	<p>データの収集と分析(7) 言説分析について学修する④ ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第7章ディスコース群 第8章社会的出来事の表象</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諄</p>			
<p>第15回</p>	<p>受講者の研究テーマに適する研究方法を再確認し、研究の事例を紹介する。</p>	<p>自分自身の研究に適する研究方法を考える(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諄</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ 勁草書房  
『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』ノーマン・フェアクラフ くるしお出版  
『混合研究法の基礎』チャールズ・テッドリー アッバス・タシヤコリ 西村書店  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A《秋入学者用》(渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。</p>	<p>『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。</p>	<p>鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。</p>	<p>『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。</p>	<p>『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究</p> <p>アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。</p>	<p>該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問い－主張－論証」という論文構成を身につけることができる。</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ</p>	<p>該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
<b>参考文献</b>		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社  
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房  
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房  
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

**授業の方法**

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

**ICT活用**

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

**実務経験のある教員の教育内容**

指導する教員は、国際協力の現場で約30年勤務した経験ある教員である。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。 受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示について論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の作成パターンを分析                  前回は本論の構成として、論拠提示—結論提示の分析を行ったが、本講義では論文の行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論文の展開方法                  データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた                  図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
<b>区分</b>		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
<b>科目名</b>		研究方法論B(木村 俊昭)				<b>ナンバリング</b>	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2026年度前期	<b>区分</b>		<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	木村 俊昭						

**授業の位置づけ**

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

**授業の概要**

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

**到達目標**

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修士論文の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導をしていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行うものとする。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

修士論文、博士論文の作成を指導してきた実績上、テーマの設定から先行研究の整理、仮説の立て方、最適な立証方法、全体のストーリー性等を指導するもの。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは？ 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていくことを確認するもの。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておくこと。(90分)</p>	<p>研究テーマの選定理由、見直しの必要性を確認しておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成とは？ 序・本・結論の役割のうち、序論の役割に関して学び、習い、問い立てする。履修者は、論文モデルに基づき、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を説明できるようにするもの。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと。(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割とは？ 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことに関して対話する。 本論構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析するもの。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、ネットで先行研究を調べておくこと。(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方とは？ 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにより、事柄データから考察表現までの演習を行うもの。</p>	<p>各自の論文テーマに関する関連資料を集めておくこと。(90分)</p>	<p>論文テーマに関する先行研究、データをできるだけ多く収集しておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第5回</p>	<p>論文の展開方法とは？ データ積み上げ型、結論先取り型による展開方法により、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習するもの。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておくこと。(90分)</p>	<p>論文テーマを決定しておくこと。また、関連情報をネット等で収集すること。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集の方法とは？ 図書館やインターネット等で、テーマに関連する先行研究やデータの集め方を講義し、実際に学術論文を検索し、各自の論文テーマが「修論」として最適かを考察するもの。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと。(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学術論文(先行研究)をできるだけ多く集め、精読しておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割とは？ 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習するもの。</p>	<p>研究テーマの学術論文や書籍における参考文献を熟読しておくこと。(90分)</p>	<p>先行研究のうち、重要な学術論文や書籍を熟読しておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現とは？ 図表やデータを用いて、論文を分かりやすくする、表現パターンを学ぶもの。 効果的な図表の作成方法を受講者同士で対話してみる。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおくこと。(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、必要と考える内容を図表にしておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現とは？ 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと。(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究とは？ 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと。(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく。(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめるには？ 先行研究に対する意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめること。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていくもの。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと。(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成すると同時に、関連資料を収集すること。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究をまとめよう。 これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと。(90分)</p>	<p>先行研究の整理を進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方とは？ 言語学や社会学、心理学、経営学や行動経済学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習するもの。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと。(90分)</p>	<p>学術論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと。(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論を作成しよう。 論文の核となる部分を提出し、指導を受ける。 論文全体の構成を検討するもの。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと。(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること。(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	なし。
<b>教科書</b>		
「社会人のための学術論文の書き方」(東京農大出版会・木村俊昭著)ほか、研究領域に関する論文参考資料は、適宜、紹介し、配布する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

授業の概要

受講者の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

**授業の方法**

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

**ICT活用**

メールやGoogle Classroom等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を追加提示したり、投稿された課題の評価をしたりする。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当しない。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトして、他の院生や教員と共有できるようにしておくこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								大学院 グローバルコミュニケーション研究科											
区分								言語文化コミュニケーション 共通科目A											
科目名								研究方法論B(高橋 保夫)								ナンバリング			
配当年次		1年		開講学期		2026年度前期		区分				単位		2					
担当教員		高橋 保夫																	

## 授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

## 授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

## 到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

**授業の方法**

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

**ICT活用**

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。 受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(巫 靚)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは、論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成について学習する。実物の修士論文を手にとりて考えていく。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成、序・本・結論の役割のうち、序論の役割について学習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)。</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)。</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておく(90分)。</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)。</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておく(90分)。</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておく(90分以上)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割、結びの構成、全体のまとめの構成のパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)。</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)。</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておく(90分)。</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておく(90分)。</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておく(90分)。</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。論文のテーマ変更はこの時期に決定しておく。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておく(90分)。</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおく(90分)。</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておく(90分)。</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておく(90分)。</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出する(90分以上)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

GoogleClassroomやメール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。 受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。 受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B《秋入学者用》(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

指導する教員は、国際協力の現場で約30年勤務した経験ある教員である。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示について実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の作成パターンを分析                  前回は本論の構成として、論拠提示—結論提示の分析を行ったが、本講義では論文の行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論文の展開方法                  データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた                  図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
<b>区分</b>		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
<b>科目名</b>		研究方法論B《秋入学者用》(木村 俊昭)				<b>ナンバリング</b>	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2026年度後期	<b>区分</b>		<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	木村 俊昭						

**授業の位置づけ**

各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。(知識・技能) 各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)と関連する科目である。研究方法論Aを承け、2年次の「特別課題研究Ⅰ」「特別課題研究Ⅱ」へ発展する科目である。

**授業の概要**

地域創生・SDGsに関する学術論文の書き方を重点的に指導するもの。

**到達目標**

自らの専門領域における先行研究を体系的に収集・整理し、自身の研究が埋めるべきリサーチ・ギャップを客観的に説明できる。設定したリサーチクエスチョンに対し、適切な調査・分析手法を選択し、実現可能な研究計画書として構造化できる。研究計画を、学術的ルールに則った文章やプレゼンテーションとしてまとめ、自らの論理の妥当性を検証する力を身に付ける。

**授業の方法**

対面の対話方式とする。

**ICT活用**

関係資料等はすべてオンライン対応とし、ペーパーレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席のこと。

**実務経験のある教員の教育内容**

修士課程、博士課程における論文指導をしてきた経験から、具体的な論文指導となる。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の講義時に個別対応することにより、随時、アドバイス、助言する。また、講義時に理解度を確認するもの。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の説明、各自の研究テーマの確認、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第2回	論文とは何か？の講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第3回	論文作成のプロセスに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		

<p>第4回</p>	<p>論文テーマに関する講義、対話、質疑応答</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第5回</p>	<p>論文構造に関する講義、対話、質疑応答</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第6回</p>	<p>論文テーマの先行研究に関する講義、対話、質疑応答</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第7回	論文の仮説に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第8回	論文作成の証拠に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第9回	論文作成の構成に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		

<p>第10回</p>	<p>論文作成時の禁止事項に関する講義、対話、質疑応答</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第11回</p>	<p>説得力ある論文に関する講義、対話、質疑応答</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第12回</p>	<p>論文査読に関する講義、対話、質疑応答</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第13回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第14回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第15回	各自修士論文概要の発表、助言・アドバイス、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表や対話による総合評価とするもの。
その他	0	
<b>教科書</b>		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)のほか、随時、レジュメを配布(配信)する。		
<b>参考文献</b>		

適宜、講義時に紹介する。

**履修条件・留意事項等**

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

**備考欄**

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院 グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション 共通科目A						
科目名	研究方法論B《秋入学者用》(岡本 佐智子)					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

## 授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

## 授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

## 到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

### ICT活用

メールやGoogle Classroomを活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。 受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査やインタビューをする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート70%、演習課題30%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトして、他の院生や教員が共有できるようにしておくこと。

**備考欄**

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								大学院 グローバルコミュニケーション研究科											
区分								言語文化コミュニケーション 共通科目A											
科目名								研究方法論B《秋入学者用》(小西 正人)								ナンバリング			
配当年次		1年		開講学期		2026年度後期		区分				単位		2					
担当教員		小西 正人																	

## 授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

## 授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

## 到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院 グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション 共通科目A						
科目名	研究方法論B《秋入学者用》(高橋 保夫)					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						

## 授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

## 授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

## 到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B《秋入学者用》(巫 靚)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは、論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成について学習する。実物の修士論文を手にとって考えていく。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成、序・本・結論の役割のうち、序論の役割について学習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)。</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)。</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておく(90分)。</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)。</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておく(90分)。</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておく(90分以上)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割、結びの構成、全体のまとめの構成のパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)。</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)。</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておく(90分)。</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておく(90分)。</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておく(90分)。</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。論文のテーマ変更はこの時期に決定しておく。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておく(90分)。</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文章化しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおく(90分)。</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておく(90分)。</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておく(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておく(90分)。</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出する(90分以上)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院 グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション 共通科目A						
科目名	研究方法論B《秋入学者用》(魯 諍)					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						

## 授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

## 授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

## 到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

### ICT活用

GoogleClassroomやメール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。 受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院 グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション 共通科目A						
科目名	研究方法論B《秋入学者用》(渡部 淳)					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						

## 授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。

## 授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

## 到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

### 授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。  
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。  
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

### ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。</p>	<p>入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)</p>	<p>研究テーマの見直しをしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。</p>	<p>各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)</p>	<p>各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。</p>	<p>各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)</p>	<p>論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。</p>	<p>各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)</p>	<p>論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。</p>	<p>各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)</p>	<p>論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学术论文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。</p>	<p>論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)</p>	<p>研究テーマに関する学术论文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。</p>	<p>研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)</p>	<p>先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。</p>	<p>論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)</p>	<p>各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。</p>	<p>収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)</p>	<p>アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。</p>	<p>研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。</p>	<p>研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)</p>	<p>先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。</p>	<p>研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。</p>	<p>研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)</p>	<p>論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。</p>	<p>先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)</p>	<p>論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。</p>	<p>これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)</p>	<p>先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
<b>参考文献</b>		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I (青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	3
担当教員	青 晴海						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。                      受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 専門研究領域について具体的に解説できる。
2. よい論文とは何かが説明できる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。

**授業の方法**

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。  
特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

**ICT活用**

なし

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。</p>	<p>先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)</p>	<p>先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。</p>	<p>これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。</p>	<p>参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)</p>	<p>研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			

<p>第10回</p>	<p>公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。</p>	<p>研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)</p>	<p>論文をどんどん書き進めていく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。</p>	<p>本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)</p>	<p>論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。</p>	<p>本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)</p>	<p>論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。</p>	<p>本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)</p>	<p>論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。</p>	<p>40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)</p>	<p>これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。</p>	<p>40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)</p>	<p>これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第16回</p>	<p>論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。</p>	<p>40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)</p>	<p>これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第17回</p>	<p>論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。</p>	<p>40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)</p>	<p>書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第18回</p>	<p>論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。</p>	<p>40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)</p>	<p>書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第19回</p>	<p>論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。</p>	<p>40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)</p>	<p>書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第20回</p>	<p>論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第21回</p>	<p>論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第22回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	
<b>教科書</b>		
プリントを配布／配信する。		
<b>参考文献</b>		
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I (岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	3
担当教員	岡本 佐智子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>受講生の研究対象とする各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている(知識・技能)ことを目的とし、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)ことを課する科目である。「研究方法論A・B」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に発展する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。                      受講生は修士論文の一部を完成し、それを研究会や学会で発表できるように深めていく。論文執筆を少しずつ進め、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 研究テーマについて具体的に説明できる。
2. よい論文とは何かを一般化できる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文の研究テーマを深め、自律的に研究できる。

**授業の方法**

授業は、受講生が各自の研究テーマに関するレポートや資料整理ノート等を作成し、授業時までに提出して説明していくことを基本とする。その理解度に合わせて、精読したり他の関連文献を紹介したりしながら徐々に研究テーマが深まる研究指導を行う。併せて、調査方法や研究倫理、問題提起など、論文作成上での構成や書き方等が適切かどうか受講生とともに検討していく。

**ICT活用**

課題や追加資料提示のほか、院生の質問等にGoogle Classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当しない。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題は毎回授業時までに提出し、対面で内容確認のうえ助言を行い、改善方法を指導する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>受講生は論文作成のための進捗状況および研究計画の見通しについて説明する。</p>	<p>論文テーマ及び概要を説明できるようにしておく(90分)</p>	<p>論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文のテーマを具体的に明文化し、大まかな論文構成を示す。</p>	<p>論文の構成をもとに序論部分を完成しておく(90分以上)</p>	<p>序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を説明する。</p>	<p>先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)</p>	<p>先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。</p>	<p>先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)</p>	<p>先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文の本文に重要であるか、具体的に説明する。</p>	<p>これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献リストの見直しをしておくこと(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。</p>	<p>参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)</p>	<p>研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。研究進捗が遅い院生は、先行研究レポート作成を継続し、論文の一部となる内容を執筆・整理して、授業時に説明する。</p>	<p>論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)</p>	<p>論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。進捗が遅い院生は、論文の概要と目次を仮作成し、引き続き研究レポートを作成して、説明する。</p>	<p>研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。進捗が遅い院生は、研究テーマに沿ったレポートを提出し、1章分の完成に向かって論文執筆に取り組む。</p>	<p>研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)</p>	<p>学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。進捗の遅い院生は1章分を完成し、指導を受ける。</p>	<p>指摘された部分や問題点を再考し、完成しているところまで論文を直しておく(90分以上)</p>	<p>論文をどんどん書き進めていく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>修士論文の書き方および構成を再度点検し、全体の30%程度「完成」したものを提出し、指導を受ける。</p>	<p>本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)</p>	<p>論文を再考して再修正し、30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>論文の4割作成に向かつて、書けた部分から提出し、指導を受ける。論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。</p>	<p>40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)</p>	<p>これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	論文作成 引き続き、作成したところまでの論文を提出し、指導を受ける。	論文の40% (5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をして、指導を受けていく。	とにかく少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第15回	論文の40%分を完成し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成40%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	論文の50%完成に向かって、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			

第16回	論文の5割完成を目指して、書けたところまで提出して指導を受ける。	どんどん、書いていく。(90分以上)	修正・加筆しながら、執筆を進めていく。(90分以上)
担当教員			
第17回	論文の5割完成に近づける。書けたところまで提出して指導を受ける。	どんどん、書いていく。(90分以上)	修正しながら、書いていく。(90分以上)
担当教員			
第18回	論文の5割を完成した段階となる。書けたところまで提出して、今後の内容構成等の指導を受ける。	5割完成になるよう、先行研究を追加して、研究内容を深めていく。(90分以上)	引き続き、執筆を続ける。(90分以上)
担当教員			

第19回	論文の6割完成を目指し、書けたところまで提出して指導を受ける。	6割完成に向かって、どんどん書いていく。(90分以上)	修正・加筆しながら、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第20回	論文の6割完成に向かって、書けたところまで提出して指導を受ける。	) どんどん書いていく。(90分以上)	) どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第21回	論文の6割が完成できるよう、研究を進め、指導を受ける。	) どんどん書いていく。(90分以上)	論文の修正・加筆をしながら執筆を進める。(90分以上)
担当教員			

第22回	論文の6割完成に向かって、これまでの進捗状況の報告と章立ての見直しを行う。	どんどん書いて、助言・指導が受けられるようにしておく。(90分以上)	指導された部分を再考し、書き直しておく。(90分以上)
担当教員			
第23回	論文の6割がほぼ完成している段階なので、その構成を再度見直し、増補等を検討・指導する。 最小でも論文の50%は完成して提出し、指導を受ける。	論文の執筆および参考文献の整理をしておく。(90分以上)	引き続き執筆を続け、60%以上は完成しておく。(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題100%
その他	0	
<b>教科書</b>		
教科書は使用しない。		
<b>参考文献</b>		
研究領域学会の論文執筆ルールに従った論文の書き方や、研究関連の先行研究論文・書籍等を適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

研究資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、研究に謙虚で自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I (木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	3
担当教員	木村 俊昭						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>本授業は、修士論文作成に向けた研究指導科目である。                      受講生は各専門領域における関心や問題意識をもとに研究テーマを設定し、先行研究の検討、理論的枠組みの整理、研究方法の設計を通して、研究計画を具体化する。                      本授業では、各領域の専門知識および研究技能を深めるとともに、自ら設定した研究課題を学術論文としてまとめ、学会等で発表できる能力を養うことを目的とする。                      また、1年次に履修する「研究方法論」で学んだ研究手法を実際の研究計画に応用し、修士論文完成を目指す「特別課題研究Ⅱ」へと接続する科目として位置づけられる。                      さらに、各領域の主要言語を用いた文献読解や論文執筆を通して、高度な語学力および学術的な言語運用能力の向上も目指す。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>本授業では、修士論文作成の第一段階として、研究テーマの明確化と研究計画の作成を中心に指導を行う。受講生は、自身の研究テーマに関する先行研究を収集・整理し、研究の意義や課題を明確にした上で、研究仮説を設定する。また、その仮説を検証するための研究方法(文献研究、フィールドワーク、インタビュー調査、統計分析など)を検討し、具体的な研究計画を作成する。さらに、学術論文の基本構成や論証の方法を学びながら、論文の一部を試作し、研究成果の一部を学会等で発表できる水準に高めることを目指す。</p>							
<b>到達目標</b>							

1.自身の専門研究領域について、研究の背景や課題を含めて具体的に説明できる。  
 2.学術論文の基本構成や論証方法を理解し、「よい論文」とは何かを説明できる。  
 3.先行研究を批判的に読み、その研究の意義や限界を整理できる。  
 4.自身の研究テーマを明確にし、研究仮説と研究計画を自律的に構築できる。

**授業の方法**

調査方法の学び、習い、問い立て、ディスカッションを中心とする。  
 特に、先行研究や関係資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆や発表したりできるように演習形式とする。

**ICT活用**

適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の関係資料や参考サイトなどを共有する。

**実務経験のある教員の教育内容**

これまで、東京大学大学院非常勤講師・客員教授(修士課程・博士課程)、長崎県立大学大学院(博士課程)等で、学術論文の書き方等を、学び、習い、問い立てを中心に指導してきている。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題提出は、当日、口頭にて対応するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	本講義のオリエンテーション 論文テーマの設定 研究内容の明確化と論文テーマを設定する。研究拝見を整理し、当該研究が学術的及び社会的に有する意義を検討する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	関心の高い地域課題を3つの視点で整理しておく(90分)	テーマを一行のタイトルにしてみる(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえる。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			

第4回	研究の意義と背景を記述してみる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第5回	文献検察、学術情報の収集法を学び、習い、問い立てする。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第6回	先行研究の要約に関して、学び、習い、問い立てをする。	最重要と考える学術論文1本を精読する(90分以上)	論文の「問い・方法・結論」を1枚に要約すること(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		

<p>第7回</p>	<p>批判的読解とリサーチ・ギャップの学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>論文の限界、言及されていない点を抽出しておくこと(90分以上)</p>	<p>自分の研究が埋めるべき空白を定義してみること(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第8回</p>	<p>リサーチ・クエスチョンの確定するため、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>複数の問いを比較・検討してみること(90分以上)</p>	<p>決定したリサーチ・クエスチョンを検証可能とするにはどうするか検討してみること(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第9回</p>	<p>社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)に関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>社会関係資本に関する基礎文献を1冊読んでおくこと(90分以上)</p>	<p>地域における社会関係資本を探しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第10回</p>	<p>共通資源管理論(コモンズ論)に関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>オストロムの8原則に関する書籍1冊を読んでおく(90分以上)</p>	<p>フィールドの資源管理主体をステークホルダー分析してみる(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第11回</p>	<p>多文化コミュニケーションに関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>異文化受容モデル(ミルトン・ベネット等)の理論を調査しておく(90分以上)</p>	<p>地域内のコミュニケーション不足の要因を分析しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第12回</p>	<p>概念図(研究モデル)の作成に関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>要因と結果の関連を整理しておく(90分以上)</p>	<p>A41枚に研究モデル図(概念図)を作成しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第13回	地域分析、特に言説分析(ディスコース)に関する、学び、習い、問い立てをする。	国・自治体広報やwebサイトの文言を収集しておく。(90分以上)	地域がどのように発信されているのかを抽出しておく(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第14回	地域分析、特にナラティブ・アプローチに関する、学び、習い、問い立てをする。	ライフストーリー研究の基礎に関する書籍1冊を読んでおく(90分以上)	聴き取り対象の候補者リストを作成しておく(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第15回	地域分析、特に多文化共生の実態に関する、学び、習い、問い立てをする。	総務省等の多文化共生推進プランを読んでおく(90分以上)	フィールドの多文化施策の現状と課題を整理しておく(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		

<p>第16回</p>	<p>地域分析、特にSWOT分析に関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>地域の脅威・弱み・機会・強みを整理しておく(90分以上)</p>	<p>SWOT分析をクロスさせ、新たな順番、視点を検討しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第17回</p>	<p>研究方法の設計(質・量)に関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>質的調査と量的調査の選択基準を確認しておく(90分以上)</p>	<p>自分のリサーチクエスチョンに最適な手法を確認しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第18回</p>	<p>調査票・インタビューガイドの作成に関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>質問項目のドラフトを作成しておく(90分以上)</p>	<p>プレインタビューを実施し、質問項目を見直し、完成させておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第19回</p>	<p>調査フィールドに関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>調査依頼書(協力要請文)案を作成しておく(90分以上)</p>	<p>調査工程表(ガントチャート)を作成しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第20回</p>	<p>研究倫理と情報の匿名化に関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>日本学術振興会等の倫理規範を熟読しておく(90分以上)</p>	<p>研究倫理審査に必要な書類に関して検討しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第21回</p>	<p>研究計画書に関する、学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>章立て構成を検討しておく(90分以上)</p>	<p>計画書の全体構成の論理性を再点検しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第22回	研究計画発表に備え、学び、習い、問い立てをする。	発表用スライドの作成とリハーサルをしておく(90分以上)	質疑応答の内容を記録し、加筆修正しておく(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第23回	修正計画書、現時点の論文を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。	現時点の論文内容を精査し、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆し、特別課題研究Ⅱの受講前に、最小6割以上の完成を目指すこと(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出(100%)とする。
その他	0	
<b>教科書</b>		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)のほか、講義内容はレジュメを配布(配信)する。		
<b>参考文献</b>		
研究内容に関する先行研究を適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

関係資料や文献収集をこまめに実施すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I (小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	3
担当教員	小西 正人						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究 II」に連動する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。                      受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、根拠を明示し論証するより良い方法を学ぶとともに、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 専門研究領域について具体的に解説できる。
2. よい論文とは何かを説明できる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。

**授業の方法**

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。  
特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

**ICT活用**

適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			

第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			
第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			

<p>第10回</p>	<p>発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告し、公開発表会への準備をしておく。</p>	<p>研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)</p>	<p>論文をどんどん書き進めていく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>修士論文の書き方および構成を再度点検し、全体の30%程度「完成」したものを提出し、指導を受ける。</p>	<p>本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)</p>	<p>論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。</p>	<p>40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)</p>	<p>これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。</p>	<p>40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)</p>	<p>書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文作成 いったん全体を読み返してみる。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第16回</p>	<p>参考文献の書き方を再チェックし、不備がないかどうか確認する。</p>	<p>参考文献に不備がないか確認しておく(30分)</p>	<p>不備があった参考文献を正しい書式で書き直す(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第17回</p>	<p>論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第18回</p>	<p>先行研究のまとめについて確認する。特に先行研究の読み違いがないかどうか、改めて読み込んで確認する。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第19回</p>	<p>大きな論の流れに齟齬や無駄がないかどうか、ストーリーとして話してみて確認する。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第20回</p>	<p>発表準備を行う。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第21回</p>	<p>先行文献に見落としがないか、さらに最新の研究がないか、インターネットだけでなく図書館でも確認する。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第22回	これまでの執筆部分を読み直し、論拠不十分の部分や論証の飛躍がないか、あるいは説明不足の部分がないか確かめる。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	
<b>教科書</b>		
プリントを配布／配信する。		
<b>参考文献</b>		
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院 グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション 共通科目A						
科目名	特別課題研究 I 《秋入学者用》(青 晴海)					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	3
担当教員	青 晴海						

## 授業の位置づけ

学生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。

## 授業の概要

修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。  
受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。

## 到達目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門研究領域について具体的に解説できる。</li> <li>2. よい論文とは何かが説明できる。</li> <li>3. 先行研究を批判的に読むことができる。</li> <li>4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。</li> </ol>
--

**授業の方法**

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。  
特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

**ICT活用**

なし

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			

第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			
第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			

第10回	<p>公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。</p>	<p>研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)</p>	<p>論文をどんどん書き進めていく(90分以上)</p>
担当教員			
第11回	<p>公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。</p>	<p>本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)</p>	<p>論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)</p>
担当教員			
第12回	<p>論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。</p>	<p>40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)</p>	<p>これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)</p>
担当教員			

<p>第13回</p>	<p>論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。</p>	<p>40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)</p>	<p>書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>執筆を進める。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>執筆を進める。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第16回</p>	<p>論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第17回</p>	<p>論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第18回</p>	<p>論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第19回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			
第20回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			
第21回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			

第22回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			
第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。 論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発 表していく。	論文完成50%を最小の到達とし 、研究内容を発表できるようにし ておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続 け、次の科目「同Ⅱ」授業前には 、最小6割完成を目指す(90分 以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>各回の指定課題提出100%</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>プリントを配布／配信する。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I 《秋入学者用》(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	3
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

受講生の研究対象とする各領域を対象とする専門分野に関する専門知識および技能を修めている(知識・技能)ことを目的とし、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)ことを課する科目である。「研究方法論A・B」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。

授業の概要

修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。  
 受講生は修士論文の一部を完成し、それを研究会や学会で発表できるように深めていく。論文執筆を少しずつ進め、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。

到達目標

1. 研究テーマについて具体的に説明できる。
2. よい論文とは何かを一般化できる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文の研究テーマを深め、自律的に研究できる。

**授業の方法**

授業は、受講生が各自の研究テーマに関するレポートや資料整理ノート等を作成し、授業時までに提出して説明していくことを基本とする。その理解度に合わせて、精読したり他の関連文献を紹介したりしながら徐々に研究テーマが深まる研究指導を行う。併せて、調査方法や研究倫理、問題提起など、論文作成上での構成や書き方等が適切かどうか受講生とともに検討していく。

**ICT活用**

課題や参考資料の提示、課外の質問等にGoogle Classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当しない。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題は毎回授業時までに提出し、対面で内容確認のうえ助言を行い、改善方法を指導する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	受講生は論文作成のための進捗状況および研究計画の見通しについて説明する。	論文テーマ及び概要を説明できるようにしておく。(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化し、大まかな論文構成を示す。	論文の構成をもとに序論部分を完成しておく。(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする。(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を説明する。	先行研究文献を2つを読み、引用できる部分を文章化しておく。(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく。(90分以上)
担当教員			

第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく。(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく。(90分以上)
担当教員			
第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文の本文に重要であるか、具体的に説明する。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと。(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献リストの見直しをしておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく。(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと。(90分以上)
担当教員			

<p>第7回</p>	<p>学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。研究進捗が遅い院生は、先行研究レポート作成を継続し、論文の一部となる内容を執筆・整理して、授業時に説明する。</p>	<p>論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと。(90分以上)</p>	<p>論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。進捗が遅い院生は、論文の概要と目次を仮作成し、引き続き研究レポートを作成して、説明する。</p>	<p>研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと。(90分以上)</p>	<p>論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。進捗が遅い院生は、研究テーマに沿ったレポートを提出し、1章分の完成に向かって論文執筆に取り組む。</p>	<p>研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと。(90分以上)</p>	<p>学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。進捗の遅い院生は1章分を完成し、指導を受ける。</p>	<p>指摘された部分や問題点を再考し、完成しているところまで論文を直しておく。(90分以上)</p>	<p>論文をどんどん書き進めていく。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>修士論文の書き方および構成を再度点検し、全体の30%程度「完成」したものを提出し、指導を受ける。</p>	<p>本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく。(90分以上)</p>	<p>論文を再考して再修正し、30%以上「完成品」にしておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>論文の4割作成に向かって、書けた部分から提出し、指導を受ける。論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。</p>	<p>40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく。(90分以上)</p>	<p>これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	論文作成 引き続き、作成したところまでの論文を提出し、指導を受ける。	論文の40% (5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく。(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をして、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく。(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく。(90分以上)
担当教員			
第15回	論文の40%分を完成し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文の40%分を完成し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文の50%完成に向かって、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			

第16回	論文の5割完成を目指して、書けたところまで提出して指導を受ける。	どんどん、書いていく。(90分以上)	修正・加筆しながら、執筆を進めていく。(90分以上)
担当教員			
第17回	論文の5割完成に近づける。書けたところまで提出して指導を受ける。	どんどん、書いていく。(90分以上)	修正しながら、書いていく。(90分以上)
担当教員			
第18回	論文の5割を完成した段階となる。書けたところまで提出して、今後の内容構成等の指導を受ける。	5割完成になるよう、先行研究を追加して、研究内容を深めていく。(90分以上)	引き続き、執筆を続ける。(90分以上)
担当教員			

第19回	論文の6割完成を目指し、書けたところまで提出して指導を受ける。	6割完成に向かって、どんどん書いていく。(90分以上)	修正・加筆しながら、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第20回	6割完成に向かって、どんどん書いていく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)	修正・加筆しながら、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第21回	論文の6割が完成できるよう、研究を進め、指導を受ける。	どんどん書いていく。(90分以上)	論文の修正・加筆をしながら執筆を進める。(90分以上)
担当教員			

第22回	論文の6割完成に向かって、これまでの進捗状況の報告と章立ての見直しを行う。	どんどん書いて、助言・指導が受けられるようにしておく。(90分以上)	指導された部分を再考し、書き直しておく。(90分以上)
担当教員			
第23回	論文の6割がほぼ完成している段階なので、その構成を再度見直し、増補等を検討・指導する。 最小でも論文の50%は完成して提出し、指導を受ける。	論文の執筆および参考文献の整理をしておく。(90分以上)	引き続き執筆を続け、60%以上は完成しておく。(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題100%
その他	0	
<b>教科書</b>		
教科書は使用しない。		
<b>参考文献</b>		
研究領域学会の論文執筆ルールに従った論文の書き方や、研究関連の先行研究論文・書籍等を適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

研究資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、研究に謙虚で自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I 《秋入学者用》(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	3
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

本授業は、修士論文作成に向けた研究指導科目である。受講生は各専門領域における関心や問題意識をもとに研究テーマを設定し、先行研究の検討、理論的枠組みの整理、研究方法の設計を通して、研究計画を具体化する。本授業では、各領域の専門知識および研究技能を深めるとともに、自ら設定した研究課題を学術論文としてまとめ、学会等で発表できる能力を養うことを目的とする。また、1年次に履修する「研究方法論」で学んだ研究手法を実際の研究計画に応用し、修士論文完成を目指す「特別課題研究Ⅱ」へと接続する科目として位置づけられる。さらに、各領域の主要言語を用いた文献読解や論文執筆を通して、高度な語学力および学術的な言語運用能力の向上も目指す。

授業の概要

本授業では、修士論文作成の第一段階として、研究テーマの明確化と研究計画の作成を中心に指導を行う。受講生は、自身の研究テーマに関する先行研究を収集・整理し、研究の意義や課題を明確にした上で、研究仮説を設定する。また、その仮説を検証するための研究方法(文献研究、フィールドワーク、インタビュー調査、統計分析など)を検討し、具体的な研究計画を作成する。さらに、学術論文の基本構成や論証の方法を学びながら、論文の一部を試作し、研究成果の一部を学会等で発表できる水準に高めることを目指す。

到達目標

- 1.自身の専門研究領域について、研究の背景や課題を含めて具体的に説明できる。
- 2.学術論文の基本構成や論証方法を理解し、「よい論文」とは何かを説明できる。
- 3.先行研究を批判的に読み、その研究の意義や限界を整理できる。
- 4.自身の研究テーマを明確にし、研究仮説と研究計画を自律的に構築できる。

**授業の方法**

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

**ICT活用**

適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。

**実務経験のある教員の教育内容**

これまで、東京大学大学院非常勤講師・客員教授(修士課程・博士課程)、長崎県立大学大学院(博士課程)等で、学術論文の書き方等を、学び、習い、問い立てを中心に指導してきている。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>ガイダンス リサーチクエスト(RQ)と研究ギャップの再検討に関する学び、習い、問い立てをする。 研究計画を批判的に検証し、学術的「新規性」を再定義してみる。</p>	<p>最新の関連論文(2025-26年発行)を1本以上精読し、要旨を作成する。(90分)</p>	<p>リサーチクエスト(RQ)を1行で明文化し、その独創性を記述してみる(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第2回</p>	<p>リサーチクエスト(RQ)と研究ギャップの再検討に関する学び、習い、問い立てをする。 研究計画を批判的に検証し、学術的「新規性」を再定義してみる。</p>	<p>最新の関連論文(2025-26年発行)を1本以上精読し、要旨を作成する。(90分)</p>	<p>リサーチクエスト(RQ)を1行で最適に明文化し、その独創性を記述してみる(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第3回</p>	<p>分析フレームワークの構築 (1)PEST分析やSWOT分析を用い、地域構造を多層的に図解する。</p>	<p>(1)統計データ等の二次資料を収集し、地域の現状を数値で整理しておく(90分以上)</p>	<p>(1)理論枠組みと具体的な分析項目の対応表(マトリックス)を作成しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第4回</p>	<p>分析フレームワークの構築 (2)PEST分析やSWOT分析を用い、地域構造を多層的に図解する。</p>	<p>(2)統計データ等の二次資料を収集し、地域の現状を数値で整理しておく(90分以上)</p>	<p>(2)理論枠組みと具体的な分析項目の対応表(マトリックス)を作成しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第5回</p>	<p>理論枠組みの精緻化 (1)社会関係資本論等を対象地域に適合するよう再構築する。</p>	<p>(1)採用理論の原典または主要文献を再読し、構成概念を抽出しておくこと(90分以上)</p>	<p>(1)独自の研究モデル図(概念図)を作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第6回</p>	<p>理論枠組みの精緻化 (2)社会関係資本論等を対象地域に適合するよう再構築する。</p>	<p>(2)採用理論の原典または主要文献を再読し、構成概念を抽出しておくこと(90分以上)</p>	<p>(2)独自の研究モデル図(概念図)を作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第7回</p>	<p>理論枠組みの精緻化 (3)社会関係資本論等を対象地域に適合するよう再構築する。</p>	<p>(3)採用理論の原典または主要文献を再読し、構成概念を抽出しておくこと(90分以上)</p>	<p>(3)独自の研究モデル図(概念図)を作成しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第8回</p>	<p>調査設計と研究倫理の徹底 (1)混合研究法の妥当性を検討し、実査のプロトコルを確定させる。</p>	<p>(1)調査票案またはインタビューガイドの詳細版を作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>(1)調査説明書および同意書を作成し、倫理的リスクを総点検しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第9回</p>	<p>調査設計と研究倫理の徹底 (2)混合研究法の妥当性を検討し、実査のプロトコルを確定させる。</p>	<p>(2)調査票案またはインタビューガイドの詳細版を作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>(2)調査説明書および同意書を作成し、倫理的リスクを総点検しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第10回</p>	<p>調査設計と研究倫理の徹底 (3)混合研究法の妥当性を検討し、実査のプロトコルを確定させる。</p>	<p>(3)調査票案またはインタビューガイドの詳細版を作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>(3)調査説明書および同意書を作成し、倫理的リスクを総点検しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第11回</p>	<p>質的データ分析の技法訓練 (1)予備調査データを用い、KJ法やコード化のプロセスを習得する。</p>	<p>(1)予備調査データの書き起こし(トランスクリプト)を完了させておくこと(90分以上)</p>	<p>(1)分析コードの体系図を作成し、妥当性を検討しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第12回</p>	<p>質的データ分析の技法訓練 (2)予備調査データを用い、KJ法やコード化のプロセスを習得する</p>	<p>(2)予備調査データの書き起こし(トランスクリプト)を完了させておくこと(90分以上)</p>	<p>(2)分析コードの体系図を作成し、妥当性を検討しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第13回</p>	<p>質的データ分析の技法訓練 (3)予備調査データを用い、KJ法やコード化のプロセスを習得する</p>	<p>(3)予備調査データの書き起こし(トランスクリプト)を完了させておくこと(90分以上)</p>	<p>(3)分析コードの体系図を作成し、妥当性を検討しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第14回</p>	<p>地域ナラティブの分析 (1)地域の語りを言説分析の観点から構造化し、深層心理や権力性を探る。</p>	<p>(1)言説分析の代表的な既存研究を読み、分析の手順を書き出しておくこと。(90分以上)</p>	<p>(1)自身のデータから抽出の「主要な言説」を一覧化しておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第15回</p>	<p>地域ナラティブの分析 (2)地域の語りを言説分析の観点から構造化し、深層心理や権力性を探る。</p>	<p>(2)言説分析の代表的な既存研究を読み、分析の手順を書き出しておくこと。(90分以上)</p>	<p>(2)自身のデータから抽出の「主要な言説」を一覧化しておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第16回</p>	<p>地域ナラティブの分析 (3)地域の語りを言説分析の観点から構造化し、深層心理や権力性を探る。</p>	<p>(3)言説分析の代表的な既存研究を読み、分析の手順を書き出しておくこと。(90分以上)</p>	<p>(3)自身のデータから抽出の「主要な言説」を一覧化しておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第17回</p>	<p>分析ツールの高度活用 (1)質的分析ソフト(NVivo等)や統計ツールの操作を実習する。</p>	<p>(1)ソフトの基本操作をマニュアル等で確認し、データ案を投入してみること(90分以上)</p>	<p>(1)分析結果を適切な形式の図表(グラフ等)として出力してみること(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第18回</p>	<p>分析ツールの高度活用 (2)質的分析ソフト(NVivo等)や統計ツールの操作を実習する。</p>	<p>(2)ソフトの基本操作をマニュアル等で確認し、データ案を投入してみること(90分以上)</p>	<p>(2)分析結果を適切な形式の図表(グラフ等)として出力してみること(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第19回</p>	<p>分析ツールの高度活用 (3)質的分析ソフト(NVivo等)や統計ツールの操作を実習する。</p>	<p>(3)ソフトの基本操作をマニュアル等で確認し、データ案を投入してみること(90分以上)</p>	<p>(3)分析結果を適切な形式の図表(グラフ等)として出力してみること(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第20回</p>	<p>プロポーザルの完成と発表 (1)本講義の集大成として、最適な研究計画を提示し承認を得る。</p>	<p>(1)発表会基準の発表資料(スライド等)を作成すること(90分以上)</p>	<p>(1)質疑での指摘事項を反映し、実施計画書を最終修正すること(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第21回</p>	<p>プロポーザルの完成と発表 (2)本講義の集大成として、最適な研究計画を提示し承認を得る。</p>	<p>(2)発表会基準の発表資料(スライド等)を作成すること(90分以上)</p>	<p>(2)質疑での指摘事項を反映し、実施計画書を最終修正すること(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第22回	プロポーザルの完成と発表 (3)本講義の集大成として、最適な研究計画を提示し承認を得る。	(3)発表会基準の発表資料(スライド等)を作成すること(90分以上)	(3)質疑での指摘事項を反映し、実施計画書を最終修正すること(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第23回	論文を提出し、研究内容の概要・重要ポイントをプレゼンする。 論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表すること。	発表会基準の発表資料(スライド等)を作成、完成させること(90分以上)	質疑での指摘事項を反映し、実施計画書、修士論文を最終修正すること(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出(100%)とする。
その他	0	
<b>教科書</b>		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)のほか、講義資料は配布(配信)する。		
<b>参考文献</b>		
研究内容に関する先行研究や関連する先駆的な最新事例を適宜紹介していく。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

各種資料や文献収集に積極的に取り組むこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I 《秋入学者用》(小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	3
担当教員	小西 正人						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究 II」に連動する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。                      受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、根拠を明示し論証するより良い方法を学ぶとともに、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 専門研究領域について具体的に解説できる。
2. よい論文とは何かが説明できる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。

**授業の方法**

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。  
特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

**ICT活用**

適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			

第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			
第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

<p>第7回</p>	<p>学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。</p>	<p>論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)</p>	<p>論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。</p>	<p>研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。</p>	<p>研究発表会用のプレゼンテーション準備しておくこと(90分以上)</p>	<p>発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告し、公開発表会への準備をしておく。</p>	<p>研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)</p>	<p>論文をどんどん書き進めていく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>修士論文の書き方および構成を再度点検し、全体の30%程度「完成」したものを提出し、指導を受ける。</p>	<p>本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)</p>	<p>論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。</p>	<p>40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)</p>	<p>これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。</p>	<p>40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)</p>	<p>書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文作成 いったん全体を読み返してみる。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第16回</p>	<p>参考文献の書き方を再チェックし、不備がないかどうか確認する。</p>	<p>参考文献に不備がないか確認しておく(30分)</p>	<p>不備があった参考文献を正しい書式で書き直す(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第17回</p>	<p>論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第18回</p>	<p>先行研究のまとめについて確認する。特に先行研究の読み違いがないかどうか、改めて読み込んで確認する。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第19回</p>	<p>大きな論の流れに齟齬や無駄がないかどうか、ストーリーとして話してみ確認する。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第20回</p>	<p>発表準備を行う。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第21回</p>	<p>先行文献に見落としがないか、さらに最新の研究がないか、インターネットだけでなく図書館でも確認する。</p>	<p>少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第22回	これまでの執筆部分を読み直し、論拠不十分の部分や論証の飛躍がないか、あるいは説明不足の部分がないか確かめる。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	
<b>教科書</b>		
プリントを配布／配信する。		
<b>参考文献</b>		
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	3
担当教員	青 晴海						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>優れた修士論文完成に向かって、専門研究を深め研究者としての研究姿勢を身につけるための科目である。                      「研究方法論A・B」「特別課題研究Ⅰ」の発展科目。                      本講義は、「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。(知識・技能)」「各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」というディプロマポリシーに関連する講義として位置付けられる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>修士論文完成のための具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを当日または前日に教員に提出し、その論文の不備や問題で指導を受けた部分を修正・加筆していく。受講生主体の指導型・研究共有型で授業を進めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文提出日までに、修士論文にふさわしい内容で、3万字以上の論文を書くことができる。
2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 資料収集や調査活動では人権的配慮ができる。
5. 学んだ専門研究を社会に還元できる。

**授業の方法**

基本的に個別指導で修士論文を完成してもらい、受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、批判的読解の上で引用し、どんどん論文執筆を進めてもらう。

**ICT活用**

適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

各回提出の論文執筆部分については、授業内に口頭で指導するだけでなく、課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	中間発表会に向けての準備(その1) 夏季休暇中の研究の進展を報告する。	進展報告をまとめる(90分)	指摘された箇所について調査・研究を進める(90分)
担当教員			
第2回	中間発表会に向けての準備(その2) 前回の指摘に応じた対応について報告する。	授業内発表の準備(90分)	中間発表会に向けてストーリーをまとめる(90分)
担当教員			
第3回	中間発表会に向けての準備(その3) パワーポイント発表に向けて基本的な事項を学ぶ	パワーポイントの使い方について復習をしておく(30分)	中間発表会に向けてスライドの基礎作成(150分)
担当教員			

第4回	中間発表会に向けての準備(その4) スライドを準備しながら内容と形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備 (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第5回	中間発表に向けての準備(その5) 発表用スライドを確認し、形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備 (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第6回	中間発表に向けての準備(その6) 発表の予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			

<p>第7回</p>	<p>中間発表に向けての準備(その7) 前回の指摘を受け、再度の発表予行演習を行う</p>	<p>中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)</p>	<p>中間発表会用のスライドの準備 (90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>受講院生は中間発表で指導、忠告されたことをふまえてどこまで書けたかを報告する。</p>	<p>中間発表時の改訂版を作成し ておくこと(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分を改定してお くこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>第2回目の論文作成経過報告を行う。資料収集が難しいものについては、図書館で検索方法の追加演習を行う。</p>	<p>論文を書き進め、1章分は完成 しておくこと(90分以上)</p>	<p>論文を書き進め、指導を受けた 部分を(90分以上)調べ、補完し ておくこと(120分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>論文の1・2章の内容について、具体的な指導を受けるながら同章についてはほぼ完成に至る指導を受ける。</p>	<p>論文を書き進め、1・2章分を完成できるようにしておくこと(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分の訂正・追加をしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>論文の5割が「完成」してあることを前提に指導を受ける。章構成の見直しがある場合は、そのための別紙案を提出する。</p>	<p>論文の5割を完成させておくこと(90分以上)</p>	<p>どンドン論文を「完成」に近づけておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>提出論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。</p>	<p>論文の6割以上、完成させておくこと(90分以上)</p>	<p>問題点はクリアにしておくこと。論文を「完成」しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。</p>	<p>論文の7割以上、完成させておくこと(90分以上)</p>	<p>どんどん論文執筆を進めておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>公開発表会のための原稿作成およびその書き方について指導する。あわせて個々に論文指導を受ける。</p>	<p>論文の8割以上、完成させておくこと(180分以上)</p>	<p>副指導教員の研究指導を受けておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>発表原稿の内容・構成について話し合う。</p>	<p>論文発表用のハンドアウトを作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第16回</p>	<p>発表会の予行演習を行う。 論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。</p>	<p>論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>調査研究部分は、明瞭に示せるように図表化しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第17回</p>	<p>発表会で指摘されたことについてどこまで修正できたかを発表する。</p>	<p>論文の9割以上は完成させておくこと(90分以上)</p>	<p>構成・引用部分を見直し、論文を完成しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第18回</p>	<p>修士論文の仕上げについて報告する。</p>	<p>引用文献も含めて論文を完成させておくこと(90分以上)</p>	<p>論文の9割は見直しが終了しているようにする(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第19回</p>	<p>各自が十分見直した上での論文を提出する(第一次提出)。</p>	<p>論文を完成させ、目次等体裁の確認して提出できるようにしておくこと(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第20回</p>	<p>修正・追加が必要な部分の指導を受ける。</p>	<p>完成論文を提出できるようにしておくこと(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分は丁寧に加筆しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第21回</p>	<p>論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。</p>	<p>より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第22回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			
第23回	最終的なチェックを受けた論文を提出し、口頭試験に向けての概要作成のチェックを受ける。	論文口頭発表のための準備をしておくこと(90分以上)	論文提出後にも指導があるので、完全な論文になるよう改善しておくこと(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	
<b>教科書</b>		
使用しません。		
<b>参考文献</b>		
研究テーマに関する書籍や論文を適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

授業以外にも論文指導を行うので、どんどん論文作成を進め、研究の進捗状況が報告できるようにすること

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	3
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

受講生の研究対象とする各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている(知識・技能)ことを目的とし、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)ことを課する科目である。「研究方法論A・B」「特別課題研Ⅰ」に連動する科目である。

授業の概要

修士論文完成のために対面で具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを授業時まで提出し、助言や指導を受け、次回までに修正・加筆しながら研究を進めていく。毎回、論文の不備や問題点など、前回指導を受けた部分を修正・加筆し、さらに論文を書き進めた部分を助言・指導し、論文構成をみていく。

到達目標

1. 修士論文提出日までに、論文にふさわしい内容で、3万字程度の論文を書くことができる。
2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文執筆や調査活動等、研究倫理を守ることができる。

### 授業の方法

基本的に対面の個別指導で、修士論文を完成できるように、研究の助言・指導を行っていく。  
受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、レポートにしたり論文にしたりして授業に臨み、指導を受けながら研究を深め、論文執筆を進めてもらう。

### ICT活用

課題および課外の質疑応答はGoogle Classroomを活用する。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

### 課題に対するフィードバックの方法

各回提出の論文に関する執筆物については、授業で加筆コメントを記すだけでなく口頭で補足指導する。課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて個別返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>受講生は修士論文の6割が完成していることを前提に、これまでの執筆部分を清書して提出し、助言・指導を受ける。</p>	<p>「特別課題研究Ⅰ」で修正・加筆を求められた部分は修正し、論文の6割を完成状態にしておくこと。(90分以上)</p>	<p>論文完成に向かっての今後の研究計画を立て、完成したところまでの論文を再度見直しておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>論文作成の最終計画と経過報告を行う。資料収集が難しいものについては検討を行う。</p>	<p>論文を書き進め、7割完成に向かって書き進めておくこと(90分以上)</p>	<p>論文をどんどん書き進めていく。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>論文の7割完成に向かって、書けたところまで指導を受ける。</p>	<p>新たな資料・参考文献をまとめながら、どんどん書いて7割完成に向かう。(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分を修正し、参考文献の追加をしておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第4回	論文のほぼ7割を完成し、中間発表を見据えた論文の焦点が十分かを再検討する。	論文の7割を完成させておくこと。(90分以上)	どんどん論文を7割「完成」に近づけ、中間発表の準備をしておくこと(90分以上)
担当教員			
第5回	論文の7割完成のもと、指導を受ける。論文の中間発表内容について説明し、構成・内容等の確認をする。	論文の中間発表用レジユメを作成しておくこと。(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく。(90分以上)
担当教員			
第6回	これまでに書けた論文(70%以上)の内容について質疑応答し、助言・指導を受ける。中間発表内容についてチェックを受ける。	中間発表用のスライドを作成しておく。論文の8割完成に向かって、書いていく。(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておく(90分以上)
担当教員			

第7回	論文の8割完成に向かって、書けたところまで指導を受ける。	論文の8割の完成に向かって、 どんどん書いていく。(90分以上)	副指導教員にも研究内容等の 指導を受け、再考しておくこと。(90分以上)
担当教員			
第8回	論文の8割完成に向かって、書けたところまで指導を受ける。 また内容・構成について再検討していく。	どんどん書いていく。(90分以上)	新たな引用・参考文献の整理を しながら、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第9回	論文がほぼ8割完成していることを前提に指導を受ける。	論文を8割完成させる。(90分以上)	指導を受けた部分の修正・補足 しておく。
担当教員			

第10回	論文の8割が完成し、さらに書けたところまで指導を受ける。	論文の8割を「完全」に完成させておく。(90分以上)	再度論文全体の見直しをして、修正・補足しておく。(90分以上)
担当教員			
第11回	論文の9割完成に向かって、書けたところまでの指導を受ける。	論文をどんどん書いていく。(90分以上)	追加資料や参考文献の精読をしながら、書き進めていく。(90分以上)
担当教員			
第12回	論文9割完成に向かって、新たな参考文献を追加しながら、書けたところまで指導を受ける。	新たに収集した資料・文献をよく読み、どんどん研究を進めていく。(90分以上)	引用・参考文献リストを確認し、執筆を進める。(90分以上)
担当教員			

第13回	論文9割完成に向かって、新たな参考文献を追加しながら、書けたところまで指導を受ける。	新たに収集した資料・文献をよく読み、どんどん研究を進めていく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第14回	論文の9割完成に向かって、書いたところまで提出し、指導を受ける。	執筆を進めながら、追加引用・参考文献の整理しておく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第15回	論文の9割完成に向かって、書けたところまで提出し、指導を受ける。	執筆を進めながら、追加の引用・参考文献の整理しておく。(90分以上)	構成・引用等を確認し、これまでの論文の体裁をほぼ完成しておくこと。(90分以上)
担当教員			

第16回	論文の9割完成を前提に指導を受ける。 最終章の構成と内容を説明する。	完成した9割を提出できるようにしておく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第17回	論文完成に向かって、書けたところまでの指導を受ける。	副指導教員にも指導を受けながら どんどん書いていく。(90分以上)	ここまでの論文全体の構成を再 確認しながら執筆を進める。(90 分以上)
担当教員			
第18回	書けたところまでの指導を受け、修士論文の仕上げ状況について報告する。	引用文献も含めて論文を完成させておくこと。(90分以上)	指導を受けたすべての部分は、 必ず加筆・修正しておく。(90分 以上)
担当教員			

<p>第19回</p>	<p>論文をほぼ完成した状態で、修正・追加が必要な部分の指導を受ける。</p>	<p>完成論文を提出できるようにしておくこと。(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分は、必ず再考し、文献に当たって加筆・修正しておく。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第20回</p>	<p>論文は完成状態であることを前提として、指導を受ける。全体の構成を含めて修正・追加が必要な部分等の確認をする。</p>	<p>完成論文を提出できるように見直して加筆・修正しておくこと。(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておく。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第21回</p>	<p>完成論文を再度修正して提出し、チェックを受ける。各章についての要約を書き、構成等の見直しを行う。</p>	<p>より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと。(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第22回	書き直した論文を提出して指導を受ける。 最終口頭試験についての発表スライド作成の指導も受ける。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと。また最終口頭試験の発表スライドの準備をしておく。(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと。(90分以上)
担当教員			
第23回	完成論文を再提出し、論文概要を口頭説明できるようにする。	完成論文の提出と、各章の要約文を作成しておくこと。(90分以上)	最終口頭試験のスライドに合わせた発表練習をしておく。(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>修士論文作成のプロセスと完成度100%</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>教科書は使用しない。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>論文の書き方は、研究テーマの学会書式に従い、論文作成に関する文献等は適宜紹介する。</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		

中間発表会のエントリーは論文の7割以上が完成していることを条件とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	3
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

本授業は、「特別課題研究Ⅰ」で作成した研究計画に基づき、実際の調査・分析を行い、修士論文を完成させるための研究指導科目である。受講生は、Ⅰで設定した研究課題と研究方法をもとに、フィールドワーク、インタビュー調査、文献研究、統計分析などを実施し、得られたデータを学術的に分析・考察する。その成果を修士論文として体系的にまとめるとともに、研究成果を学会発表や修士論文公聴会などで発表できる能力を養う。また、学術的な論理構成や表現方法を磨きながら、各領域の主要言語による文献読解や論文執筆を通して、高度な学術的言語運用能力の向上を図る。

授業の概要

本授業では、修士論文完成に向けて、研究データの収集、分析、論文執筆を段階的に指導する。受講生は、調査によって得られたデータを整理・分析し、研究仮説との関係を検討しながら、研究結果を学術論文としてまとめる。また、先行研究との比較を通して、本研究の新規性や学術的意義を明確にする。さらに、論文の構成、論理展開、引用方法などを精査し、修士論文として求められる水準まで完成度を高めるとともに、研究成果を口頭発表できる能力を養う。

到達目標

1. 研究計画に基づいて調査・分析を実施し、研究データを適切に整理・解釈できる。
2. 研究結果を論理的に考察し、学術的根拠に基づいて結論を導くことができる。
3. 研究成果を体系的にまとめ、修士論文として完成させることができる。
4. 自身の研究内容を学術的に説明し、口頭発表および質疑応答に対応できる。

### 授業の方法

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

### ICT活用

適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の関係資料や参考サイトなどを共有する。

### 実務経験のある教員の教育内容

これまで、東京大学大学院非常勤講師・客員教授(修士課程・博士課程)、長崎県立大学大学院(博士課程)等で、学術論文の書き方等を、学び、習い、問い立てを中心に指導してきている。

### 課題に対するフィードバックの方法

課題提出は、当日に口頭で指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション                  学術研究の作法、フィールドワーク・調査の実施に関する                  学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>調査機材・配布資料・質問項目                  の確認をしておく(90分)</p>	<p>調査ログ(フィールドノート)を整理                  しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第2回</p>	<p>データ収集のあり方に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>現時点のデータ収集の数値を                  整理しておく(90分以上)</p>	<p>不足データの補完計画を立てて                  おく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第3回</p>	<p>収集データのテキスト化とコード化に関する学び、習い、問                  い立てをする。</p>	<p>音声データの文字起こし(トラン                  スクリプト)の効率化を確認して                  おく(90分以上)</p>	<p>テキストの最適なコード化を確認                  しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第4回</p>	<p>地域空間の可視化分析に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>ソーシャルネットワーク図の作成方法を確認しておく(90分以上)</p>	<p>文章と図表の連動性を確認しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第5回</p>	<p>論文の記述の整合性に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>調査対象者への内容確認のあり方を確認しておくこと(90分以上)</p>	<p>調査対象者へのフィードバックの記述の精緻化を確認しておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第6回</p>	<p>分析手法のKJ法の構造化に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>コード化した情報をカード化しておく(90分以上)</p>	<p>定義、概念のグループ化とラベル付けをしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第7回</p>	<p>詳細な言説や内容分析に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>文脈(コンテキスト)の意味を深掘りしておくこと(90分以上)</p>	<p>キーワード間の相関関係を整理しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第8回</p>	<p>統計・実証データの処理方法に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>統計ソフトのよる記述内容の確認をしておくこと(90分以上)</p>	<p>分析結果(図表・グラフ)を作成しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第9回</p>	<p>理論とデータの対話、理論的考察に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>これまでに学んだ理論を再読しておくこと(90分以上)</p>	<p>データから新たな発見がないか確認しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第10回	研究知見の要約に関する学び、習い、問い立てをする。	研究内容の柱を3つに集約して みること(90分以上)	知見の社会的・学術的貢献を文章化してみる こと(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第11回	論文構成(詳細目次)に関する学び、習い、問い立てをする。	論文全体の章・節・項を詳細に 確認しておくこと(90分以上)	論文全体のページ数の配分(文字数)の 確認をしておくこと(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第12回	論文執筆 先行研究・理論に関する学び、習い、問い立てをする。	文献レビュー一覧表を作成して おく(90分以上)	引用内容を確認しておくこと(90 分以上)
担当教員	木村 俊昭		

<p>第13回</p>	<p>論文執筆 調査・分析手法に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>実施した調査手順を具体的に 確認しておくこと(90分以上)</p>	<p>再現性ある記述となっているか 確認しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第14回</p>	<p>論文執筆 分析結果の記述に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>図表・グラフを配置し、客観性を 確認しておくこと(90分以上)</p>	<p>記述中に主観が混ざっていないか かを確認しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文執筆 序論・背景に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>現時点の背景を最新データで 更新してみること(90分以上)</p>	<p>論文の導入部を学術的に記述 してみること(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第16回</p>	<p>論文執筆 考察・結論に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>データ分析結果の意味を論理的に確認してみること(90分以上)</p>	<p>序論の「問い」に最適に答えているかを確認しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第17回</p>	<p>推敲と表現修正に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>パラグラフ・ライティング、分かりやすい文章になっているか確認しておくこと(90分以上)</p>	<p>曖昧な表現がないか、定義を説明しているか、確認しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第18回</p>	<p>修士論文の初稿(フルペーパー)に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>全章を統合し、要旨(抄録)を作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>序論から結論までの一貫性を自己評価、確認しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第19回</p>	<p>論文内容に関する教員(例えば、副査等)との情報交換をしておくこと(60分)</p>	<p>指摘事項等を参考に加筆修正をしておくこと(90分以上)</p>	<p>指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第20回</p>	<p>学術論文の形式チェック(レギュレーション)に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>参考文献一覧表との完全一致するかを確認しておくこと(90分以上)</p>	<p>注釈・図表番号・ページ番号の最終確認をしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第21回</p>	<p>論理の最終整合(ロジックチェック)に関する学び、習い、問い立てをする。</p>	<p>論文全体の矛盾点を洗い出しておくこと(90分以上)</p>	<p>「はじめに」「おわりに」の呼応、分かりやすい内容になっているかを再確認しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第22回	論文を読み直し、論拠不十分の部分や論証の飛躍がないか、は説明不足の部分がないか、最終確認をする。発表会対策に関する学び、習い、問い立てをする。	プレゼン資料と質疑応答修を作成しておくこと(90分以上)	発表練習を通じて時間廃部を確認しておくこと(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第23回	最終原稿内容の発表と提出、総括する、	論文全体を再度、読み直し、特に誤字脱字の最終確認をしておくこと(90分以上)	研究プロセスを通じての自分自身の成長度を総括してみること(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出(100%)とする。
その他	0	
<b>教科書</b>		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)のほか、随時、プリントを配布(配信)する。		
<b>参考文献</b>		
研究テーマ内容に関する先行研究や先駆的な最新事例を適宜紹介していく。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

関連資料や文献収集を地道に取り組むこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ《秋入学者用》(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	3
担当教員	青 晴海						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>優れた修士論文完成に向かって、専門研究を深め研究者としての研究姿勢を身につけるための科目である。                      「研究方法論A・B」「特別課題研究Ⅰ」の発展科目。                      本講義は、「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。(知識・技能)」「各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」というディプロマポリシーに関連する講義として位置付けられる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>修士論文完成のための具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを当日または前日に教員に提出し、その論文の不備や問題で指導を受けた部分を修正・加筆していく。受講生主体の指導型・研究共有型で授業を進めていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 論文提出日までに、修士論文にふさわしい内容で、3万字以上の論文を書くことができる。
2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 資料収集や調査活動では人権的配慮ができる。
5. 学んだ専門研究を社会に還元できる。

### 授業の方法

基本的に個別指導で修士論文を完成してもらい、  
受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、批判的読解の上で引用し、どんどん論文執筆を進めてもらう。

### ICT活用

適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。

### 実務経験のある教員の教育内容

該当なし

### 課題に対するフィードバックの方法

各回提出の論文執筆部分については、授業内に口頭で指導するだけでなく、課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	中間発表会に向けての準備(その1) 夏季休暇中の研究の進展を報告する。	進展報告をまとめる(90分)	指摘された箇所について調査・研究を進める(90分)
担当教員			
第2回	中間発表会に向けての準備(その2) 前回の指摘に応じた対応について報告する。	授業内発表の準備(90分)	中間発表会に向けてストーリーをまとめる(90分)
担当教員			
第3回	中間発表会に向けての準備(その3) パワーポイント発表に向けて基本的な事項を学ぶ	パワーポイントの使い方について復習をしておく(30分)	中間発表会に向けてスライドの基礎作成(150分)
担当教員			

第4回	中間発表会に向けての準備(その4) スライドを準備しながら内容と形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備 (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第5回	中間発表に向けての準備(その5) 発表用スライドを確認し、形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備 (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第6回	中間発表に向けての準備(その6) 発表の予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			

<p>第7回</p>	<p>中間発表に向けての準備(その7) 前回の指摘を受け、再度の発表予行演習を行う</p>	<p>中間発表会用のスライドおよび話す内容の準備・リハーサル(90分)</p>	<p>中間発表会用のスライドの準備(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>受講院生は中間発表で指導、忠告されたことをふまえてどこまで書けたかを報告する。</p>	<p>中間発表時の改訂版を作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分を改定しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>第2回目の論文作成経過報告を行う。資料収集が難しいものについては、図書館で検索方法の追加演習を行う。</p>	<p>論文を書き進め、1章分は完成しておくこと(90分以上)</p>	<p>論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)</p>
<p>担当教員</p>			

第10回	論文の1・2章の内容について、具体的な指導を受けるながら同章についてはほぼ完成に至る指導を受ける。	論文を書き進め、1・2章分を完成できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分の訂正・追加をしておくこと(90分以上)
担当教員			
第11回	論文の5割が「完成」してあることを前提に指導を受ける。章構成の見直しがある場合は、そのための別紙案を提出する。	論文の5割を完成させておくこと(90分以上)	どンドン論文を「完成」に近づけておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	提出論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の6割以上、完成させておくこと(90分以上)	問題点はクリアにしておくこと。論文を「完成」しておくこと(90分以上)
担当教員			

<p>第13回</p>	<p>訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。</p>	<p>論文の7割以上、完成させておくこと(90分以上)</p>	<p>どんどん論文執筆を進めておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>公開発表会のための原稿作成およびその書き方について指導する。あわせて個々に論文指導を受ける。</p>	<p>論文の8割以上、完成させておくこと(180分以上)</p>	<p>副指導教員の研究指導を受けておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>発表原稿の内容・構成について話し合う。</p>	<p>論文発表用のハンドアウトを作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第16回</p>	<p>発表会の予行演習を行う。 論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。</p>	<p>論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)</p>	<p>調査研究部分は、明瞭に示せるように図表化しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第17回</p>	<p>発表会で指摘されたことについてどこまで修正できたかを発表する。</p>	<p>論文の9割以上は完成させておくこと(90分以上)</p>	<p>構成・引用部分を見直し、論文を完成しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第18回</p>	<p>修士論文の仕上げについて報告する。</p>	<p>引用文献も含めて論文を完成させておくこと(90分以上)</p>	<p>論文の9割は見直しが終了しているようにする(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第19回</p>	<p>各自が十分見直した上での論文を提出する(第一次提出)。</p>	<p>論文を完成させ、目次等体裁の確認して提出できるようにしておくこと(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第20回</p>	<p>修正・追加が必要な部分の指導を受ける。</p>	<p>完成論文を提出できるようにしておくこと(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分は丁寧に加筆しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第21回</p>	<p>論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。</p>	<p>より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第22回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			
第23回	最終的なチェックを受けた論文を提出し、口頭試験に向けての概要作成のチェックを受ける。	論文口頭発表のための準備をしておくこと(90分以上)	論文提出後にも指導があるので、完全な論文になるよう改善しておくこと(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	
<b>教科書</b>		
使用しません。		
<b>参考文献</b>		
研究テーマに関する書籍や論文を適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

授業以外にも論文指導を行うので、どんどん論文作成を進め、研究の進捗状況が報告できるようにすること

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ《秋入学者用》(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	3
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

受講生の研究対象とする各領域の専門分野に関する専門知識および技能を修める(知識・技能)ことを目的とし、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)ことを課する科目である。  
「研究方法論A・B」「特別課題研Ⅰ」に連動する科目である。

授業の概要

修士論文完成のために対面で具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを授業時まで提出し、助言や指導を受け、次回までに修正・加筆しながら研究を進めていく。毎回、論文の不備や問題点など、前回指導を受けた部分を修正・加筆し、さらに論文を書き進めた部分を助言・指導し、論文構成をみていく。

到達目標

1. 修士論文提出日までに、論文にふさわしい内容で、3万字程度の論文を書くことができる。
2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文執筆や調査活動等、研究倫理を守ることができる。

**授業の方法**

修士論文が完成できるように、対面指導で、研究の助言・指導を行っていく。  
 受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、レポートにしたり論文にしたりして授業に臨み、指導を受けながら研究を深め、論文執筆を進めてもらう。

**ICT活用**

課題および資料情報の参考提示、課外の質疑応答はGoogle Classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当しない。

**課題に対するフィードバックの方法**

各回提出の論文に関する執筆物については、授業で加筆コメントを記すだけでなく口頭で補足指導する。課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて個別返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	受講生は修士論文の6割が完成していることを前提に、これまでの執筆部分を清書して提出し、助言・指導を受ける。	「特別課題研究Ⅰ」で修正・加筆を求められた部分は修正し、論文の6割を完成状態にしておくこと。(90分以上)	論文完成に向かっての今後の研究計画を立て、完成したところまでの論文を再度見直しておくこと。(90分以上)
担当教員			
第2回	論文作成の最終計画と経過報告を行う。資料収集が難しいものについては検討を行う。	論文を書き進め、7割完成に向かって書き進めておくこと(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく。(90分以上)
担当教員			
第3回	論文の7割完成に向かって、書けたところまで指導を受ける。	新たな資料・参考文献をまとめながら、どんどん書いて7割完成に向かう。(90分以上)	指導を受けた部分を修正し、参考文献の追加をしておくこと。(90分以上)
担当教員			

第4回	論文のほぼ7割を完成し、中間発表を見据えた論文の焦点が十分かを再検討する。	論文の7割を完成させておくこと。(90分以上)	どんどん論文を7割「完成」に近づけ、中間発表の準備をしておくこと(90分以上)
担当教員			
第5回	論文の7割完成のもと、指導を受ける。論文の中間発表内容について説明し、構成・内容等の確認をする。	論文の中間発表用レジュメを作成しておくこと。(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく。(90分以上)
担当教員			
第6回	これまでに書けた論文(70%以上)の内容について質疑応答し、助言・指導を受ける。中間発表内容についてチェックを受ける。	中間発表用のスライドを作成しておく。論文の8割完成に向かって、書いていく。(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておく(90分以上)
担当教員			

第7回	論文の8割完成に向かって、書けたところまで指導を受ける。	論文の8割の完成に向かって、 どんどん書いていく。(90分以上)	副指導教員にも研究内容等の 指導を受け、再考しておくこと。(90分以上)
担当教員			
第8回	論文の8割完成に向かって、書けたところまで指導を受ける。 また内容・構成について再検討していく。	どんどん書いていく。(90分以上)	新たな引用・参考文献の整理を しながら、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第9回	論文がほぼ8割完成していることを前提に指導を受ける。	論文を8割完成させる。(90分以上)	指導を受けた部分の修正・補足 しておく。(90分以上)
担当教員			

第10回	論文の8割が完成した状態で、指導を受ける。	論文の8割が完成し、さらに書けたところまで指導を受ける。(90分以上)	再度論文全体の見直しをして、修正・補足しておく。(90分以上)
担当教員			
第11回	論文の9割完成に向かって、書けたところまでの指導を受ける。	論文をどんどん書いていく。(90分以上)	追加資料や参考文献の精読をしながら、書き進めていく。(90分以上)
担当教員			
第12回	論文9割完成に向かって、新たな参考文献を追加しながら、書けたところまで指導を受ける。	新たに収集した資料・文献をよく読み、どんどん研究を進めていく。(90分以上)	引用・参考文献リストを確認し、執筆を進める。(90分以上)
担当教員			

第13回	論文9割完成に向かって、新たな参考文献を追加しながら、書けたところまで指導を受ける。	新たに収集した資料・文献をよく読み、どんどん研究を進めていく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第14回	論文の9割完成に向かって、書いたところまで提出し、指導を受ける。	執筆を進めながら、追加引用・参考文献の整理をしておく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第15回	論文の9割完成に向かって、書けたところまで提出し、指導を受ける。	執筆を進めながら、追加の引用・参考文献の整理をしておく。(90分以上)	構成・引用等を確認し、これまでの論文の体裁をほぼ完成しておくこと。(90分以上)
担当教員			

第16回	論文の9割完成を前提に指導を受ける 最終章の構成と内容を説明する。	完成した9割を提出できるように しておく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上 )
担当教員			
第17回	論文完成に向かって、書けたところまでの指導を受ける。	副指導教員にも指導を受けながら どんどん書いていく。(90分以上)	ここまでの論文全体の構成を再 確認しながら執筆を進める。(90 分以上)
担当教員			
第18回	修士論文の仕上がり状況について報告する。	引用文献も含めて論文を完成さ せておくこと。(90分以上)	指導を受けたすべての部分は、 必ず加筆・修正しておく。(90分 以上)
担当教員			

<p>第19回</p>	<p>論文をほぼ完成した状態で、修正・追加が必要な部分の指導を受ける。</p>	<p>論文をほぼ完成した状態で提出できるようにしておく。(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分は、必ず再考し、文献に当たって加筆・修正しておく。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第20回</p>	<p>論文は完成状態であることを前提として、指導を受ける。全体の構成を含めて修正・追加が必要な部分等の確認をする。</p>	<p>完成論文を提出できるように見直して加筆・修正しておくこと。(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておく。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第21回</p>	<p>完成論文を再度修正して提出し、チェックを受ける。各章についての要約を書き、構成等の見直しを行う。</p>	<p>より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと。(90分以上)</p>	<p>指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

第22回	書き直した論文を提出して指導を受ける。 最終口頭試験についての発表スライド作成の指導も受ける。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと。また最終口頭試験の発表スライドの準備をしておく。(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと。(90分以上)
担当教員			
第23回	完成論文を再提出し、論文概要を口頭説明できるようにする。	完成論文の提出と、各章の要約文を作成しておくこと。(90分以上)	最終口頭試験のスライドに合わせた発表練習をしておく。(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	
<b>教科書</b>		
教科書は使用しない。		
<b>参考文献</b>		
論文の書き方は、研究テーマの学会書式に従い、論文作成に関する文献等は適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

中間発表会のエントリーは論文の7割以上が完成していることを条件とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ《秋入学者用》(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	3
担当教員	木村 俊昭						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>本授業は、「特別課題研究Ⅰ」で作成した研究計画に基づき、実際の調査・分析を行い、修士論文を完成させるための研究指導科目である。受講生は、Ⅰで設定した研究課題と研究方法をもとに、フィールドワーク、インタビュー調査、文献研究、統計分析などを実施し、得られたデータを学術的に分析・考察する。その成果を修士論文として体系的にまとめるとともに、研究成果を学会発表や修士論文公聴会などで発表できる能力を養う。また、学術的な論理構成や表現方法を磨きながら、各領域の主要言語による文献読解や論文執筆を通して、高度な学術的言語運用能力の向上を図る。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>本授業では、修士論文完成に向けて、研究データの収集、分析、論文執筆を段階的に指導する。受講生は、調査によって得られたデータを整理・分析し、研究仮説との関係を検討しながら、研究結果を学術論文としてまとめる。また、先行研究との比較を通して、本研究の新規性や学術的意義を明確にする。さらに、論文の構成、論理展開、引用方法などを精査し、修士論文として求められる水準まで完成度を高めるとともに、研究成果を口頭発表できる能力を養う。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 研究計画に基づいて調査・分析を実施し、研究データを適切に整理・解釈できる。
2. 研究結果を論理的に考察し、学術的根拠に基づいて結論を導くことができる。
3. 研究成果を体系的にまとめ、修士論文として完成させることができる。
4. 自身の研究内容を学術的に説明し、口頭発表および質疑応答に対応できる。

### 授業の方法

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。  
特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式とする。

### ICT活用

適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。

### 実務経験のある教員の教育内容

これまで、東京大学大学院非常勤講師・客員教授(修士課程・博士課程)、長崎県立大学大学院(博士課程)等で、学术论文の書き方等を、学び、習い、問い立てを中心に指導してきている。

### 課題に対するフィードバックの方法

課題提出は、当日に口頭で指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	<p>ガイダンス、データの「詳細な記述」の重要性 調査データを整理し、文脈を重視した詳細な記述を行う。</p>	<p>一次資料(録音、メモ、写真等) を系統的にフォルダ管理をして みる(90分)</p>	<p>記述の客観性を担保するため、 エビデンスに基づく年表等を作 成する(90分)</p>
担当教員	木村 俊昭		
第2回	<p>データの「詳細な記述」の重要性 (1)調査データを整理し、文脈を重視した詳細な記述を行う。 。</p>	<p>(1)一次資料(録音、メモ、写真 等)を系統的にフォルダ管理を してみる(90分)</p>	<p>(1)記述の客観性を担保するた め、エビデンスに基づく年表等 を作成する(90分)</p>
担当教員	木村 俊昭		
第3回	<p>データの「詳細な記述」の重要性 (2)調査データを整理し、文脈を重視した詳細な記述を行い、 整理してみる。</p>	<p>(2)一次資料(録音、メモ、写真 等)を系統的にフォルダ管理を してみる(90分)</p>	<p>(2)記述の客観性を担保するた め、エビデンスに基づく年表等 を作成する(90分)</p>
担当教員	木村 俊昭		

<p>第4回</p>	<p>実証分析と仮説検証 (1)理論枠組みに基づき、データの傾向や相関を厳密に分析する。</p>	<p>(1)分析結果の有意性や特異点を確認し、解釈のメモを作成しておく(90分以上)</p>	<p>(1)分析から得られた「発見事項」を3点に集約して整理しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第5回</p>	<p>実証分析と仮説検証 (2)理論枠組みに基づき、データの傾向や相関を厳密に分析し、整理してみる。</p>	<p>(2)分析結果の有意性や特異点を確認し、解釈のメモを作成しておく(90分以上)</p>	<p>(2)分析から得られた「発見事項」を3点に集約して整理しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第6回</p>	<p>実証分析と仮説検証 (3)理論枠組みに基づき、データの傾向や相関を厳密に分析し、整理した後、問い立てしてみる。</p>	<p>(3)分析結果の有意性や特異点を確認し、解釈のメモを作成しておく(90分以上)</p>	<p>(3)分析から得られた「発見事項」を3点に集約して整理しておく(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第7回</p>	<p>導入部および方法論の執筆 (1)序論、先行研究、研究方法を学術的作法に従い執筆する。</p>	<p>(1)引用文献の書式(APA/JIS等)を再確認し、リスト化しておく(90分以上)</p>	<p>(1)現時点までに執筆した各章の論理的整合性をセルフチェックしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第8回</p>	<p>導入部および方法論の執筆 (2)序論、先行研究、研究方法を学術的作法に従い執筆し、内容を確認してみる。</p>	<p>(2)引用文献の書式(APA/JIS等)を再確認し、リスト化しておく(90分以上)</p>	<p>(2)現時点までに執筆した各章の論理的整合性をセルフチェックしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第9回</p>	<p>導入部および方法論の執筆 (3)序論、先行研究、研究方法を学術的作法に従い執筆し、内容を確認後、問い立てしてみる。</p>	<p>(3)引用文献の書式(APA/JIS等)を再確認し、リスト化しておく(90分以上)</p>	<p>(3)現時点までに執筆した各章の論理的整合性をセルフチェックしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第10回</p>	<p>導入部および方法論の執筆 (4)序論、先行研究、研究方法を学術的作法に従い執筆し、内容を確認後、再度、見直しをしてみる。</p>	<p>(4)引用文献の書式(APA/JIS等)を再確認し、リスト化しておく(90分以上)</p>	<p>(4)現時点までに執筆した各章の論理的整合性をセルフチェックしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第11回</p>	<p>本論(分析・考察)の執筆 (1)分析結果を論証し、独自の理論的・政策的示唆を導出する。</p>	<p>(1)章ごとのストーリーライン(構成案)を詳細に作成しておく(90分以上)</p>	<p>(1)論理的で分かりやすい文章を作成するため、パラグラフ・ライティングに基づき、草稿を加筆修正してみる(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第12回</p>	<p>本論(分析・考察)の執筆 (2)分析結果を論証し、独自の理論的・政策的示唆を導出し、執筆してみる。</p>	<p>(2)章ごとのストーリーライン(構成案)を詳細に作成しておく(90分以上)</p>	<p>(2)論理的で分かりやすい文章を作成するため、パラグラフ・ライティングに基づき、草稿を加筆修正してみる(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第13回</p>	<p>本論(分析・考察)の執筆 (3)分析結果を論証し、独自の理論的・政策的示唆を導出し、執筆後、再度、確認してみる。</p>	<p>(3)章ごとのストーリーライン(構成案)を詳細に作成しておく(90分以上)</p>	<p>(3)論理的で分かりやすい文章を作成するため、パラグラフ・ライティングに基づき、草稿を加筆修正してみる(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第14回</p>	<p>本論(分析・考察)の執筆 (4)分析結果を論証し、独自の理論的・政策的示唆を導出し、執筆後、再度確認のうえ、最適に執筆する。</p>	<p>(4)章ごとのストーリーライン(構成案)を詳細に作成しておく(90分以上)</p>	<p>(4)論理的で分かりやすい文章を作成するため、パラグラフ・ライティングに基づき、草稿を加筆修正してみる(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第15回</p>	<p>論文の推敲と校閲 (1)論理の飛躍を排除し、学術的文章としての完成度を極める。</p>	<p>(1)論文全文をプリントアウトし、論理の「穴」をマーキングして見ること(90分以上)</p>	<p>(1)注釈や図表番号の整合性を含め、形式面を完全に加筆修正、最適にしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第16回</p>	<p>論文の推敲と校閲 (2)論理の飛躍を排除し、整理のうえ、学術的文章としての完成度を極める。</p>	<p>(2)論文全文をプリントアウトし、論理の「穴」をマーキングして見ること(90分以上)</p>	<p>(2)注釈や図表番号の整合性を含め、形式面を完全に加筆修正、最適にしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第17回</p>	<p>論文の推敲と校閲 (3)論理の飛躍を排除し、整理のうえ、問い立てし、学術的文章としての完成度を極める。</p>	<p>(3)論文全文をプリントアウトし、論理の「穴」をマーキングして見ること(90分以上)</p>	<p>(3)注釈や図表番号の整合性を含め、形式面を完全に加筆修正、最適にしておくこと(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第18回</p>	<p>発信訓練と要旨の作成 (1)学会発表レベルの要旨を作成し、口頭発表の質を高める。</p>	<p>(1)研究の核心に関する要旨を執筆しておくこと(90分以上)</p>	<p>(1)想定質問集(20問程度)を作成し、回答をシミュレートする(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第19回</p>	<p>発信訓練と要旨の作成 (2) 学会発表レベルの要旨を作成のうえ、問い立てし、口頭発表の質を高める。</p>	<p>(2) 研究の核心に関する要旨を執筆しておくこと(90分以上)</p>	<p>(2) 想定質問集(20問程度)を作成し、回答をシミュレートする(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第20回</p>	<p>発信訓練と要旨の作成 (3) 学会発表レベルの要旨を作成のうえ、問い立て、要旨全文を整理し、口頭発表の質を高める。</p>	<p>(3) 研究の核心に関する要旨を執筆しておくこと(90分以上)</p>	<p>(3) 想定質問集(20問程度)を作成し、回答をシミュレートする(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第21回</p>	<p>模擬公聴会の対策(事前演習) (1) 副査を含む他者からの批判に耐えうる論証を完成させる。</p>	<p>(1) プレゼンテーションのデモンストレーションを実施してみる(90分以上)</p>	<p>(1) 指摘事項を即座に論文へ反映し、最終稿を確定させる(90分以上)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第22回	模擬公聴会の対策(事前演習) (2)副査を含む他者からの批判に耐えうる論証を完成させるため、問い立てをする。	(2)プレゼンテーションのデモンストラーションを実施してみる(90分以上)	(2)指摘事項を即座に論文へ反映し、最終稿を確定させる(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第23回	提出と今後の展望 修士論文を提出し、将来の活用計画を明確にする。	提出書類一式の不備を最終確認しておく(90分以上)	論文の限界と今後の課題をまとめ、次なるステップを構想する(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	
<b>教科書</b>		
授業の説明資料は配布(配信)する。		
<b>参考文献</b>		
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		異文化コミュニケーション研究 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、異文化コミュニケーションの理論を深め、言語・文化に関する多角的な視点から総合的に考察し、多様な人々とのコミュニケーション問題の解決に応用できるようになることを目的とする(知識・技能)。ホフステード等の代表的な理論を深く読み、その理論を検証しながら、異文化間のコミュニケーション問題をとらえ直していく(知識・技能)。異宗教・異言語・異民族等、さまざまな異文化間のコミュニケーション問題を自分ごととしてとらえていく。その前提となる自言語や自文化を再確認し、その差異と共通点を分析していく。そこから異文化コミュニケーション研究の醍醐味を楽しみ、国際社会で多様化する価値観に寛容な異文化接触が身につくようになる(関心・意欲・態度)。  
 受講者は、「異文化コミュニケーション研究Ⅱ」とともに、異文化間の諸問題に取り組み、その解決方法を自律的に研究していく科目である。

授業の概要

異文化間のコミュニケーションにおける代表的な理論を、講義と受講生の研究発表を中心に検証していく。  
 異文化間におけるコミュニケーションギャップとパーセプションギャップの理論を、先行研究論文の精読をとおして、理論の検証をディスカッションしていく。

到達目標

1. 異文化コミュニケーションの代表的な理論を具体的に説明できる。
2. 先行研究文献を鵜呑みせず、懐疑的／批判的に精読し、疑問点をすぐに探求しようとする研究姿勢になる。
3. 異なった価値観を受入れる寛容さを意識化できる。

**授業の方法**

授業の前半は、異文化コミュニケーションの理論の確認と、受講者の異文化体験事例から演繹的に描写する手法(DIE法など)で分析していく。授業の後半は文献を批判的に読み、ディスカッションし、各自の理解をプレゼンしていく。

**ICT活用**

授業時に使用する文献資料等はGoogle Classroomで配信し、受講生は課題を提出する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当しない。

**課題に対するフィードバックの方法**

すべての課題には評価コメントや参考資料案内等を記してからGoogle Classroomで返却する。また、授業内に手渡して返却する場合は、口頭でもコメントし、よいところは他の院生と共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション コミュニケーションのしくみ 異文化コミュニケーションとは</p>	<p>「文化」の定義を5以上、「コミュニケーション」の定義を10以上、「異文化コミュニケーション」の定義を5つ以上調べておくこと。(90分)</p>	<p>「文化」「コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」の各定義の一つはテキストを見ないで言えるようにする。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>異文化コミュニケーションスキルとは ミスコミュニケーションの回避と自己開示</p>	<p>自身の異文化体験を振り返り、ミスコミュニケーションをDIE法で分析しておく(90分)</p>	<p>コミュニケーション能力に必要な資源をまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>個人レベルの異文化接触と適応 統合的適応と第三の文化</p>	<p>異文化接触の文献資料をよく読んでおく。(90分)</p>	<p>先行研究論文から専門用語の各定義をまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>異文化コミュニケーションの研究 方法 量的研究と質的研究</p>	<p>エスノグラフィーにおける参与観 察例をサイトで読んでおくこと。 (120分)</p>	<p>指定会話をレトリック分析手法に よるスピーチ分析でやってみる。 (90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>価値観を測定する手法 ホフステード「国民文化の次元」と権力格差調査から</p>	<p>権力格差の大きい社会の特徴 を発表できるように準備する。 (120分)</p>	<p>権力格差の大小による社会の基 本的違いをまとめておく。(120 分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>集団間コミュニケーションと対人コミュニケーション 個人主義的傾向と集団主義的傾向文化</p>	<p>集団主義的傾向の強い文化の 価値観について調べて説明でき るようにしておく。(90分)</p>	<p>個人主義的傾向の価値観の特 徴とその事例をまとめておく。 (120分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>ジェンダーと性別役割 男らしさ・女らしさ文化の特徴</p>	<p>世界のジェンダー指数を調べておく。(20分)</p>	<p>ジェンダー指標からみた日本の将来展望をレポートし、ディスカッションペーパーにする。(160分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>不確実性の回避 不確実性の回避指標と個人主義指標</p>	<p>不確実性の回避の強い社会の特徴を調べ、プレゼンテーション準備をしておく。(160分)</p>	<p>ホフステードの不確実性の回避の批判点の追加修正をしておく。(20分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>短期志向の社会と長期志向の社会 ビジネス思考様式の差異とその価値観をディスカッションする</p>	<p>世界価値観調査のデータをよく読んで、ディスカッションペーパーを作成しておく。(180分)</p>	<p>長期志向指標の値について説明できるようにしておく。(30分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>放縦度の高い社会と抑制の強い社会 職場における放縦—抑制</p>	<p>世界の言論の自由度を調査し、 プレゼンできるように準備する。(120分)</p>	<p>ユーロバロメーターのデータを 読み「言論の自由」度は、どうと らえられているかをレポートする。 (60分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>組織文化と国民文化 組織文化を管理する手法</p>	<p>指定する職業文化についてプレ ゼンテーション準備。(120分)</p>	<p>グローバル企業から1社選び、そ の組織文化についてレポートす る。(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>自民族中心主義と文化相対主義 自集団と他集団に対するステレオタイプとアンコンシャスバ イアス</p>	<p>言語とユーモアに関する資料を よく読んでおく。(30分)</p>	<p>世界の移民・難民の動向からデ ィスカッションペーパーを作成す る。(150分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>多国籍企業における態度の形成法 国際競争上の文化的側面</p>	<p>多国籍ビジネス1社を選び、その企業戦略特徴をプレゼンできるようにしておく。(120分)</p>	<p>国際マーケティング、広告、消費者行動についてまとめておく。(60分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>組織文化と家族観 日本の伝統的家族観とは</p>	<p>今日的日本文化の特徴についてプレゼンテーション準備をする。(120分)</p>	<p>日本文化の伝統的価値化の変容をまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>まとめ 多文化共生を目指す社会・組織・地域の問題点</p>	<p>「文化の進化」「ステレオタイプ」等の配布資料を再度読み、問題点をまとめておく。(120分)</p>	<p>日本の多文化共生施策と現状をレポートする。(150分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の課題60%、レポート30%、ディスカッション等の授業参加度10%
その他	0	
<b>教科書</b>		
講義プリントを配布する。		
<b>参考文献</b>		

『多文化世界 原書第3版』／G.ホフステード・G.J.ホフステード・M.ミンコフ／有斐閣  
『異文化コミュニケーションの理論 新しいパラダイムを求めて』／石井敏ほか編／有斐閣ブックス。  
このほか、授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		異文化コミュニケーション研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>この授業はディプロマポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている(知識・技能)」および「言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる(関心・意欲・態度)」に関連する科目である。また共通科目Bとして他の専門科目に関連する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>この授業は、世界の言語とその背景にある文化や社会の多様性を学びながら、異文化理解への理解を深める科目である。</p>							
<b>到達目標</b>							

世界各地域の文化的特色と多様性について俯瞰することができる。各地域・各国の文化の生成における異文化交流の役割について理解することができる。多様な文化の背景にある根本的な思考様式の成立過程について考察することができる。

**授業の方法**

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。  
 授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。  
 授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

**ICT活用**

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。  
 授業内容に関連するホームページや動画など。動画等の視聴による自主学習支援。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし。

**課題に対するフィードバックの方法**

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	世界の言語、宗教などの文化的な広がり俯瞰する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	交流から生まれる文化:自文化と他文化の関係性から異文化を考える。 日本の文化が世界とのどのような交流によって生成しているか学生に考えさせ、史実に沿って学習しながら、日本の文化に内在する世界のさまざまな文化や価値観への気づきを促す。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>東アジア地域の文化:日本の文化と東アジア地域のつながりについて</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>東南アジア地域の文化:日本とのつながりと歴史の多層性と文化的多様性について 映像資料を用いて、音楽や芸術などの日本との類似点について、中国も含めた大きな文化交流の視点から考えさせる。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>南アジア地域の文化:日本とのつながりと多言語主義について</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>西アジア地域の文化:ペルシアとイスラームの思想と文化について 担当教員が実際に中東に行った時の体験談や撮影した写真から、学生のイメージと実際の現地の実態のギャップを考察させ、世界の文化の多様性や奥深さへの気づきへと導く。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>西ヨーロッパ地域の文化:古代ギリシア・ローマとルネサンス以降の文化について ルネサンスや宗教改革が、イスラームやモンゴルなどの外部世界との交流によってもたらされていることを、具体的な史実に沿って学習し、ヨーロッパ文化にとっての異文化の意味を考察する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>イギリスの文化:英語発祥の地の歴史と文化について</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>コモンウェルスの文化:英連邦の文化について</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>アメリカの文化(1)超大国の歴史と文化について</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>アメリカの文化(2)現代社会の文化と表現について</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>グローバル空間での新しい文化の生成:IT時代のコミュニケーション文化について</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>これまでの振り返りと、各自の考えをまとめる小論文の作成</p>	<p>これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)</p>	<p>小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>小論文の講評とグローバル化時代の文化へのアプローチ</p>	<p>自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)</p>	<p>フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度と積極性20% 授業課題で提出するレポート50% 小論文30%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
特になし。		
<b>参考文献</b>		

各授業内容と関連する参考文献や資料を適宜指示または配布。

**履修条件・留意事項等**

異なる複数の文化の相違点に関心を持つ学生の参加を歓迎する。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		国際関係論特別研究 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができるようにするための科目である。そのために、特に国際関係の専門分野に関する知識および技能を身につけるための科目である。「国際関係論特別研究II」と関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>この授業は、世界の理解と分析の基礎となる国際関係の諸理論と問題領域を学びながら、国際関係論の基本的な分析枠組みと言語の習得を目指し、国際関係分析の理論的枠組みの骨格をつかむことを狙いとしている。まず、国際関係論の主要理論である現実主義・自由主義や、それらに批判的な見方を紹介し、諸理論の視点から現代世界の諸問題をどのように理解することができるのか、人類が抱える具体的な諸問題を安全保障、経済、国際協力、資本主義などのテーマで具体的に検討していく。</p>							
<b>到達目標</b>							

国際関係論の世界認識では、アクター(行為主体)間の異なる問題領域での多様な関係性の変化への理解が求められる。この授業では、学生が、安全保障、外交、開発、環境などの具体的な分野における、国家・国際機関・NGO・多国籍企業そして先進国市民社会の相互関係、また各アクターの役割の変化などを学習することで、刻々と変化する国際情勢を自分の力で考える、認識枠組みと分析方法の基礎を獲得することを到達目標とする。

**授業の方法**

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式を進める。  
 授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。  
 授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

**ICT活用**

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。  
 する国家や国際機関、NGOなどのホームページ、動画等。動画等の視聴による自主学習支援。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>・導入～「世界とは何か、世界をどう見るのか？」 国際関係論の学問的使命とは、「世界」とは何か、それをどのように認識する(べきな)のか、という認識の枠組みを提供することである。グローバル化のプロセスを、どのように読み解けばいいのか、国際関係論の「理論」はその手がかりを提供する。各学生は自分の関心のある分野や問題についてプレゼンする。</p>	<p>シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分) 配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>&lt;第1部 理論&gt; ・理想主義 Idealism～戦間期と国際連盟の挫折 第1次世界大戦の反省から、世界平和は人類の宿願となり、国際連盟のような制度、規範などが整備されたが、人類は再び戦争へと突き進む。E・H・カーなど戦間期の思想をてがかりに、国際制度主義や自由主義などに影響した、理想主義の射程と限界を具体的に考察する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>・現実主義 Realism～第2次世界大戦の痛みと記憶 国際関係論の古典的主要理論の1つで、現在も米国など大国の外交の思考様式に隠然とした影響力を持つ現実主義。Realismの射程は、主に米国で展開する。パワーの概念という国際関係論にとって主要な命題の1つをめぐって、モーゲンソーらの論考を中心に検討する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>・自由主義 Liberalism～多元化・経済化する世界 戦後世界が安定し、国際貿易が増大する中で、多国籍企業や国際機関などのアクターの台頭と、経済・市場分野の重要性の「政治化」は、現実主義より経済化した認識を必要とする。相互依存やトランスナショナリズムなど、自由主義の系譜をコヘインらの認識から考察する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>・トランスナショナリズム Transnationalism～越境する現代 トランスナショナリズムは、越境する政治・経済・文化・市民・運動などを見るグローバル化の「見立て」として中心的な認識枠組みを提供する。現象と理論の両方からグローバル化を考える。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>・グローバリズム Globalism～「下から見た世界」の構造 現実主義と自由主義の視点が、力を持った「上からの視座」であるとする、マルクス主義国際関係理論は、開発や経済的支配について「下からの視座」である南北格差の問題意識を強調する。従属論、帝国主義論などのグローバリズムの理論群を、市場と資本主義の観点から整理する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>・批判理論とその周辺 Critical Theory                  グローバリズムの系譜による分析が「経済主義」であるのに対して、批判理論やポスト構造主義以降の議論、特に社会構成主義やネオ・グラムシ国際関係論は、人々が持つ「概念」「常識」などの力が支配、およびその支配への申し立てに果たす役割を強調する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>&lt;第2部 問題領域～現実の中で理論を考える&gt;                  ・安全保障と外交 Security and Diplomacy                  現実主義から見る安全保障は軍事のことであり、自由主義の射程はそこに経済を加える。いずれも国家の安全保障を重視するのに対し、批判的な諸理論は個人や「人間の安全保障」を唱える。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>・環境問題 Environmental Issue                  環境問題や環境汚染には国境がない。二酸化炭素の排出による、オゾン層の破壊や地球温暖化や北極海の氷の現象は、地球規模の気象メカニズムを通じて全世界に深刻な打撃を与える。知的共同体やNGO・国際機関の役割など環境問題の多面性を考察する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>・IT技術とコミュニケーション革命 IT Revolution of Communication グローバル化の特徴として情報技術の飛躍的進歩による、世界のシンクロ化が挙げられる。米国の軍事技術から出発したインターネットは、国際NGOのようにこれまで国境で区切られていた市民とその運動をつなぎ、同時に、テロリストの広がりも助けていることを学ぶ。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>・グローバル市場 Global Market 情報化によって最も恩恵を受けた領域は経済、特に金融を中心としたグローバルな市場である。国家や社会は相当程度市場化され、グローバル市場を経由して瞬時に連結する。現代のガバナンスのメカニズムにおいて、台頭する経済権力や権威に着目する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>・南北格差と開発 Division and Development 開発援助の分野ほど、多様なアクターが複雑に絡み合う問題領域もないかもしれない。先進国・途上国・国連・NGO・多国籍企業…異なる利害と立場が交錯する開発の領域を事例に、現代の国際関係のダイナミズムを検討する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>・文化の力 Power of Cultures                  とかく軍事と経済のいわゆるハードな問題に偏りがちな国際関係論にあつて、文化の問題は比較的新しく魅力的で、同時に悩ましい領域である。アイデンティティーに深く関わりを持つ、言語、民族、宗教などのネットワークは、理論が考えるよりも大きな世界変化の動因となっていることを学ぶ。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>&lt;第3部 あなたの国際関係論&gt;                  ・小論文による理解度と応用力の確認                  国際関係論において、どの理論が一番大事であるとか、どの問題領域が最重要である、ということはありません。何をどう選び、あるいは組み合わせ、世界のどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文で何を学んだか、考えたのか書く。</p>	<p>これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>・まとめ～「わたしたちの国際関係論と世界」                  学生の皆さんから出された、いろいろな形の国際関係論から、私たちが世界をどう見ているのか、そして世界とのつながりをどのように感じているのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。</p>	<p>自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)</p>	<p>フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
特になし。		
<b>参考文献</b>		

授業テーマに関連する文献や資料を、各授業で適宜指示。

Kauppi, Mark V. and Viotti, Paul R. (2023) International Relations Theory (7th ed), Rowman & Littlefield Pub.  
(邦訳: (ウェッセルズ、石井 共訳)『国際関係論: 現実主義・多元主義・グローバリズム』彩流社)

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		国際関係論特別研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができるようにするための科目である。そのために、特に政治経済の専門分野に関する知識および技能を身につけるための科目である。                      「国際関係論特別研究Ⅱ」と関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>この授業は、国際政治経済学の世界認識におけるグローバル化は、異なる問題領域での、多様な経済化・市場化・産業化そして資本主義がもたらす政治・社会・文化への影響と変化への理解が求められる。この授業では、安全保障、外交、市場、知識などの具体的な分野における、国家・国際機関・NGO・多国籍企業そして先進国市民社会の相互関係、また各アクターの役割の変化などを学習することで、刻々と変化する国際情勢を自分の力で考える、認識枠組みと分析方法の基礎を獲得できることを目標とする。</p>							
<b>到達目標</b>							

学生は、これまで学んだ国際関係論の理論的枠組みを復習するとともに、経済化・市場化するグローバル世界における多様な権力とその構造を認識し、国際政治経済の現象を自ら分析し理解することができるようになることを到達目標とする。

**授業の方法**

講義形式で行う。適宜学生に対してレポートなどの課題を課す。

**ICT活用**

インターネット上の資料や映像を適宜参照するとともに、Google Classroomを用いた双方向的コミュニケーションを保つ。

**実務経験のある教員の教育内容**

講義期間中に課すレポートや課題についてのコメントや指導を行うとともに、Google Classroomを通じ適宜補充する。

**課題に対するフィードバックの方法**

講義期間中に課す小課題への講評及び期末課題への評価と講評を行うとともに、Google Classroomを通じ適宜補充する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>“オリエンテーション 国家vs市場？経済化する世界と市場権力の国際政治”</p>	<p>シラバスを読み、自らの関心を明確にし、疑問点などがあれば整理しておくこと(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>国際政治の理論(1) 現実主義、安全保障、国家主義</p>	<p>指定された文献を読むこと(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>国政政治の理論(2) 自由主義、貿易の拡大、相互依存</p>	<p>指定された文献を読むこと(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第4回	国際政治の理論(3) マルクス主義、グローバリズム、資本主義の行方	指定された文献を読むこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第5回	帝国主義と重商主義 グローバル化における経済的ナショナリズムの出現	指定された文献を読むこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第6回	国家と市場 グローバル化、経済化する世界における新しい権力と権威	指定された文献を読むこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

<p>第7回</p>	<p>世界経済における権力の構造(1) 安全保障構造</p>	<p>指定された文献を読むこと (90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>世界経済における権力の構造(2) 生産構造</p>	<p>指定された文献を読むこと (90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>世界経済における権力の構造(3) 金融構造</p>	<p>指定された文献を読むこと (90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第10回	世界経済における権力の構造(4) 知識構造	指定された文献を読むこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第11回	二次的権力構造(1) 空海輸送、貿易 一帯一路、中国の影響、欧州の思惑	指定された文献を読むこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第12回	二次的権力構造(2) エネルギー、環境 「クリーン」な世界の行方と実態	指定された文献を読むこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

<p>第13回</p>	<p>二次的権力構造(3) 国際福祉または開発 国際金融機関の変遷と援助</p>	<p>指定された文献を読んでもくること (90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>小論文試験 これまでの学習内容の理解度と、それをベースとして自律的に思考し応用できるのかを問う。</p>	<p>これまでの授業内容や課題内容の復習(90分)</p>	<p>小論文の設題に対する自分の回答の吟味。関連する不足知識の復習(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>まとめ (1)小論文についての講評 (2)小論文を踏まえてのこれまでの授業の振り返りとまとめ。 現代の諸問題への国際政治経済学のアプローチ。</p>	<p>これまでの授業内容の振り返りと自分の小論文の自己評価の作成(90分)</p>	<p>授業内容を参考に、これまでの授業全体で学んだことをノートにまとめる(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行なわない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性20%、レポート・課題の提出状況50%、小論文30%
その他	0	
<b>教科書</b>		
特になし。		
<b>参考文献</b>		

各回の授業内容について関連する文献や資料を適宜指示または配布。

**履修条件・留意事項等**

世界史や現代史の基本的な知識を要する科目である。近現代の経済、貿易、金融などにも関心・知識を持っていることが望ましい。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		地域社会特別研究 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている」および「言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまなニーズに応えることができる」ことを目的とする科目である。他の言語系科目のほか、地域系科目と関連する。

授業の概要

現在も地域的な広がりを見せる「漢字」について、その成り立ち・拡散・使用実態について概観する。

到達目標

<p>1. 漢字の成り立ちについて概略的に述べるができる。</p> <p>2. 漢字の広がりについて概略的に述べるができる。</p> <p>3. 漢字の使用実態について概略的に述べるができる。</p>
--

**授業の方法**

板書と配布印刷物を中心に、講義形式ですすめる。受講者には適宜発表をしてもらう。

**ICT活用**

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

それぞれの発表について、ハンドアウトおよび発表内容の全てについて細かくコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	イントロダクション 使用する教科書・授業方法について	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第2回	落合淳思『漢字の成り立ち』 第一章 漢字の誕生と継承(pp.13-34)	シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第3回	落合淳思『漢字の成り立ち』 第二章 漢字の成り立ちと三つの要素(pp.35-68)前半 甲骨文字、四種類の成り立ちなど	シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>落合淳思『漢字の成り立ち』 第二章 漢字の成り立ちと三つの要素 (pp.35-68) 後半 甲骨文字の文法など</p>	<p>シラバスを確認し、当該部分を 一読しておく(90分)</p>	<p>授業内容を復習し、授業での指 示課題に取り組む(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>落合淳思『漢字の成り立ち』 第三章 字源研究の歴史 (pp.69-92) 前半 許慎の『説文解字』など</p>	<p>シラバスを確認し、当該部分を 一読しておく(90分)</p>	<p>授業内容を復習し、授業での指 示課題に取り組む(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>落合淳思『漢字の成り立ち』 第三章 字源研究の歴史 (pp.69-92) 後半 甲骨文字の発見と解説、字源研究の発達と停滞など</p>	<p>シラバスを確認し、当該部分を 一読しておく(90分)</p>	<p>授業内容を復習し、授業での指 示課題に取り組む(120分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>岩月純一「近代ベトナムにおける「漢字」の問題」(村田雄二郎、C・ラマール編『漢字圏の近代 ことばと国家』7、pp131-148)</p>	<p>シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)</p>	<p>授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>生越直樹「朝鮮語と漢字」(村田雄二郎、C・ラマール編『漢字圏の近代 ことばと国家』8、pp149-166)</p>	<p>シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)</p>	<p>授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>大西克也「漢字の誕生と変遷—甲骨文字から近年発見の中国先秦・漢代簡牘まで」(金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』01、pp25-33)</p>	<p>シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)</p>	<p>授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>李成市「新羅・百濟木簡と日本木簡」(金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』03、pp61-76)</p>	<p>シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)</p>	<p>授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>鄭光「ハングルとパスパ文字」(金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』04、pp77-89)</p>	<p>シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)</p>	<p>授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>笹原宏之「異体字・俗字・国字」(金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』05、pp90-95)</p>	<p>シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)</p>	<p>授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	荒川慎太郎「擬似漢字」(金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』06、pp96-101)	シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第14回	入口敦志「仮名」(金文京編『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』06、pp102-110)	シラバスを確認し、当該部分を一読しておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第15回	総まとめ・復習・漢字字形史字典講義	これまでの授業内容を復習しておく(120分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題(60%)および通常の授業参加度(40%)による。
その他	0	
<b>教科書</b>		
<p>『漢字の成り立ち』／落合淳思／筑摩選書                  『漢字圏の近代 ことばと国家』／村田雄二郎、C・ラマル編／東京大学出版会                  『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』／金文京編／文学通信</p>		
<b>参考文献</b>		

『漢字字形史字典』／落合淳思／東方書店  
その他適宜授業中に指示する。

**履修条件・留意事項等**

事前・事後学習をしっかりと行うこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		地域社会特別研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>この授業は、ディプロマポリシーの「言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる」(関心・意欲・態度)ようになることを目的とし、「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている(知識・技能)ことを目指す。</p> <p>シンガポールの社会問題事例から、各自の研究テーマへの気づきや刺激を与え、より広い視野でレポートや論文作成に取り組めるようにするものである(知識・技能)。授業では、シンガポールとその周辺国及び東南アジアの諸問題を考えていく。たとえばリングフランカとなっている英語教育施策をはじめ、経済政策にもとづく人の移動と人口問題の共通点を確認し、その多様な文化に寛容になり、将来のビジネス交流に役立つ地域社会における交渉スタイルとはどのようなものかを意識化し(知識・技能)、柔軟な異文化対応の姿勢を身に付けていくことを目的とする(関心・意欲・態度)。</p> <p>シンガポールは、天然資源も人的資源も限られているため資本も労働力も外国誘致で発展してきたが、その多言語・多文化社会の現状と課題は、日本の先例でもある。言語政策と移民受け入れ政策、国民統合等のさまざまな社会問題は、自国や各自の研究テーマにも共通する課題であることを確認し、その方策を議論していく(知識・技能)。多言語・多文化社会のASEAN諸国へ視野を広げ、域内言語変種と異文化の醍醐味を楽しんで学ぶことができる。(関心・意欲・態度)」</p> <p>本授業は「異文化コミュニケーション研究Ⅰ・Ⅱ」に連動し、社会問題とその背景を探究していく。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>先進諸国では少子高齢化が加速し、その労働力を外国人移民で補ってきている。移民受け入れ国の雄とされるシンガポールも同様であり、その生産労働力人口減を補うための移民受け入れ促進政策と国民の人材育成政策で、経済発展を維持しようとしている。レジリエンスを国家施策とするシンガポールを糸口に、経済発展する東南アジアへの知見を深め、多様な文化交流の在り方を考察していく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. なぜシンガポール人は英語をモノにできたのか、説明できる。
2. 移民送り出し国と受入れ国家の社会背景が説明できる。
3. 多民族社会の国民統合施策の事例が挙げられる。

**授業の方法**

授業は、シンガポールに焦点を当てつつ、ASEAN諸国の経済発展と人口問題、教育政策、多民族統合政策等、各国の概況を講義する。受講生は、それらの地域の社会問題について調査発表し、プレゼンで取り上げた課題についてディスカッションしていくことが中心となる。プレゼン後は発表テーマに関連した研究テーマに合わせたレポートを書いていく。

**ICT活用**

Google Classroomを活用し、課題と資料提示・返却を行う。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当しない。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題は次回の授業までにコメントを添えて個別に返却するが、よいものは授業で講評し、クラスで共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション 東南アジアの概況	東南アジアのうち最小2か国について概況を調べておく。(90分)	東南アジア諸国と自国との政治・経済・文化交流をまとめておく。(90分)
担当教員			
第2回	シンガポール概況 I 国家の成り立ちと経済発展	シンガポールはどのような国か調べ、説明できるようにしておく。(90分)	シンガポールの国家戦略をまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	シンガポール概況 II 人口問題と外国人労働力の受入れ	シンガポールへのヒト・モノ・コトの移動を調べておく。(90分)	自国と共通する人口問題施策を比較しておく。(90分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>シンガポール概況Ⅲ 経済：外資と外国人労働力誘致</p>	<p>シンガポールの人口問題とその 施策の動向について調べておく。 (90分以上)</p>	<p>自国の人口問題と比較したレポ ートを書く。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>シンガポール概況Ⅳ 英語教育と二言語併用政策</p>	<p>シンガポールの学校教育制度 について調べておく。(90分)</p>	<p>シンガポールの能力主義と教育 制度をまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>シンガポールの国民統合 多言語・多宗教・多民族の共生</p>	<p>シンガポールの最新の人口セン サス年次報告書を読んでおく。(90分)</p>	<p>多言語・多文化社会を維持する ための方策をミニレポートにする。 (90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>シンガポールの国民優先 高度人材の受入れと国民の人材育成政策</p>	<p>シンガポールのスキルズ・ヒュー チャーのサイトを見て、そのコー スから人材育成の支援傾向を調 べておく。(90分)</p>	<p>自国の人材育成政策をレポート にする。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>ASEAN加盟国事情:プレゼン I マレーシア、タイ</p>	<p>プレゼン準備。(90分以上)</p>	<p>プレゼン内容に追加情報を記し てまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>ASEAN加盟国事情:プレゼン II インドネシア、フィリピン</p>	<p>プレゼン準備。(90分以上)</p>	<p>プレゼン内容に追加情報を記し てまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第10回	ASEAN加盟国事情:プレゼンⅢ ベトナム、ミャンマーほか	プレゼン準備。(90分以上)	プレゼン内容に追加情報を記してまとめておく。(90分)
担当教員			
第11回	確認テスト ASEAN加盟国の多様性と共通課題	プレゼンした国の情報をまとめておく。(90分)	プレゼンしたスライドをレポートにする。(90分以上)
担当教員			
第12回	ASEANとEU 加盟国間の経済協定と教育連携	EU加盟国内の人の移動(留学含む)を調べておく。(90分)	ASEANの連携の課題についてまとめておく。(90分)
担当教員			

第13回	ASEAN加盟国とEU加盟国 アジア的価値観をめぐって	アジアとヨーロッパにおける代表的な宗教の価値観について調べておく。(90分)	異宗教間の接触がもたらす思考と価値観についてまとめる。(90分)
担当教員			
第14回	高齢化する社会と医療 シンガポールの外国人家事労働者と介護を事例に	フィリピンの外貨収入を調べておく。(90分)	高齢化社会の介護・医療人材の争奪をまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ シンガポールを事例として、東南アジアの課題を考える	これまでのプレゼンの修正や情報を追加して、スライドを直しておく。(90分)	東南アジア諸国から2か国を選び、その社会課題をレポートにする。(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート50%、プレゼン50%
その他	0	
<b>教科書</b>		
教科書は使用しない。		
<b>参考文献</b>		

『シンガポールの国家建設』／田村慶子／明石書店  
『アジアの最新英語事情』／本名信之／大修館書店  
『Managing Diversity in Singapore』／Mathew.M・Chiang W.Fong／Imperial College Press  
他、授業で各国の年報サイトなど適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
<b>区分</b>		言語文化コミュニケーション・コース 英語・英米文化コミュニケーション領域					
<b>科目名</b>		英語学特殊研究				<b>ナンバリング</b>	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2026年度前期	<b>区分</b>		<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	高橋 保夫						

**授業の位置づけ**

ディプロマポリシーとの関連で言えば、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えているを達成する科目である。

**授業の概要**

われわれは日常生活の中でさまざまな現象に取り囲まれているが、一見無秩序に思われる現象にもその背後には秩序、規則性が潜んでいる。ことばに目を転じれば、その背後にもやはり規則性が潜んでいるのである。本授業では、英語という言語に内在している規則性を発見し、明らかにしていくことを目指す。とくに、ことばを科学的に研究する学問である言語学、その一部門である英語学、さらにその中核をなす統語部門に関する理解を深めていく。

**到達目標**

- ・英語のしくみを深く理解し説明できる。
- ・文献に書かれていることを正しく述べることができる。
- ・論理的にものごとを論じることができる。

**授業の方法**

はじめは板書を使った講義形式、適宜輪読・発表形式に移行する。

**ICT活用**

なし

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

授業内での発表、提出物にはコメントをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する。 生成文法の研究プログラム	受講動機について尋ねられるの で、準備しておく。(90分)	授業内で進んだところまでを復 習しておく。指示があった場合 にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第2回	句構造(1) 構造的多義性 規則の定式化	次回進む予定のところを読んで くる。(90分)	授業内で進んだところまでを復 習しておく。指示があった場合 にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第3回	句構造(2) 句構造の機能的性格	次回進む予定のところを読んで くる。(90分)	授業内で進んだところまでを復 習しておく。指示があった場合 にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>句構造と移動(1) 英語疑問文における主語と助動詞の語順転換</p>	<p>次回進む予定のところを読んでくる。(90分)</p>	<p>授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>句構造と移動(2) 文法関係と構造関係 句構造の変形</p>	<p>次回進む予定のところを読んでくる。(90分)</p>	<p>授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>英語助動詞システムにおける主要部移動</p>	<p>次回進む予定のところを読んでくる。(90分)</p>	<p>授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第7回	動詞句(1) 英語の場合	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第8回	動詞句(2) 日本語の場合	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第9回	名詞句の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第10回	動詞句の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第11回	Xバー理論	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第12回	Xバー理論と文の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第13回	否定極性と文構造(1) 否定極性	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第14回	否定極性と文構造(2) c-command条件	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第15回	主語の位置と否定極性	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(40%)、課題提出(40%)、質疑応答(20%)
その他	0	
<b>教科書</b>		
『生成文法』渡辺明 東京大学出版会		
<b>参考文献</b>		

授業内に適宜指示する。

**履修条件・留意事項等**

予習・復習をしっかりとすること。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
<b>区分</b>		言語文化コミュニケーション・コース 英語・英米文化コミュニケーション領域					
<b>科目名</b>		英米言語文化特殊研究 I				<b>ナンバリング</b>	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2026年度前期	<b>区分</b>		<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	高橋 保夫						

**授業の位置づけ**

This course explores a range of Anglo-American cultural perspectives through an analysis of the language used in a number of TED talks. 各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えている。(知識・技能)  
 言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる。(関心・意欲・態度)  
 この授業は「英米言語文化特殊研究Ⅱ」と相互に関連する。

**授業の概要**

This course will introduce students to some key scientific and cultural topics related to the modern world through a range of popular TED talks. These topics will be explored through readings and interactive activities, providing the basis for discussing the differences and similarities between Anglo-American and Asian attitudes towards a range of universal human concerns.

**到達目標**

The aim of this course is to develop students' knowledge of Anglo-American cultural attitudes towards key global topics within the context of thinking about their own ways of thinking and experiencing the world.

**授業の方法**

TED presentations, readings, vocabulary building and comprehension activities, and group discussions will be the main components of this course.

**ICT活用**

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.

**実務経験のある教員の教育内容**

none

**課題に対するフィードバックの方法**

Answers to tests will be given after the tests have been completed and advice will be provided to help the students improve.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	Explanation of the syllabus and introduction to the course.	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90分
担当教員			
第2回	Study the “Are You Sleeping Enough” reading. Explore the importance of sleep and different cultural perspectives on how much sleep is good or bad.	Read pages 24 to 33 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	Discuss the “How to Succeed: Get More Sleep” TED talk and think about gender differences related to sleep and the negative impact of modern lifestyles on sleep patterns.	Watch the “How to Succeed: Get More Sleep” TED talk. Read pages 34 to 39 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第4回	Go through the “We are Cyborgs” reading and examine how technologies in different countries are enhancing human abilities. Discuss how different cultures have different attitudes to technology.	Read pages 40 to 49 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第5回	Reflect on the “I Listen to Color” TED talk and explore different perspectives on technologies that can change the way we experience the world.	Watch the “I Listen to Color” TED talk. Read pages 50 to 55 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	Study the “Happy Planet” reading and investigate different approaches to measuring progress and conceptualizing happiness.	Read pages 56 to 65 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

<p>第7回</p>	<p>Deliver the midterm presentation to the class. Discuss the “The Happy Planet Index” TED Talk and explore and critically evaluate new ways to measure global happiness.</p>	<p>Discuss the “The Happy Planet Index” TED Talk and explore and critically evaluate new ways to measure global happiness. 90分</p>	<p>Review lesson, readings, and vocabulary. 90分</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>Review of the first half of the course and midterm test.</p>	<p>Prepare by studying the vocabulary, talks, and readings from the first half of the course. 90分</p>	<p>Reflect on the test and writing assignment and try to identify your weaknesses and work on addressing them. 90分</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>Go through the “Career Paths” reading and think about how different cultures view the idea of a mid-career break.</p>	<p>Read pages 72 to 81 in the textbook and check any words you don't understand. 90分</p>	<p>Review lesson, readings, and vocabulary. 90分</p>
<p>担当教員</p>			

第10回	Reflect on the “The Power of Time Off” TED Talk and explore different approaches to time-off programs.	Watch the “The Power of Time Off” TED Talk. Read pages 82 to 87 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第11回	Study the “Personality Types” reading and examine how your thoughts about the notion of personality compare to the thoughts of people from different backgrounds.	Read pages 120 to 129 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	Discuss the “The Power of Introverts” TED Talk and critically examine negative and positive attitudes towards introversion.	Watch the “The Power of Introverts” TED. Talk Read pages 130 to 135 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第13回	Go through the “Smart Thinking” reading and think about different ways to define intelligence in general and animal intelligence in particular.	Read pages 136 to 145 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Deliver the final presentation to the class. Reflect on the “The Gentle Genius of Bonobos” TED Talk and explore animal communication and the issue of whether animals also have a kind of culture.	Watch the “The Gentle Genius of Bonobos” TED Talk. Read pages 146 to 151 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	Review of the course and final test.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course. 90分	Consolidate the content of the course. 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験 実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation: 20%, week 7 presentation: 15%, week 8 test: 25%, week 14 presentation: 15%, week 15 test: 25%
その他	0	
<b>教科書</b>		
21st Century Reading: Creative Thinking and Reading with Ted Talks. Publisher: National Geographic Learning. ISBN-13: 978-1-305-26571-4.		
<b>参考文献</b>		

none

**履修条件・留意事項等**

Always bring a bilingual dictionary to the class. This class will be conducted in English only, so prepare to push yourself to do your best to understand and respond to the teacher.

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 英語・英米文化コミュニケーション領域					
科目名		英米言語文化特殊研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>この科目は、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目で、イギリスの社会や文化についての専門科目である。「英米言語文化特殊研究Ⅰ」と関連する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>日本の近代化にも大きな影響を与え、EUからの離脱で注目されるイギリス。英語が誕生した国でもあり、かつて世界の半分以上を支配していたと言われたイギリスの歴史や文化は、日本のみならず世界に大きな影響を与えている。本講義では、イギリスの社会と文化の伝統の持つ豊かさと同時に、多くの分野でいまだに世界の新しいトレンドを作り出している現代イギリスの現状について、その本質を理解することを目的とする。ヨーロッパとの関係性の理解も重要となってくる。</p>							
<b>到達目標</b>							

イギリスの地理、歴史、政治構造、ポップカルチャー、社会的安全や特定の宗教的信仰の影響などについて、知識や考え方を身につけることができる。イギリスの文化の背景知識を習得することができる。現代イギリス社会の現象を多角的に分析することができる。

**授業の方法**

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。  
 授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。  
 いくつかのテーマについて学生のプレゼンテーションを行う。  
 授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

**ICT活用**

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

なし

**課題に対するフィードバックの方法**

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。  
 プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>イントロダクション シラバスの説明と授業内容の紹介。 各学生のイギリスのイメージと関心事についての簡単なプレゼン。</p>	<p>シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備 (90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>イギリスとはどんな国か イギリス(連合王国)の重要な特徴について概観し、学習する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>イギリスの社会構成 イギリスの社会構成について、人口、社会的・民族的背景、政治的信条、信仰する宗教とそれらの分布について学習する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>イギリスの食文化 イギリスの特徴的な食べ物や飲み物について概観する。また、グローバル化するイギリスにおいて、近年人気の食べ物についても学習する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>イギリスの地方・名所 イギリスのいくつかも地方や名所について、その意義について学ぶ。事例としてストーンヘンジの歴史的、宗教的、社会的な意義について解説する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>イギリスの治安 現代のイギリスが直面する治安の課題と諜報機関について学習する。後半では、イギリスの諜報機関のポップカルチャーへの影響を分析する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>学生の間中間プレゼンテーション 各学生は、イギリス文化に関連するトピックについてプレゼンテーションを行う。</p>	<p>プレゼンテーションの準備。中間テストへの準備。(90分)</p>	<p>プレゼンテーションへのフィードバックを振り返り復習する。中間テストへの準備。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>中間テストの実施 これまでの内容の復習とまとめを行い、各学生の理解度を確認する。</p>	<p>中間テストへの準備。(90分)</p>	<p>中間テストの振り返りと復習。学習改善の方向性の考察。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>ウエストミンスター大聖堂 この講義では、ウエストミンスター大聖堂とその歴史、そこに関わる人物たちに焦点を当てて学習する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>イギリスのポップカルチャー ポップカルチャーを代表する人物たちやコンテンツについて考察する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>イギリスの現代史 20世紀と21世紀におけるイギリスの重要な出来事について学習する。特に、第2次世界大戦、フォークランド紛争、アフガニスタン紛争、ブレグジット、コロナ禍について。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>イギリスの観光産業(1) イギリスの観光について、レイク・ディストリクトやウィリアム・シェイクスピアなどを事例に考察する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>イギリスの観光産業(2) 前回は引き続きイギリスの観光産業について学習する。この回では、スコットランドのウエスト・ハイランド・ウエイなどに焦点を当てる。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>学生の最終プレゼンテーション 各学生は、イギリス文化に関連するトピックについてプレゼンテーションを行う。</p>	<p>プレゼンテーションの準備。最終テストの準備を始める。(90分)</p>	<p>プレゼンテーションへのフィードバックを振り返り復習する。最終テストへの準備。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>最終テストの実施 これまでの内容の復習とまとめを行い、各学生の理解度を確認する。</p>	<p>最終テストに向けて準備する。(90分)</p>	<p>これまでの授業全体と最終テストの内容について振り返り、今後の学習改善の方向性について考察すること。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加への積極性 20% 中間テスト 40% 期末テスト 40%
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし。		
<b>参考文献</b>		

各授業で関連する文献や参考資料を適宜指示または配布。

**履修条件・留意事項等**

イギリスの社会や文化、歴史にさまざまな形で興味関心を持つ学生を歓迎します。

**備考欄**

特になし。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								大学院 グローバルコミュニケーション研究科											
区分								言語文化コミュニケーション・コース 英語・英米文化コミュニケーション領域											
科目名								英語文献翻訳実践演習A								ナンバリング			
配当年次		1年		開講学期		2026年度前期		区分				単位		2					
担当教員		高橋 保夫																	

授業の位置づけ

ディプロマポリシーとの関連で言えば、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えていることを達成するための科目である。「英語文献翻訳実践演習B」と関連を持つ。

授業の概要

本授業では英語から日本語への翻訳を行う。テキストとして、世界的に著名な言語学者である David Crystal が書いた非常にわかりやすいことばに関する本である、A Little Book of Language を用い、ことばに関する知識を得ながら、翻訳を学ぶ。

到達目標

- ・英語の文献を読んで討論することができる。
- ・理解した内容を直訳から日本語らしい日本語に適用することができる。
- ・日英語そして日英の文化の違いについての比較ができる。

**授業の方法**

はじめは板書を使った講義形式、適宜輪読・発表形式に移行する。

**ICT活用**

なし

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

授業内での発表、提出物にはコメントをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する。 ACCENTS AND DIALECTS</p>	<p>受講動機について尋ねられるので、準備しておく。(90分)</p>	<p>授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>BEING BILINGUAL</p>	<p>次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)</p>	<p>授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>THE LANGUAGES OF THE WORLD</p>	<p>次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)</p>	<p>授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第4回	THE ORIGINS OF SPEECH	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第5回	MODERN WRITING	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第6回	SIGN LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第7回	COMPARING LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第8回	DYING LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第9回	LANGUAGE CHANGE	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

<p>第10回</p>	<p>LANGUAGE VARIATION</p>	<p>次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)</p>	<p>授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>LANGUAGE AT WORK</p>	<p>次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)</p>	<p>授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>SLANG</p>	<p>次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)</p>	<p>授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	DICTIONARIES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第14回	ETYMOLOGY	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第15回	PLACE NAMES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(40%)、課題提出(40%)、質疑応答(20%)
その他	0	
<b>教科書</b>		
A Little Book of Language / David Crystal / Yale University Press		
<b>参考文献</b>		

授業内に適宜指示する。

**履修条件・留意事項等**

予習・復習をしっかりとすること。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								大学院 グローバルコミュニケーション研究科											
区分								言語文化コミュニケーション・コース 英語・英米文化コミュニケーション領域											
科目名								英語文献翻訳実践演習B								ナンバリング			
配当年次		1年		開講学期		2026年度後期		区分				単位		2					
担当教員		渡部 淳																	

授業の位置づけ

各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語能力を身につけるための科目である。  
「英語文献翻訳実践演習A」と関連する科目である。

授業の概要

現代日本・東アジアなど事例の日本語の文献を実際に英語に翻訳する中で、学術文献の理解を実践的に学ぶ科目である。

到達目標

各種学術文献を自分の力で理解し、適切に翻訳することができる。そしてそれにしたがった議論を組み立てることができる。

**授業の方法**

- ・学生の研究分野に関連する学術文献を選定し翻訳する。
- ・学生は指定された文献の指定された箇所を毎回実際に翻訳してくる。
- ・授業では、学生が提出した翻案をクラス全体で議論しながら、修正し理解・翻訳の技能を会得する。

**ICT活用**

翻訳のリソースとしてweb上のドキュメントを使うことがある。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

各回の授業内で、各自の提出課題に対して適切な指導とアドバイスをを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>・オリエンテーション 授業内容、進め方などについての説明。</p>	<p>シラバスをよく読み、授業内容と進行に必要な知識を学習しておく。(90分)</p>	<p>オリエンテーションの内容を復習し、自分の研究分野や研究対象を整理する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>・各学生の研究分野の共有 各学生が大学院でどのような研究関心を持っているのかをプレゼンしてもらい、翻訳する文献の選定を行う。</p>	<p>自分の研究分野や対象についてのプレゼンテーションの準備を行う(90分)</p>	<p>授業中に提示された文献について自らリサーチを行い、自分に合った文献の種類やレベルを絞り込む(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>・文献翻訳実践演習1 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>・文献翻訳実践演習2 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>・文献翻訳実践演習3 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>・文献翻訳実践演習4 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>・文献翻訳実践演習5 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>・文献翻訳実践演習6 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>・文献翻訳実践演習7 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>・文献翻訳実践演習8 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>・文献翻訳実践演習9 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>・文献翻訳実践演習10 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのためのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>・文献翻訳実践演習11 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>・文献翻訳実践演習12 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>・まとめと講評 各学生のこれまでの翻訳を振り返り、各自の翻訳の特性や問題点などを整理・指摘し、今後の学術文献翻訳へのアドバイスをを行う。</p>	<p>これまでの自分の翻訳を振り返り、自己評価を行う。(90分)</p>	<p>授業での指摘やアドバイスを自分なりにまとめ、今後の翻訳の指針となるノートを作成する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席態度(20%) 課題の提出率(30%) 提出課題のクオリティー(30%) 議論参加への積極性(20%)
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		

なし
<b>履修条件・留意事項等</b>
術文献の理解と翻訳に真剣に取り組む、向学心の旺盛な学生を歓迎する。
<b>備考欄</b>

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中国学特殊研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	魯 諤						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応える能力を身につけるための科目である。「中日言語文化特別演習Ⅱ」と相互に関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>この授業は改革・開放以来の中国メディアの変容と実態を考察し、検討する。具体的な事例を取り上げつつ、メディアと政治、経済、社会との相互関係を分析し、問題点について議論する。合わせて日本のメディア事情にも触れ、比較の視座から、メディアが果たす役割を検討し、問題意識を高める。</p>							
<b>到達目標</b>							

改革・開放以来の中国メディアの変容を理解し、現在の中国メディアの実態について説明することができる。中国に関する情報やニュースに触れるときに、複眼で見る力をつけることができる。中国メディアの日本に関する報道の問題点と原因について説明することができる。

**授業の方法**

この授業は、担当教員の解説、前もって課題とした文献や配布プリントについての受講者による報告、これまでの授業を踏まえての受講者の口頭発表から構成される。

**ICT活用**

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。口頭発表については事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	①オリエンテーション ②中国のメディア事情について説明し、履修者に関心を持つテーマを聞く。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員 魯 諍			
第2回	第1セッション(第2～4回)メディアの市場化メディア制度の変容 第2回 中国の大衆紙の急成長とその問題点について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員 魯 諍			
第3回	第3回 メディア融合戦略とメディアの再編について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第1セッションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員 魯 諍			

<p>第4回</p>	<p>第4回 プレゼンテーション1 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。</p>	<p>プレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第5回</p>	<p>第2セッション(第5～8回) メディアと政治 第5回 中国のメディア管理体制と変容について議論する。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第6回</p>	<p>第6回 報道規制(内容規制)の実態と変容について議論する。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第7回</p>	<p>第7回 中国当局はSNSメディアをどう管理しているかを説明する。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>第2セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第8回</p>	<p>第8回 プレゼンテーション2 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。</p>	<p>プレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第9回</p>	<p>第3セクション(第9～12回)メディアの役割 第9回 突発事件報道について学ぶ 「SARS報道」と「新型コロナウイルス報道」を比較し、問題点を検討する。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第10回</p>	<p>第10回 世論監督(メディアの監視機能) 「焦点訪談」、「新聞調査」などのテレビ番組や、大衆紙の「調査報道」の盛衰について紹介する。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第11回</p>	<p>第11回 SNSメディアの急成長とその問題点について議論する。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>第3セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第12回</p>	<p>第12回 プレゼンテーション3 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。</p>	<p>プレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第13回</p>	<p>第4セクション 中国の国際報道と対外宣伝 第13回 中国の国際報道に関するメディア政策について説明する。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第14回</p>	<p>第14回 中国当局がソフトパワーを高めるために行う「対外宣伝」について説明する。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第15回</p>	<p>講義のまとめ: 講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。</p>	<p>これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)</p>	<p>フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20%)、文献の報告及び口頭発表(40%)、期末レポート(40%)
その他	0	
<b>教科書</b>		
プリントを配布または配信する。		
<b>参考文献</b>		

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

**履修条件・留意事項等**

1回目の授業に必ず出席すること(出席できない場合、事前に担当教員に連絡すること)。指定する文献には、報告者のみならず参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。

**備考欄**

無断欠席は必ず減点要素となる。

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
<b>区分</b>		言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
<b>科目名</b>		中日言語文化特別演習 I				<b>ナンバリング</b>	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2026年度前期	<b>区分</b>		<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	巫 靨						

**授業の位置づけ**

本科目はディプロマ・ポリシーの「言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる」と特に関連のある科目であり、「中日言語文化特別演習Ⅱ」と連携する科目である。

**授業の概要**

授業では中国語、日本語をはじめとする漢字圏の言語に焦点を当て、近代以降、ことばと国家の関係について考察し、検討する。

**到達目標**

- ①近代以降、東アジア各国における標準語・公用語が生まれる歴史的経緯が総合的に理解できる。
- ②事例を通して、ことばと国家の関係が説明できる。
- ③特定のトピックについて文献収集、分析、整理ができる。

**授業の方法**

この授業は、教員の解説、履修者の口頭発表、口頭発表の内容に基づき検討から構成される。

**ICT活用**

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の授業で質問・感想票の記入を実施し、それに対し教員が回答する。また履修者の口頭発表に対し、授業で適宜コメントとアドバイスを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	ガイダンス	ことばと国家の関係について自分の問題意識を整理する(90分)。	授業のガイダンスを理解し、授業での議論を整理する(90分)。
担当教員			
第2回	村田雄二郎「漢字圏の言語」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	若林正文「台湾の近現代と二つの「国語」」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第4回	安田敏朗「国語・日本語・帝国」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第5回	平田昌司「しゃべるな 危険:17-20世紀中国の女のことば」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第6回	齋藤希史「漢文の命脈:古典文から今体文」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第7回	伊藤徳也「近代中国における文学言語」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	中島隆博「鬼を打つ:白話、古文そして歴史」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	岩月純一「近代ベトナムにおける「漢字」の問題」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

<p>第10回</p>	<p>生越直樹「朝鮮語と漢字」</p>	<p>学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。</p>	<p>学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>C・ラマール「地域語で書くこと:客家語のケース(1860-1910)」</p>	<p>学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。</p>	<p>学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>都留俊太郎「台湾語 王育徳における大衆と「チャンボン語」」</p>	<p>学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。</p>	<p>学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	包福昇「モンゴル語 中ソのあいだで揺れる正書法」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第14回	呉永鎬「朝鮮語 失われた「私たちの言葉と文字(ウリマルクアル)」を求めて」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ	今学期学習した内容を復習する(90分)。	授業での議論を整理し、レポートを作成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習など) 30% 口頭発表 30% レポート 40%
その他	0	
<b>教科書</b>		
『漢字圏の近代』村田雄二郎ほか編、東京大学出版会、2005年。 『生活綴方で編む「戦後史」』駒込武編、岩波書店、2020年。		
<b>参考文献</b>		

なし。

**履修条件・留意事項等**

無断欠席は必ず減点要素になる。  
指定された文献は、報告者のみならず履修者全員が事前に熟読する。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								大学院 グローバルコミュニケーション研究科											
区分								言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域											
科目名								中日言語文化特別演習Ⅱ								ナンバリング			
配当年次		1年		開講学期		2026年度後期		区分				単位		2					
担当教員		魯 諱																	

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応える能力を身につける」ことを追求する科目である。「中国学特殊研究Ⅰ」と「中日言語文化特別演習Ⅰ」と関連性を持つ科目である。

授業の概要

この授業は中国メディアの日本に対する報道と中国人の「日本イメージ」の形成との関連性を考察し、検討する。具体的な事例を取り上げつつ、中国メディアによる日本に関する報道の問題点について議論する。合わせて日本メディアによる中国に関する報道にも触れ、比較の視座から、国際ニュース報道におけるメディアの役割を検討し、問題意識を高める。

到達目標

中国メディアの国際報道の問題点について指摘することができる。中国メディアの日本に対する報道の実態について述べることができる。中国人の「日本イメージ」の形成との関連性について説明することができる。

**授業の方法**

この授業は、担当教員の解説、前もって課題とした文献や配布プリントについての受講者による報告、これまでの授業を踏まえての受講者の口頭発表から構成される。

**ICT活用**

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。口頭発表については事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>①オリエンテーション ②歴史に見る中国人の日本イメージについて学ぶ。</p>	<p>シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第2回</p>	<p>第1セッション(第2～5回)中国メディアの国際ニュース報道の構造 第2回 中国のメディア制度と変容について学ぶ。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第3回</p>	<p>第3回 中国メディアの国際ニュース報道の特性について学ぶ。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第4回</p>	<p>第4回 中国メディアの日本に関する報道の特性について学ぶ。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>第1セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第5回</p>	<p>第5回 プレゼンテーション1 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。</p>	<p>プレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第6回</p>	<p>第2セクション(第6～9回) 事例研究(マスメディアの日対日報道) 第6回 歴史問題に関する報道の事例を分析し、議論を行う。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第7回</p>	<p>第7回 領土問題に関する報道の事例を分析し、議論を行う。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第8回</p>	<p>第8回 日本の対中経済協力に関する報道の事例を分析し、議論を行う。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第9回</p>	<p>第9回 テレビが伝えた日本のイメージ 中国の映画やドラマの中の日本人のイメージを考察し、分析する。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>第2セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

<p>第10回</p>	<p>第10回 プレゼンテーション2 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。</p>	<p>プレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第11回</p>	<p>第3セクション(第11～13回)事例研究(ネットメディアと日本イメージ) 第11回 3・11東日本大震災に関する報道の事例を分析し、議論を行う。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			
<p>第12回</p>	<p>第12回 新型コロナウイルスが中国・武漢で感染が拡大する中、日本の自治体などが中国を物資支援する報道の事例を分析し、議論を行う。</p>	<p>配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)</p>
<p>担当教員 魯 諍</p>			

第13回	第13回 動画共有サイトおよびエンターテインメントコンテンツのプラットフォーム「Bilibili動画」を取り上げ、日本に関するコンテンツを分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第3セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員 魯 諍			
第14回	第14回 プレゼンテーション3 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員 魯 諍			
第15回	講義のまとめ: 講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員 魯 諍			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20%)、文献の報告及び口頭発表(40%)、期末レポート(40%)
その他	0	
<b>教科書</b>		
プリントを配布または配信する。		
<b>参考文献</b>		

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

**履修条件・留意事項等**

1回目の授業に必ず出席すること(出席できない場合、事前に担当教員に連絡すること)。指定する文献には、報告者のみならず参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。

**備考欄**

無断欠席は必ず減点要素になる。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中国語文献翻訳実践演習A				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	巫 靨						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>本講はディプロマポリシーに掲げている「各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備える」ことを目指す科目である。「中国語文献翻訳実践演習B」と連携している科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>本講は前半では母語、国家語など現在において自明と考えられる概念を問い直し、その決して長くない歴史を確認することを通して、ことばとナショナル・アイデンティティの関係について深く検討する。後半では具体的な事例として、第二次世界大戦後の台湾における「国語(戦後の台湾の場合は中国語を指す)」運動に着目し、戦後台湾の言語政策を概観し、いかなる要因が人々の「国語」決定に影響したのかを詳しく考察する。</p>							
<b>到達目標</b>							

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母語、国家語などの基本概念が把握できる。</li> <li>2. 事例を通して、ことばとナショナル・アイデンティティの関係について総合的かつ高度な知識が説明できる。</li> <li>3. 第二次世界大戦後の台湾における言語政策の状況が総合的に説明できる。</li> </ol>
---

**授業の方法**

<p>本講は担当教員の解説、履修者の口頭発表、そしてそれに基づくグループ議論の形式で進める。</p>
--

**ICT活用**

<p>Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。</p>
---

**実務経験のある教員の教育内容**

<p>該当なし。</p>
--------------

**課題に対するフィードバックの方法**

<p>毎回の口頭発表後に、問題点や改善点についてアドバイスを出し、重要なポイントについて議論し、理解を深める。</p>
---

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	田中克彦『ことばと国家』第1、2章: 母語とは何か。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第2回	田中克彦『ことばと国家』第3、4、5章: 国家語とは何か。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	田中克彦『ことばと国家』第6、7章: 方言とは何か。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>田中克彦『ことばと国家』第8、9章:ピジン語・クレオール語の挑戦。</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>菅野敦志『台湾の言語と文字』序章「脱日本化」・「中国化」・「本土化」と戦後台湾の言語・文字政策</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>菅野敦志『台湾の言語と文字』第1章「光復」と脱植民地化の現実</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

第7回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第2章 過渡期における国語と方言	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第3章 台湾に消えたもうひとつの「国語」運動	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第4章 台湾における「簡体字論争」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

<p>第10回</p>	<p>菅野敦志『台湾の言語と文字』第5章 中華文化復興運動と言語的一元化</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>菅野敦志『台湾の言語と文字』第6章 台湾人と「方言」</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>菅野敦志『台湾の言語と文字』第7章 言語問題の政治家へ</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第8章「本土化」と「母語」教育	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第14回	菅野敦志『台湾の言語と文字』終章 台湾言語政策史像の再構築	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ:中国語とは何か。	今学期学んだ内容をまとめる(90分)。	授業中の議論を整理し、レポートを作成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習) 30% 授業内口頭発表 30% レポート 40%
その他	0	

**教科書**

『ことばと国家』田中克彦著、岩波書店、1981年。  
『台湾の言語と文字:「国語」・「方言」・「文字改革」』菅野敦志著、勁草書房、2012年。

**参考文献**

なし。

**履修条件・留意事項等**

授業内容に関連する文献を読み、理解を深める。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中国語文献翻訳実践演習B				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	巫 靨						

授業の位置づけ

本講はディプロマポリシーに掲げている「各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備える」と関連のある科目である。「中国語文献翻訳実践演習A」と連携している科目である。

授業の概要

本講は「漢文」に焦点を合わせ、日中の近代文化交流や日本の近代国家形成の過程、台湾や朝鮮半島に対する植民地経営において「漢文」の果たした役割について詳しく検討すると同時に、「漢文」の東アジア各社会における歴史的な役割、共通点、相違点、さらに現代の中国語教育に与える影響を明らかにする。より広い視野で漢字圏の可能性について考察する。

到達目標

1. 近世(安土桃山・江戸時代)から近代(明治時代以降)において「漢文」が東アジアの国際交流、日本の近代国家形成、植民地統治に果たした役割について説明できる。  
 2. 漢文が現代の中国語教育に与える影響が総合的に理解できる。  
 3. 特定のトピックに関する資料の収集、分析、要約ができる。

**授業の方法**

本講は担当教員の解説、履修者の口頭発表、そしてそれに基づくグループ議論の形式で進める。

**ICT活用**

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の口頭発表後に、問題点や改善点についてアドバイスをし、重要なポイントにおいては議論し、理解を深める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	①ガイダンス ②「近代日本と漢文教育」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第2回	町泉寿郎「漢文教育の近世・近代」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	平崎真右「近代日本の教育制度と「漢文」」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>町泉寿郎「二松学舎の歴史から見る近代漢文教育の変遷」</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>川邊雄大「漢文教科書に見る咸宜園関係者の漢詩文採録について」</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>菊地隆雄「昭和期戦前の漢文環境」</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

第7回	川邊雄大「外地の「漢文」教科書について:台湾を例として」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	白柳弘幸「台湾総督府発行『漢文教科書』と漢文科設置」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	白柳弘幸「台湾公学校漢文科と本島人教員」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

<p>第10回</p>	<p>川邊雄大「戦前期台湾における日本人漢文教師の足蹟」</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>朴暎美「韓国における近代的漢学専門高等教育機関と支那哲文学科」</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>張三妮・町泉寿郎「日韓併合前後の漢文教育」</p>	<p>学習予定の内容を予習する(90分)。</p>	<p>授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	朴暎美「一九三〇年<『新編 高等朝鮮語及漢文読本』の改編要望件>について」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第14回	張三妮「伊沢修二の清末中国教育に関する言説と出版活動」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ	今学期学んだ内容をまとめる(90分)。	授業中の議論を整理し、レポートを作成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習など) 30% 口頭発表 30% レポート 40%
その他	0	

**教科書**

『近代東アジア漢文教育の研究Ⅰ 日本統治下の台湾・朝鮮と漢文教育』町泉寿郎編、戎光祥出版、2023年。

**参考文献**

なし。

**履修条件・留意事項等**

授業内容に関連する文献を読み、理解を深める。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
<b>区分</b>		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
<b>科目名</b>		日本語学特殊研究 I				<b>ナンバリング</b>	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2026年度前期	<b>区分</b>		<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	小西 正人						

**授業の位置づけ**

各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めて、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。「日本語学特殊研究Ⅱ」「日本言語文化特殊演習」および他の語学系科目と関連をもつ。具体的には、本科目で言語学の基礎を学び、「日本語学特殊研究Ⅱ」で日本語学の基礎を学ぶ。

**授業の概要**

日本語の特質を知るためには、その理論的背景を元に、実際の使用を観察するとともに、他言語との比較をおこなうことが重要である。本授業では窪田晴夫[編著] 2019『よくわかる言語学』(ミネルヴァ書房)を読みながら日本語学の基本事項を講義するとともに、それを元に実際の使用および他言語との比較を試みる。

**到達目標**

1. 言語学についてひとつひとつの基本事項をおさえるとともに、観察と比較を通じてそれらを有機的に関連づけることができる。
2. 教科書等に出てくる術語について主体的に調べ、説明することができる。
3. 教科書等を批判的に読み、曖昧な記述を指摘し、適切な反例を挙げるができる。

**授業の方法**

事前にしっかりと教科書を読み込み、不明部分についてはそれぞれがしっかりと事前学習して来ることを前提にした授業を行う。板書・教科書が中心であるが、常に教員から受講生に問いかけ、受講生がそれに答えるという問題解決学習・調査学習形式をとる。

**ICT活用**

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

課題発表をもとに授業を組み立てるため、授業中にコメントや評価、学修に際しての注意点の指導等を細かく行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>言語学の概要 教科書序章「言語学とは何か」</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>音声・音韻(1) 教科書 1「音声・音韻」pp14-29:母音と子音、母音の有標性、音声素性と母音融合、子音の発音、子音の有標性、音素と異音、連濁とライマンの法則、連濁と形態音素交替</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>音声・音韻(2) 教科書 1「音声・音韻」pp30-45:モーラの役割、音節構造(日本語・英語)、語の韻律構造、アクセントの種類、アクセントの規則、音韻構造と統語・意味構造、リズム</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>形態論(1) 教科書 2「形態論・語形成」pp46-55: 複雑語のまとめ、複雑語の構造、語形成の生産性と心内辞書、規則活用と不規則活用、新しい動詞の作られ方</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>形態論(2) 教科書 2「形態論・語形成」pp56-63: 複合名詞の意味、動詞由来複合語、派生名詞の多義、語のまとめを超える語形成</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>生成文法(1) 教科書 4「生成文法」pp86-91: 統語論とは何か、文の構造、文の構造と「移動」</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>生成文法(2) 教科書 4「生成文法」pp92-97:移動の制約、繰り上げ構文、繰り上げ構文とコントロール構文</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>認知言語学・日本語文法(1) 教科書 5「認知言語学・日本語文法」pp98-105:全称量化と存在量化、世界のデフォルト状態、事物のカテゴリ化、文法化</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>認知言語学・日本語文法(2) 教科書 5「認知言語学・日本語文法」pp106-113:デキゴト表現、きもちの文法、体験と知識、並列標識の偏った現れ</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>歴史言語学(1) 教科書 7「歴史言語学」pp134-137:動詞の活用、動詞の複合</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>歴史言語学(2) 教科書 7「歴史言語学」pp138-143:主格助詞「が」、使役文、丁寧語</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>方言・社会言語学 教科書 8「方言・社会言語学」pp144-153:地域方言、社会方言、言語接触、スタイル、インターアクション</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>心理言語学 教科書 9「心理言語学」pp154-169:音素の特定・モーラの切り出し、多義性とガーデンパス、文法の個別性と文処理装置の普遍性、文処理で使われる情報いろいろ、音のきまりの獲得、語の獲得、文法の獲得、第二言語の獲得</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>言語類型論(1) 教科書 11「言語類型論」pp182-187:語族・類型・文字、言語普遍性、語順類型論</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>言語類型論(2) 教科書 11「言語類型論」pp188-191:アラインメント、意味類型論</p>	<p>教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)</p>	<p>講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(50%)、質疑応答(30%)、課題提出(20%)、いずれも授業の理解度を含む。
その他	0	
<b>教科書</b>		
よくわかる言語学／窪菌晴夫[編著]／ミネルヴァ書房		
<b>参考文献</b>		

明解言語学辞典／斎藤純男ほか[編]／三省堂

**履修条件・留意事項等**

初回から教科書を使用しますので、受講予定者は早めに購入して事前に目を通しておいください。

**備考欄**

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								大学院 グローバルコミュニケーション研究科	
区分								言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域	
科目名								日本語学特殊研究Ⅱ	ナンバリング
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2		
担当教員	小西 正人								

## 授業の位置づけ

研究科本専攻の教育課程方針に基づき、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、かつ各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。「日本語学特殊研究Ⅰ」および各語学系科目と関連をもつ。

## 授業の概要

日本語学について通時的・共時的理解を深めるため、衣畑智秀編 2019『基礎日本語学』(ひつじ書房)を読み進める。講義形式で内容について簡単な講義をしたのち、そこで扱ったキーワード等について受講者はさらに深く調査し、発表を行う。また関連する論文等を紹介し、適宜授業内で解説する。

## 到達目標

1. 日本語学の基礎的事項について理解し、説明・応用できる。  
 2. 文献を批判的に読み、記述が曖昧であるところを指摘し、また記述内容に対する類例および反例を指摘することができる。  
 3. 日本語教師となる場合に受ける可能性のある語学的質問(歴史を含む)に適切に対処・説明できる。

**授業の方法**

おもに板書を中心に、講義形式、および発表方式で授業を行う。  
 また適宜理解度確認の質疑応答等を設け、受講者の理解を確認する。

**ICT活用**

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

授業での担当箇所発表時に適宜、口頭にて指導を行う。また授業内レポート等の課題については、詳細にコメントをつけて直接返却する(口頭コメントを含む)。さらに適宜確認テストを行い、理解度を確認する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	イントロダクション 教科書の説明、および簡単なガイダンスを行う。	各受講者の受講動機と研究テーマを尋ねますので準備しておいてください(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第2回	教科書第1章「現代日本語の音声と音韻」その1 現代日本語の音声について、音声学を中心に学び、用語等を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第3回	教科書第1章「現代日本語の音声と音韻」その2 前回の授業と対比し、音素やアクセント等について理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>教科書第2章「音韻の歴史変化」 日本語の音韻の歴史変化について、基礎知識とその流れを理解する。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>教科書第3章「現代日本語の文法」 現代日本語の文法について、形態論・統語論・意味論・語用論という観点から概略を理解する。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>教科書第4章「文法の歴史変化」 前回学んだ内容について、その歴史の変遷を理解する。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>教科書第5章「現代日本語の語彙」 形態論等と関連させながら、おもに日本語の語彙について理解する。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>教科書第6章「語と語彙の歴史的变化」 前回見た語彙について、その歴史的な変遷をみるとともに、その位置づけを行う。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>予備日(これまでの復習を行う)</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>教科書第7章「文章論と談話分析」 文章と談話について、教科書の内容を理解する。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>教科書第8章「文体差と文体史」 文体差と文体史について、教科書に書かれている内容を理解する。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>教科書第9章「言葉の変異と諸方言」 変異と方言について、教科書の内容を理解する。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>教科書第10章「コーパスと統計」 コーパスと統計について、教科書の内容を理解する。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>教科書第11章「理論的研究とは？」 教科書の実例をもとに、理論的研究の方法について理解する。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>教科書第12章「日本語学史」 教科書の内容について学び、追加資料等により学びを深める。</p>	<p>教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)</p>	<p>授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(50%)、授業内レポート等の課題(40%)、質疑応答(10%)
その他	0	
<b>教科書</b>		
基礎日本語学／衣畑智秀編／ひつじ書房		
<b>参考文献</b>		

明解言語学辞典／斎藤純男・田口善久・西村義樹編／三省堂  
明解日本語学辞典／森山卓郎・渋谷勝己編／三省堂

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
<b>区分</b>		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
<b>科目名</b>		日本言語文化特別研究				<b>ナンバリング</b>	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2026年度後期	<b>区分</b>		<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	小西 正人						

**授業の位置づけ**

研究科本専攻の教育課程方針に基づき、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、また言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまなニーズに応えることができるようになるための科目である。この科目は「日本語学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」を発展させた演習科目であると同時に、他の言語関係の諸科目と関連をもつ。

**授業の概要**

この講義では言語一般の特徴である「構造依存性」について学ぶ。そのために生成文法入門書であるHaegeman2006を講読し、文の階層構造とその意義について学ぶ。ここでは英語について学ぶが、仮説演繹的に論証する論証法になじむことも目的とする。また後半は言語学的観点からの日本語を取り上げ、受講者同士で論じる。授業では日本語の「使い分け」用法のレベルではなく、より原理的な視点からの考察を予定している。

**到達目標**

1. 言語の構造依存性について理解し、説明できる。  
 2. 主張に対する実証的な論証を理解し、自ら構成できる。  
 3. 英語および日本語について、文法範疇とその具体的なあらわれ、および階層構造化を理解し、他の例に応用できる。

**授業の方法**

教科書を中心に、板書(必要に応じてパワーポイント)により授業を進める。  
 はじめは講義形式で行うが、基本的には受講者の輪読・発表方式(演習方式)を進める。  
 適宜理解度テストを実施し、理解度を確認する。

**ICT活用**

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

適宜行う確認小テストはその場で採点して返却し、理解が不十分であると思われる箇所は説明する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション 言語の構造依存性について:言語の有限性と無限性を学修する。はじめて聞いた文でも意味がわかるのはなぜかということについて、簡単に説明する。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.1.1「言語の科学的研究」について 言語学で扱われる論証方法について、「科学的」というタイトルの名の下に論証方法を学修する。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.1.2-3「言語データと一般化」について 言語学で扱われるデータとその一般化について、特に第2節の英語データの一般化について丁寧に学修する。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.1 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.2.1「文・動詞句の構造」について(その1) 動詞句の構造について示唆する実証的なデータを挙げ、構造を決定していく。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.2.2「文・動詞句の構造」について(その2) 文・動詞句の構造についての理論的な要請について考察を行う。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.2.3「指定部」について 名詞句の構造を併せて考察し、動詞句および文の構造を再考する。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.2 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.3.1「助動詞のない文の構造」について 助動詞のない文の構造について、前章までの知見と方法を運用してさらに考察を行う。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.3.2-4「文構造の理論的説明」について 助動詞のない文の構造についての理論的な要請および概念について、導入と考察を行う。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>Haegeman2006: Ch.3 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>日本語の階層構造について 南不二夫の提唱した日本語の階層構造についての文章を読み、日本語の階層構造について考える。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>日本語の階層構造について 日本語の副詞(節)に関する論文(野田尚史2013「日本語の副詞・副詞節の階層構造と語順」)を読み、日本語の階層構造について考える。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>日本語の階層構造について 日本語の名詞修飾に関する論文(益岡隆志2013「名詞修飾節と文の意味階層構造」)を読み、日本語の階層構造について考える。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>日本語の階層構造について 日本語の用言複合体について書かれた著作を読み、日本語の階層構造について考える。</p>	<p>授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)</p>	<p>授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(30%)、理解度確認小テスト(30%)、授業内レポート等の課題(20%)、質疑応答(20%)
その他	0	
<b>教科書</b>		
Thinking Syntactically. A Guide to Argumentation and Analysis./Liliane Haegeman/Blackwell Publishing		
<b>参考文献</b>		

授業内で適宜指示する。

**履修条件・留意事項等**

テキストは英文なので、英文を適切に読み日本語でまとめられることが条件となる。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本語教育学研究 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

国際社会で活躍する日本語教員志望者および現職日本語教師のための外国語教授法理論の探求とより高度な実践方法を研究し、専門的な知識および技能を身につけるための科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、かつ各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。他の「日本語教育学研究」科目、および「日本語学特殊研究」科目と並行して学び、日本語知識を深めながら実践へと発展させる。

授業の概要

外国語としての日本語を学ぶために、世界の他の言語を学びながら、実践的に理解する。具体的には授業計画に記されている言語を初級から学び、日本語(および受講者の母語)との比較を常に行いながら各言語および日本語を理解し、教授する際の知識としてこれらのことを修得する。

到達目標

1. 各言語の初級文法知識を身につけ、使用できる。
2. それらの方法を用いて他の未習言語の振る舞いを予測できる。
3. 各言語の発音法に応じて発音ができる。
4. 世界の言語について一定程度の配慮ができる。

**授業の方法**

板書・配布資料・視聴覚メディアを活用しながら、講義形式を進める。ただし毎回の課題および発音、会話の各受講者の理解度を毎時間確認し、徹底的に身につけてもらう。

**ICT活用**

Google Workspaceに付属している機能(Google Formなど)によって練習問題等を提供し、課題および自主学習を促す。またGoogle Classroomにて参考資料や参考HPを紹介したり、補足資料などを随時提供する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

**課題に対するフィードバックの方法**

課題は基本的にはコピーを提出してもらい、授業内で問題点を共有しつつ自己チェックで各自の問題点を自発的に見つけてもらう。小テストは可能な限り翌週に返却し、課題提出と併せて詳細な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション・イントロダクション                  授業の進め方、評価方法、心がまえなどについて説明。                  世界の言語:世界の言語はどのようにして分かれたのか、                  どれが兄弟・親子関係にあるのかについて。                  フランス語(1):アルファベットと発音、名詞と冠詞について                  学習する。                  韓国語:ハングルの形成法、基本母音字10個を学習する。</p>	<p>自分の外国語学習を振り返り、                  学習困難であったときの要因を                  振り返る(90分)</p>	<p>フランス語の名詞と冠詞につい                  て、およびハングルの基本母音                  字について復習(180分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>※以下、各言語について会話文を覚えるほど発音練習し                  てもらいます。                  フランス語(2):人称と動詞変化(活用)について学習する。                  韓国語:基本母音字の復習、子音字(가·나·다·라·마·바                  ·사)を学修する。                  アイヌ語:言語背景、文字と発音、およびあいさつ言葉など                  の紹介。</p>	<p>フランス語の人称変化に関する                  資料を配布あるいは周知するの                  で読んでおく(60分)</p>	<p>フランス語の人称変化に関する                  練習問題、および韓国語の基本                  母音字・子音字(가·나·다·라·                  마·바·사)の練習問題(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>フランス語(3):所有形容詞、指示詞について学習する。                  韓国語:その他の基本子音字を学習する。                  アイヌ語:会話に挑戦! 第1課「これはギョウジャンニク?                  」</p>	<p>韓国語の子音字(平音)を復習                  してすぐに読めるようにしておく(                  30分)</p>	<p>フランス語の所有形容詞および                  指示詞に関する問題、韓国語の                  基本子音字に関する課題(150                  分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>フランス語(4):人称代名詞(対格・与格)、形容詞について学習する。 韓国語:激音、濃音を学習する。そろそろ韓国語会話にも挑戦する。 アイヌ語:会話に挑戦!第1課復習。</p>	<p>韓国語の基本子音字について復習(30分)</p>	<p>フランス語の試験準備、および韓国語の会話暗誦(180分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>フランス語筆記・会話テスト 韓国語:合成母音字を学習する。引き続き韓国語会話に挑戦。</p>	<p>フランス語筆記テストの準備(120分):事前に昨年のテストを配布します。</p>	<p>フランス語のテスト問題を解く(150分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>ドイツ語(1):発音および名詞(性および主格)について学習する。 韓国語:パッチムを学習する。 アイヌ語:会話に挑戦!第2課「カラスはトウモロコシを食べる」</p>	<p>韓国語会話練習(30分)</p>	<p>ドイツ語会話を覚える。これまで学んだハンデルを確実に覚える(150分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>ドイツ語(2):人称および動詞変化について学習する。 韓国語:ハンゲル発音テストプリントの説明、解説。 アイヌ語:会話に挑戦!第2課復習。</p>	<p>ハンゲルの復習(30分)</p>	<p>ドイツ語の人称変化に関する課題、およびハンゲル発音テストプリントの復習(150分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>ドイツ語(3):冠詞と格について学習する。 韓国語:指定詞이다, 助詞는/은について学習する。 アイヌ語:会話に挑戦!第3課「どこから来たの?」</p>	<p>ハンゲル発音テストの準備(60分)</p>	<p>ドイツ語の冠詞・格・人称代名詞に関する練習問題(150分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>ドイツ語・総復習時間(主に人称代名詞について) 印欧語について(文字・分布・特徴など)学習する。 韓国語:아니다, 助詞가/이を学習する。 アイヌ語:会話に挑戦!第3課復習。</p>	<p>ドイツ語筆記テストの準備(150分)</p>	<p>ドイツ語のテスト準備、および韓国語指定詞の練習問題(120分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>ドイツ語筆記・会話試験                  韓国語:存在詞있다, 助詞에を学習する。                  アイヌ語:会話に挑戦! 第4課「あなたのお名前は?」</p>	<p>ドイツの試験準備(150分)</p>	<p>ドイツ語試験問題を持ち帰って                  改めて解く(150分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>アラビア語(主に文字)について簡単に紹介。                  韓国語:練習問題をやりながら総合復習。                  アイヌ語:会話に挑戦! 第4課復習。</p>	<p>韓国語の復習(30分)</p>	<p>アラビア語の文字練習・会話練習、                  韓国語の復習・会話練習                  (150分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>スワヒリ語(1):文字と発音、人称・時制・アスペクトについて                  学習する。                  韓国語:합니다体、関連助詞を学習する。                  アイヌ語:会話に挑戦!(その5)</p>	<p>スワヒリ語について事前調査(30分)</p>	<p>スワヒリ語練習問題、韓国語練習                  問題(150分)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	スワヒリ語(2):名詞クラスについて学習する。 韓国語:数字、およびさまざまな助詞を学習する。 アイヌ語:会話に挑戦!第5課「働いて手が痛い」	スワヒリ語について事前学習(30分)	スワヒリ語および韓国語練習問題(150分)
担当教員			
第14回	スワヒリ語(3):総合復習、会話練習 韓国語:総復習 アイヌ語:会話総復習	韓国語の数字を暗誦(30分)	スワヒリ語テストの準備(180分)
担当教員			
第15回	スワヒリ語テスト、および解説等	テスト準備(180分)	テスト問題解答(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト(筆記および会話暗誦40%)、授業内の課題(ハングルテスト含む20%)、授業参加度(40%)による総合評価を行う。
その他	0	
<b>教科書</b>		
適宜、講義プリントを配布します。		
<b>参考文献</b>		

白水社「言葉のしくみ」シリーズ  
ビジュアル版世界言語百科／ピーター・K・オースティン編／椋風社  
事典 世界のことば141／梶茂樹他編／大修館書店  
The Languages of the World／Kenneth Katzner／Routledge  
ニューエクスプレスプラス アイヌ語／中川裕／白水社  
その他、授業中およびGoogle classroomにて適宜紹介します。

**履修条件・留意事項等**

毎回課題が出ます。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
<b>区分</b>		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
<b>科目名</b>		日本語教育学研究Ⅱ				<b>ナンバリング</b>	
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2026年度後期	<b>区分</b>		<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	岡本 佐智子						

**授業の位置づけ**

この授業は、日本語教師志望者を対象に、日本語学習支援の専門家育成として、外国語としての日本語の教授法理論とその教材分析、副教材作成等を通して、日本語教育の高度な日本語知識と教育方法を身につけていくものである(知識・技能)。日本語教育には、本研究科の「日本語・日本文化コミュニケーション領域」におけるすべての日本語科目と「異文化コミュニケーション研究」科目が強く関連しているが、本授業はその日本語教育に欠かせない科目として、外国語及び日本語教授法の理論を応用した部分的模擬授業やワークショップ等を行い、外国語としての日本語および日本語教育の知識を高めていく(知識・技能)。そこから、多様な学習者に対応できるよう、日本語教育のコースデザインから評価まで、言語文化コミュニケーション関連の総合的な知識を応用して、学習者別の授業プランが描けるようになる(知識・技能)。それらは演習によるピアレビューやアクションリサーチ・レポート作成で自律的教育研究につなげていく(思考・判断・表現)。本授業は、専門知識の応用となる「日本語教育学演習Ⅰ」科目と併せ、持続的教育能力の向上としての「日本語教育学演習Ⅱ」科目に連動する。

**授業の概要**

この授業では、経験の浅い日本語教師または初めての日本語教育に欠かせない日本語教授法の基礎を確認しつつ、タスクベースや教育内容重視の教授法を学び、学習目的に合わせたコースデザインが作れるようにしていく。また、実践的教員育成を目的として、初級・中級レベルの副教材作成とその演習・評価をしながら、教師の自己研鑽となるアクションリサーチ方法を身に付けていく。

**到達目標**

1. コースデザインとはなにか、具体的に説明できる。
2. 学習者の日本語能力レベルがある程度評価できる。
3. 学習ニーズや目的に合わせた教科書や副教材が選択できる。
4. 学習項目定着のための効果的な練習が提供できる。

**授業の方法**

教育方法の講義とその部分的学習項目に焦点を当てた模擬授業を行い、その振り返りで自己評価および受講者のピアレビューをして授業改善を考えていく。課題の副教材作成については、受講生どうしが協働して作成し、授業内で公開・発表していく。

**ICT活用**

Google Classroomを使って、授業資料の配信、課題提示と評価した返却を行う。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当しない。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題は次回授業までに、個別コメントを添えて返却する。優れた課題は講評して受講者たちで共有する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>多様な日本語学習ニーズを知る 国内外で学ぶ日本語学習者と日本語教師の現状</p>	<p>図書館で、クラス授業で教師が「使いやすい」と思う初級の日本語教科書を1冊選んでおく。(90分)</p>	<p>海外でよく使われている日本語教科書と副教材を調べておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>コースデザインの作り方 学習者のニーズ調査から教科書選定、授業時間数と達成目標、各自が選択した教科書を使って30時間の初級コースデザインを試作する。</p>	<p>学習者にとって「使いやすい」「学びやすい」と思われる初級の日本語教科書を1冊選び、よく読んでおく。(90分以上)</p>	<p>選択した教科書1冊分のおおまかなコースデザインを作っておく。(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>日本語の動詞活用 日本語学習者が苦手とする動詞活用に焦点を当て、その具体的な導入と教え方を先行研究文献を読んで、実際に演習してみる。</p>	<p>市販の初級教科書の巻末ページから、日本語文法の各活用表をまとめ、その練習方法を考えておく。(90分以上)</p>	<p>ローマ字を用いた語幹とその活用ルールが説明できるようにしておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>第二言語の習得と臨界期 臨界期仮説と敏感期から、言語の条件付け学習(行動主義)に基づいた教授法を体験する</p>	<p>初級文法ルールの指導方法の いろいろを動画サイトで最小3例 見て、その特徴をレポートにする。 (90分以上)</p>	<p>第二言語習得理論にもとづく文 法項目の練習方法のポイントを まとめておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>日本語の動詞活用提示とその練習方法Ⅰ 受身文の作り方とそのドリル方法を模擬授業する</p>	<p>受身形の作り方とその練習の教 案と模擬授業案を作成する。 (90分以上)</p>	<p>動詞の分類方法をまとめ、コミュ ニカティブな練習方法を考えて 教案を作成する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>日本語の動詞活用提示とその練習方法Ⅱ 「て形」導入と定着練習の模擬授業を行い、受講生どうして 授業評価を行って改善していく</p>	<p>模擬授業の準備をしておく。(90 分以上)</p>	<p>「て形」定着のための副教材を 作成しておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>日本語の文型 受身形と授受表現の定着練習方法 初級と中級の語彙比較</p>	<p>初級語彙・中級語彙の語彙レベルとその語彙を読んで、理解語彙を追加しておく。(90分以上)</p>	<p>授受表現の副教材を作成しておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>日本語能力試験の語彙レベル N5からN1までの文法項目・語句のレベル分け</p>	<p>日本語能力試験問題集をN1からN3まで最小1冊を解いてみる。(90分以上)</p>	<p>国際交流基金の日本語教育サイトを見て、日本語能力レベルの分類基準をまとめる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>日本語能力の測定 タスク課題やインタビューで何をどう測定するか(ワークショップを行う)</p>	<p>日本語能力試験問題集N5からN3までの語彙を分類しておく。(90分以上)</p>	<p>N3とN4レベル学習者へのティーチャートークを作成しておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第10回</p>	<p>評価と試験 評価の種類と目的別試験の分類</p>	<p>相対評価と絶対評価の特徴を調べ、具体例を記した一覧表を作成しておく。(120分)</p>	<p>試験の種類と試験問題例をまとめておく。(60分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>初中級レベルとは 初級後期から中期移行期の問題点</p>	<p>初中級または中級前期レベルのテキストを1冊選び、第1課(またはUnit 1)から3課までの新出語彙リストを作成する。(90分以上)</p>	<p>初級レベルで未定着度の高い学習項目と、プレ中級に必要な語彙・漢字語をリストアップしておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>中級レベルにおける会話指導 会話指導目標の設定</p>	<p>「言語使用の適切さ」について、問題事例を調べておくこと。(90分)</p>	<p>「言語操作」の種類とその具体例をレポートにする。(120分以上)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第13回</p>	<p>中級レベルにおけるメディア教材 ドラマ、ニュース、動画を教材として</p>	<p>日本語中級レベル学習者に教材として使うニュース映像やテレビドラマ(動画)等から1つ選び、そのスクリプト3分間分を作成しておく。(90分以上)</p>	<p>スピーチ指導に効果的なレアリア教材を一つ探し、その使い方を提案できるようにしておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第14回</p>	<p>中上級レベルにおける読解教材 精読と速読</p>	<p>生活の中で身近な読解教材を5つ以上採取しておく。(90分)</p>	<p>タスクリーディングの教え方に関する事例動画観察または実践報告書を読んでおく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第15回</p>	<p>まとめ 指定学習者を対象にした教授法の選択と学習定着のための副教材とその模擬授業と評価</p>	<p>指定する学習項目の副教材を作成し、それを使った模擬授業の準備をしておく。(90分以上)</p>	<p>作成した教案と副教材の修正・加筆をして提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題発表(模擬授業含む)60%、副教材作成40%
その他	0	
<b>教科書</b>		
講義プリントを配布する。		
<b>参考文献</b>		

「日本語教育の参照枠 報告」文化審議会国語分科会／文化庁サイト。  
『日本語教育への道しるべ 第3巻 ことばの教え方を知る』／近藤有美・水野愛子編／凡人社。  
『テストを作る』／関正昭・平岡史也編／スリーエーネットワーク。  
このほか授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本語教育学演習 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>この授業は、日本語教員を志望する者を対象とする。日本語教育の専門家としての高度な知識を備え、効果的な授業が実践できるようになることを目指すもので、「日本語教育学研究Ⅱ」と併せて受講することで、日本語教育の知識と実践的技能を身に付けていく(知識・技能)。さらにその教育能力の発展として「日本語教育学演習Ⅱ」科目につなげていく。</p> <p>ここでは、外国語教授法知識の応用として、模擬授業で自らの教育方法の問題点を振り返り、ピアレビューすることで相互に授業評価することにより、自律的研究が課せられる日本語教師の職業意識を身に付けていく。多様な日本語教育教材を分析したり作成したりして教材作成や模擬授業の改善を図ることで、日本語知識を深め、学習ニーズに合わせた教育能力を備える日本語教師を養成していく科目である(知識・技能)。</p> <p>日本語教育の現場では、どのような教師としての資質が求められるかを、学習目的別の模擬授業で体験的に学び、授業運営の向上を常に意識化できるようにしていく(思考・判断・表現)。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>日本語教育で即戦力として活躍できる人材となるよう、学習目的別の教材分析を行い、そのうちの1冊を使って、レディネス、コースデザインから、カリキュラムを作成してから、模擬授業を行う。模擬授業は、基本的に受講者同士でピアレビューしていく。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 日本語学習目的に合わせた教材を選ぶことができる。
2. 主教材で学習効果をあげるための教授法選択や副教材が作成できる。
3. 教師がアクションリサーチをとおして自己成長を続けていける。

**授業の方法**

前半は市販されている日本語の教科書分析方法を講義形式で行う。教科書分析で目的別に教材分類された後は、それらの教材を用いてどのように日本語学習が促進できるか模擬授業を行う。教科書を効果的に運用するために、副教材に何が必要かをディスカッションする。なによりも、教師に求められる資質や教授能力を自律的にリサーチすることで自己成長を図っていきたい。

**ICT活用**

授業の資料提示や課題はGoogle Classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当しない。

**課題に対するフィードバックの方法**

模擬授業の評価はその場でコメントし、提出課題は次回の授業までにコメントを付けて個別返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>オリエンテーション 日本語教師に求められる資質 アクションリサーチとは</p>	<p>国際交流基金サイトから、最新の海外の日本語学習者数の動向を調べておく。(90分)</p>	<p>文部科学省サイトから最新の「国内の日本語教育の概要」を読んでおく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>日本語教材分析 I 一般的な初級レベルの教科書とコースデザイン</p>	<p>代表的な初級日本語教科書を1冊読んでおく。(90分)</p>	<p>市販の日本語教科書2種のシラバスを読んでおく。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>日本語教科書分析 II 外国人児童生徒等のための教材とその使い方</p>	<p>国内の外国人児童生徒に関する日本語教育と学習上の問題を調べておく。(90分)</p>	<p>ネット等で非漢字圏学習者の漢字学習ストラテジー例を読んでおく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>日本語教科書分析Ⅲ 留学生のための日本語教材</p>	<p>日本語能力試験・日本留学試験の日本語出題レベルと内容を調べておく。(90分)</p>	<p>スキル別にCEFRと日本語能力のレベル対応表をつくる。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>日本語教科書分析Ⅳ 外国人労働者の日本語教育と就労Can-do</p>	<p>厚生労働省の「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」を読んでおく。(90分)</p>	<p>在留資格の種類と日本語能力の要件を確認しておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>日本語教科書分析Ⅳ 医療・介護者への日本語教材</p>	<p>国内の看護・介護等の医療人材不足と外国人雇用者数を確認しておく。(90分)</p>	<p>外国人介護職における初級教科書を1冊読み、求められる日本語能力を確認しておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第7回	対象別日本語教科書の選定 日本語模擬授業を行うために:学習者別の教科書と主たる教授法の選択	各自が対象別日本語教育の教科書から模擬授業用の1冊を選 んでおく。(90分)	選定した教科書を何度も読んで、「Can do」の積み上げを理解して おく。(90分以上)
担当教員			
第8回	教案の書き方 クラス設定と学習環境等に合わせたレッスンプランの立て 方	教案の書き方を読んでおく。(90 分)	多国籍学習者クラスの教室用語 をまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	模擬授業 I 指定する学習項目で一人約30分の模擬授業を行い、ピア レビューを行う	模擬授業用の教案を作成する。 (90分以上)	教案の修正を行い、振り返りレ ポート(アクションリサーチ)を書 く。(90分)
担当教員			

<p>第10回</p>	<p>模擬授業Ⅱ 指定する学習項目で一人約30分の模擬授業を行い、ピアレビューを行う</p>	<p>教案と副教材を作成する。(90分以上)</p>	<p>教案の修正を行い、振り返りレポート(アクションリサーチ)を書く。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第11回</p>	<p>模擬授業Ⅲ 指定する学習項目と学習対象者別にした模擬授業とピアレビューを行う。</p>	<p>教案と副教材を作成する。(90分以上)</p>	<p>教案の修正を行い、振り返りレポート(アクションリサーチ)を書く。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第12回</p>	<p>模擬授業Ⅳ 指定する学習項目と学習対象者別にした模擬授業とピアレビューを行う。</p>	<p>教案と副教材を作成する。(90分以上)</p>	<p>教案の修正を行い、振り返りレポート(アクションリサーチ)を書く。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第13回	教科書分析 代表的な初級教科書2冊のCEFR対応を分析していく	指定する日本語教科書の初級2冊を、その使い方にしたがってよく読んでおくこと。(90分以上)	指定するトピック別のCan-do項目リストを確認しておく。(90分)
担当教員			
第14回	アクションリサーチ報告 各自のアクションリサーチをプレゼンし、リサーチトピックを共有していく	これまでのアクションリサーチ発表の準備として、スライドに作成しておく。(90分)	これまでのアクションリサーチをレポートにする。(90分以上)
担当教員			
第15回	まとめ 多様化する日本語教育と教材対応	指定する学習項目のいろいろな教え方をサイトで見しておく。(90分)	特定の学習目的別・母語話者別を選び、その教え方とその評価方法をまとめてレポートにする。(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート等の課題50%、模擬授業50%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
講義プリントを配布する。		
<b>参考文献</b>		

『JF日本語教育スタンダード』／国際交流基金  
『就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール 教え方の手引き』／厚生労働省  
ほか、授業で適宜、紹介する。

**履修条件・留意事項等**

**備考欄**

模擬授業や課題等で指定する日本語教科書や副教材は図書館にあります。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本語教育学演習Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>この授業は、日本語教育職を目指す者を対象とする「日本語・日本文化コミュニケーション領域」科目群のすべての科目と連動する。特に、教授法理論を学ぶ「日本語教育学研究Ⅱ」と併せて履修することで、その応用方法が体得できる。</p> <p>日本語教育の専門的な知識を深め、その知見を活かして実践的な教育力を向上することを目的としている(知識・技能)。多様な学習ニーズに合わせた日本語教育における教授法の組み合わせや5スキル別の練習・評価方法等の教室活動を、模擬授業から自律的に教育方法の研究を深めていく。模擬授業はピアレビューし、客観的な振り返りと改善を繰り返すことで日本語教育の実践力を高めていく(思考・判断・表現)。将来の日本語教育の現場で求められるより高度な日本語に関する知識と教室運営のための教師の自己研鑽姿勢を身に付けていく(関心・意欲・態度)。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>この授業では、日本語教育の実践またはその研究において欠かせない日本語教育の実際を、模擬授業やミニ演習(デモンストレーションやドリルプレゼンテーション)等を行うことで自律的教育研究姿勢を図っていく。模擬授業の振り返りは録画を見返しながら自己評価やピアレビューを行い、教育方法の改善につなげていく。また、教師のアクションリサーチが身につくよう、授業後は問題点の改善レポートを課す。</p>							
<b>到達目標</b>							

1. 「日本語教育参照枠」を常に意識化できる。
2. 「日本語教育スタンダード」教科書を活かした授業教案が書ける。
3. 教科書の練習問題を補完する練習教材がつかれる。

**授業の方法**

実践的な日本語教師を目指し、ほぼ各回の授業で指定の学習項目に関する模擬授業を行う。模擬授業後はピアレビューを行い、受講生どうし相互評価することで、授業改善につなげていく。また、アクションリサーチの手法を用いて、各自が自立的に授業方法の改善を行うことを課している。

**ICT活用**

Google Classroomを活用し、課題と教案を投稿してもらい、模擬授業前にチャットやメールを使って教案の修正を指導する。

**実務経験のある教員の教育内容**

該当しない。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題は次回の授業時に個別コメントを添えて返却する。模擬授業の教案や副教材については、授業前指導が必要なことから、できるだけ早く返却して再考を求めるが、場合によっては修正すべき箇所を対面で個別指導する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>海外における日本語教育の現状と課題 国内の日本語教育の現状と課題</p>	<p>国際交流基金サイトで、最新の「海外における日本語教育の現状」を読んで、前回調査と比べて変化した事項を調べておく。(90分以上)</p>	<p>国内外で使用されている日本語教科書を1冊読み、学習の進め方を調べておく。(120分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>「スタンダード」日本語とは 何をどう教えるか、何ができるようになるかを市販の教科書で比較分析する</p>	<p>国際交流基金サイトで『JF日本語教育スタンダード 新版 利用者のためのガイドブック』をよく読んでおく。(90分以上)</p>	<p>本学図書館の蔵書でJFスタンダードに基づいた教科書を探し、その教科書の使い方をサイトで見ておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>「日本語教育の参照枠」その1:生活分野別の日本語教育 日本語能力測定:JFT-BasicとJLPT</p>	<p>文化庁サイトで最新の『日本語教育の参照枠 報告』をひととおり読んでおく。(90分以上)</p>	<p>生活分野別の言語能力記述文をよく読んでおく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第4回</p>	<p>「日本語教育の参照枠」その2:外国人就労者のための日本語教育 業種別の職場の日本語教育 教師のアクションリサーチとは</p>	<p>日本の外国人労働者数の受入れ動向と職種傾向を調べておく。(90分)</p>	<p>厚労省サイトから、外国人就労者の日本語教育の現状をレポートする。(90分以上)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>初級A2レベル CEFRに準じた「話すこと」の模擬授業と振り返り</p>	<p>指定されたテキストの学習項目を模擬授業用に教案作成しておくこと。(90分以上)</p>	<p>教案を修正・加筆して、再度よりよい模擬授業ができるようにしておく。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>初級A2レベル 「聞くこと」の模擬授業と振り返り</p>	<p>指定された聴解項目の模擬授業用教案を作成しておくこと。(90分以上)</p>	<p>教案を修正・加筆し、改善しておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第7回</p>	<p>初級A2レベル 「やり取り」の模擬授業と振り返り</p>	<p>指定された学習項目の模擬授業用教案を作成しておくこと。(90分以上)</p>	<p>教案を修正・加筆し、改善し、副教材を作成しておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>初級A2レベル 「読むこと」の模擬授業と振り返り</p>	<p>指定のA2レベル用に400字程度の読解授業教案を作成する。学習者向けの語彙リストも作成し活用できるようにしておく。(90分以上)</p>	<p>読解教材の適切さやタスク等、模擬授業の振り返りレポートを書く。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第9回</p>	<p>初級A2レベル 「聞くこと」模擬授業と振り返り</p>	<p>聴解練習の模擬授業用教案を作成しておくこと。(90分以上)</p>	<p>教案を修正・加筆してファイリングしておくこと。(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第10回	初級 A1-A2レベル 「話すこと」模擬授業と振り返り	以前の模擬授業教案を書き直し、改善した部分を再度模擬授業できるようにしておくこと。(90分以上)	再び教案を修正・加筆し、アクションリサーチを進める。(90分)
担当教員			
第11回	初級A1-A2 レベル 発音指導の方法	指定された母語別の日本語の音声特徴について調べておくこと。(90分以上)	母語話者別の音声指導の方法をレポートにする。(90分)
担当教員			
第12回	初級B1.1レベル 「読むこと」の模擬授業と振り返り	読解教材として800字以内の新聞記事や出来事ニュース原稿を準備し、模擬授業の教案にしておく。(90分以上)	読解教材を見直し、B1レベルへの移行教材を探して、読解練習問題を作成しておく。(90分)
担当教員			

第13回	初中級 B1レベル 「聞くこと」の模擬授業と振り返り	聴解教材を図書館で探して参考にし、指定項目の聴解授業の教案を作成しておく。(90分以上)	聴解教材の使い方サイトを見て模擬授業の改善をしておく。(90分)
担当教員			
第14回	初中級 B1レベル 「話すこと」模擬授業と振り返り	指定された会話授業の教案を作成しておくこと。(90分以上)	模擬授業の振り返りレポートを作成する。(90分)
担当教員			
第15回	中級 B1-B2レベル 語彙と文法説明	指定された学習項目の教案を作成しておくこと。(90分以上)	振り返りレポートを作成する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業40%、教案40%、レポート20%。
その他	0	
<b>教科書</b>		
プリントを配布する。		
<b>参考文献</b>		

『JF日本語教育スタンダード』および『JF日本語教育スタンダード[新版]利用者のためのガイドブック』／国際交流基金日本語国際センター(サイト)。  
「日本語教育の参照枠」／文化審議会国語分科会／文化庁(サイト)。  
『日本語教育の参照枠』の活用のための手引き』／文化庁(サイト)。  
このほか授業で適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

模擬授業用の各教科書や副教材は、図書館で借りておくこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		地域コミュニケーション・コース 地域コミュニケーション領域					
科目名		地域活性化システム論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている(知識・技能)」「言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる(関心・意欲・態度)」この科目は地域コミュニケーション領域のすべての科目に関連をもつ。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>地域創生・SDGsの本質とは何か、地域を変える要素は何かなど、様々な角度からの調査研究によるデータ分析や事例の検証実績を持つ外部講師(大学教員、国・自治体幹部、民間専門家等)等による「実学」講義とグループ対話、また、自ら住み暮らすまちの可能性と課題を探究し、現在から未来への展開といったストーリー性を踏まえて、事業構想と発表を実施するもの。</p>							
<b>到達目標</b>							

地域創生の本質を調査分析でき得る能力を身に付けることができる。地域現場の問題点から課題を整理し、最適な政策立案をでき得る能力を研くことができる。グループ対話から発表まででき得る人財養成をするもの。

**授業の方法**

対面によるもの。外部講師は対面またはオンラインとする。

**ICT活用**

受講生は、各自PC持参とし、講義資料はペーパーレスとする。

**実務経験のある教員の教育内容**

国内外年間80箇所超の地域現場を回り、最新情報を講義のうえ、第一線の外部講師からの情報を得て、グループ対話するもの。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の講義時に理解度を確認のうえ、質疑の時間を設ける。また、グループ発表時には助言、コメントをするもの。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の説明、地域創生の本質を説明、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第2回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域人財の現状と政策的課題	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第3回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域創生人財論の視点	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		

<p>第4回</p>	<p>受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域創生の構成と政策主体としての自治体</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第5回</p>	<p>外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 従来の地域リーダーの資質</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第6回</p>	<p>外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 人財養成の研修事例の現状と課題</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第7回</p>	<p>受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 今、求められる地域リーダー像</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第8回</p>	<p>外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域人材から地域人財への進化策</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第9回</p>	<p>受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 五感分析と基幹産業分析の実践</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

<p>第10回</p>	<p>受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 基幹産業なきまちの打開策</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第11回</p>	<p>グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域創生リーダー養成プログラムの実践</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			
<p>第12回</p>	<p>グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域人財の類型</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>	<p>講義内容の整理、テキスト熟読 90分。</p>
<p>担当教員 木村 俊昭</p>			

第13回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域内連携型と住民対話重視型	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第14回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 トップセールス型の地域実践型	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第15回	グループ発表、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	グループ等の対話(40%)、発表(60%)を総合的に評価するもの。
その他	0	なし。
<b>教科書</b>		
「地域創生 実践人財論」(ぎょうせい・木村俊昭)ほか、講義時に随時、レジユメとして配布(配信)する。		
<b>参考文献</b>		

随時、講義時に紹介する。

**履修条件・留意事項等**

第1回目に講義全体の流れ、グループ対話、発表方法等を説明するので必ず出席のこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		地域コミュニケーション・コース 地域コミュニケーション領域					
科目名		地域ビジネス特論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている」内容に位置づける。「地域活性化システム論」「地域ビジネス特論Ⅱ」と関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>地域ビジネスとは、地域の課題を解消できるビジネスモデルをいい、5類型に分けて具体的事例を学んでいく。地域ビジネスモデルを①地域おこし・まちづくり・観光ビジネス、②介護・福祉ビジネス、③環境・農業ビジネス、④ITビジネス、⑤就業支援のビジネスに類型して解説して学習する。また道の駅や地域運営組織、地域商社、エアーマネジメントなども地域ビジネスの組織論として学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							

地域ビジネスの概念を理解して、先進事例等が説明できる。  
 地域ビジネスを地域の実情の元に考案できる。  
 事業の持続性と合意形成の構築方が理解できる。

**授業の方法**

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

**ICT活用**

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

地方公務員の企画部門時、国家公務員の内閣官房・内閣府及び内閣府経済社会総合研究所時から地域資源活用調査研究の現場担当及び現場責任者を経験し、実績のある大学教員である。

**課題に対するフィードバックの方法**

返却時にレポートや質問への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>地域ビジネスとは何か 地域ビジネスの概要や体系を理解する</p>	<p>シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)</p>	<p>授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。(150分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第2回</p>	<p>地域おこし・まちづくり・観光ビジネスモデル 地域資源を事業活動に組み合わせながら、観光や集客につなげる地域ビジネスモデルなどを学ぶ。農山村の地域おこしや都市部の街づくりのビジネスモデル、温泉街等の観光ビジネスモデル等について事例を通して解説し、その効果や課題及び解決方法について議論等を行う。</p>	<p>インターネットでまちづくり・観光ビジネスについて検索して学習する。(90分)</p>	<p>まちづくり・観光ビジネスの考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第3回</p>	<p>介護・福祉ビジネスモデル 高齢者への移動式の買い物サービスや宅配、介護支援、交流や健康など、生活の暮らしをサポートする地域ビジネスモデルなどの先進事例を取り上げ解説し議論を進める。</p>	<p>インターネットで介護・福祉ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(120分)</p>	<p>介護・福祉ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(60分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第4回</p>	<p>環境・農業ビジネス 環境保全(リサイクルやエネルギー問題他)や地域特産品の生鮮品を新鮮な状態を保ち、届ける、地元での農産品を販売したい人と購入したい人をつなぐビジネスなどの先進事例を取り上げながら学ぶ。</p>	<p>インターネットで環境・農業ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>環境・農業ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(120分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第5回</p>	<p>ITビジネス:オンライン他のシステム開発や、地域ビジネスの支援にクラウドファンディングを活かすなどの事例を取り上げ解説して学ぶ。</p>	<p>インターネットでITビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>ITビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第6回</p>	<p>就業支援のビジネス 地域の課題解消と事業実現に合わせて、地域の雇用を新しく生み出す支援活動などの先進事例を学習し議論する。</p>	<p>インターネットで就業支援のビジネスを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>就業支援のビジネスについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第7回</p>	<p>道の駅の地域ビジネス その1 全国的な地域振興に貢献している道の駅について、その成り立ち、経緯から現在の特徴まで解説して、地域課題の解決への寄与、課題解決の方向性などを解説して、議論する。</p>	<p>インターネットで道の駅の特徴と地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>道の駅のビジネスについての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第8回</p>	<p>道の駅の地域ビジネス その2 地域ビジネスを展開する道の駅の経営の在り方、6次産業化、地域・教育貢献も踏まえて先進事例を通して学習する。今後の方向性等について議論を深める。</p>	<p>インターネットで道の駅の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>道の駅の地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第9回</p>	<p>地域運営組織としての地域ビジネス その1 地域住民が主体となって行政の支援も伴いながら地域課題の解決や地域の持続的発展を目指す地域運営組織について学習し、全国的な先進事例も学び、今後の方向性等を議論する。</p>	<p>インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第10回</p>	<p>地域運営組織としての地域ビジネス その2 地域住民が主体となって行政の支援も伴いながら地域課題の解決や地域の持続的発展を目指す地域運営組織について学習し、全国的な先進事例も学び、今後の方向性等を議論する。 雲南市、庄原市などの先進事例の調査解説も行う。</p>	<p>インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>木村 俊昭、熊野 稔</p>		
<p>第11回</p>	<p>地域運営組織としての地域ビジネス その3 地域住民が主体となって行政の支援も伴いながら地域課題の解決や地域の持続的発展を目指す地域運営組織について学習し、全国的な先進事例も学び、今後の方向性等を議論する。 長門市湯本温泉の湯本まち株式会社等の先進事例の調査解説も行う。</p>	<p>インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>木村 俊昭、熊野 稔</p>		
<p>第12回</p>	<p>地域商社 地域経営会社等の事例 地域商社とは、地域の関係者と協力し、地域資源をブランド化から販売までをプロデュースする組織のこと。資源は農作物や工芸品等で、地域内外に販売している。関連して山口県で行っている地域経営会社についても学習して議論を深める。</p>	<p>インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>木村 俊昭、熊野 稔</p>		

<p>第13回</p>	<p>エリアマネジメント その1 エリアマネジメントは、特定地域にて、事業者、地権者、住民等の民間が主体となって、まちづくりや地域経営を積極的に行う取組みを指す。その特徴や先進事例を学習し議論する。</p>	<p>インターネットでエリアマネジメントの特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>エリアマネジメントの特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第14回</p>	<p>エリアマネジメント その2 エリアマネジメントについて札幌市の札幌駅前通まちづくり株式会社のエリアマネジメント事例などを取り上げ、その特徴や効果、課題を議論する。</p>	<p>インターネットで札幌市のエリアマネジメントの特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>エリアマネジメントの特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第15回</p>	<p>全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。</p>	<p>今までの学習の総復習を行う。(90分)</p>	<p>今までの議論をもとに課題レポートを仕上げ提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業参加度(20%)、演習シート等の提出(30%)、全体レポート等(50%)。
その他	0	なし。
<b>教科書</b>		
オリジナル資料を配布する。		
<b>参考文献</b>		

書籍「地域創生 成功の方程式」(ぎょうせい・木村俊昭)のほか、随時、授業時に紹介する。

**履修条件・留意事項等**

原則、すべての講義に出席すること。

**備考欄**

インターネットによる資料検索等を事前学習で行うこと。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		地域コミュニケーション・コース 地域コミュニケーション領域					
科目名		地域ビジネス特論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている」内容に位置づける。「地域活性化システム論」「地域ビジネス特論Ⅰ」と関連している科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>地域ビジネス特論Ⅱでは、地域ビジネス特論Ⅰで学んだ知識や技能を活用して、具体的に地域ビジネスモデルを適用できる地域と地域課題を調査選択して解決していく方向性での地域ビジネスモデルを実際に構築していく。アクティブラーニング方式の授業とする。</p>							
<b>到達目標</b>							

地域資源の多角的な分析に基づき、解決すべき本質的な地域課題を論理的に特定できる。稼ぐ力と社会貢献を両立させたビジネスモデルを企画し、先行事例との比較を通じて、その実現可能性と妥当性を客観的に説明できる。多様な利害関係者への提案と問い立てを通じ、ビジネスモデルをより現実的なものへと改善できる。

**授業の方法**

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

**ICT活用**

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

地方自治体や国家公務員の実績、地域資源活用調査の実績のある大学教員。

**課題に対するフィードバックの方法**

返却時にレポートや質問への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	地域ビジネスの先進事例をもとに学び直し 地域ビジネスの概要や体系を理解して先進事例をもとに学び直し、成功事例について議論を深める。企画書を検討する。	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)	授業の概要を復習し、演習シートに取り組み提出する。(150分)
担当教員 木村 俊昭、熊野 稔			
第2回	地域ビジネスモデルの適用地域を探索する。その1	インターネットで地域ビジネスモデルの適用地域を探索し、検索して学習する。(90分)	復習して作業を継続し、演習シートを提出する。(90分)
担当教員 木村 俊昭、熊野 稔			
第3回	地域ビジネスモデルの適用地域をさらに深く探索する。その2 地域ビジネスモデルの適用地域をさらに深く探索して、個別指導で相談しながら議論を進める。	インターネットで地域ビジネスモデルの適用地域をさらに深く探索して、地域を絞り込む調査をしておく。(90分)	適用地域をほぼ絞り込み、演習シートを提出する。(90分)
担当教員 木村 俊昭、熊野 稔			

<p>第4回</p>	<p>適用地域の現況と動向、地域資源の探索 適用地域が決定後に、人口や土地利用等の現況と動向、歴史、文化、産業、特産品等の地域資源の探索等をネット情報を基本に行う。</p>	<p>インターネットで事前に調査しておく。(90分)</p>	<p>さらに作業の継続を行い、演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第5回</p>	<p>適用地域に類似した地域ビジネスモデルを探索して先行事例調査を実施する。</p>	<p>インターネットで適用地域に類似した地域ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。その1(90分)</p>	<p>類似地域ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第6回</p>	<p>適用地域に類似した地域ビジネスモデルをさらに探索して先行事例調査を実施する。その2</p>	<p>インターネットで適用地域に類似した地域ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>類似地域ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第7回</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その1 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して議論をする。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第8回</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その2 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第9回</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その3 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第10回</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その4 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 5W1Hは確定し、実施に向けてのフローチャートは完成させる。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第11回</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その5 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書概要を完成させる。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第12回</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その6 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書を完成させる。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。 (90分)</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第13回</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その7 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、 検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書と運営手法を完成させる。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え 方、手法、先進事例を復習して 演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>木村 俊昭、熊野 稔</p>		
<p>第14回</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を最終的に企画し 発表する。その8 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、 検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書と運営手法、予算想定を完成させる。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え 方、手法、先進事例を復習して 演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>木村 俊昭、熊野 稔</p>		
<p>第15回</p>	<p>全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行 い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。</p>	<p>今までの学習の総復習を行う。(90分)</p>	<p>今までの議論をもとに地域ビジネスモデル全体企画書を仕上げ て提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>木村 俊昭、熊野 稔</p>		
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業参加度(20%)、各授業の演習シート等の提出(30%)、全体企画書等(50%)。
その他	0	なし。
<b>教科書</b>		
講義時にオリジナル資料を配布する。必要に応じ、随時、紹介する。		
<b>参考文献</b>		

必要に応じ、随時、参考文献を紹介する。

**履修条件・留意事項等**

原則すべての出席。

**備考欄**

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		地域コミュニケーション・コース 地域コミュニケーション領域					
科目名		地域創生・SDGs特論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。」内容に位置づける。                      「地域活性化システム論」「地域創生・SDGs特論Ⅱ」と関連している。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>都心部への過度な人口集中を食い止め、少子高齢化や人口減少等で衰退する地方自治体の持続的発展のために、国・企業と一体となって地域経済を活性化しようとする取り組みを「地域創生」とする。また、SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために持続可能でよりよい世界を目指すために掲げた17目標と169ターゲットからなる。この2つの教養や手法、事例を学ぶ。                      議論しあうアクティブラーニング方式の授業も取り入れる。</p>							
<b>到達目標</b>							

地域創生・SDGsの概念や知識を理解して、先進事例等が説明できる。  
 実際に地域創生・SDGsの地域モデルや政策立案を地域の実情の元に考案できる。  
 地域創生・SDGsに関して、自律的に新しい価値を創り出す実践的な思考を確立する。

**授業の方法**

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

**ICT活用**

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

地方公務員の企画部門時や国家公務員の内閣官房・内閣府経済社会総合研究所時や農林水産省大臣官房政策課時、地域資源の利活用や調査研究の実績と経験のある大学教員である。

**課題に対するフィードバックの方法**

返却時にレポートや質問への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>地域創生・SDGsとは何か 地域創生、SDGsの定義、経緯、関連性、体系について学び、その課題や方向性なども議論しあう。</p>	<p>シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)</p>	<p>授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。(150分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第2回</p>	<p>地域創生論 その1 地域創生の政策や全国的な取り組み、先進事例等について解説し、議論等を行う。</p>	<p>インターネットで地域創生、まちづくりについて検索して学習する。(90分)</p>	<p>地域創生、まちづくりの考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第3回</p>	<p>地域創生論 その2 道の駅編 我が国の地域イノベーションとなった道の駅等を解説し議論を進める。</p>	<p>インターネットで道の駅、道の駅の地域ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(120分)</p>	<p>道の駅について考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(60分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第4回</p>	<p>地域創生論 その3 道の駅の高度化編 道の駅の高度化、災害支援対策などを学び、その方向性等を議論しあう。</p>	<p>インターネットで環道の駅の高度化、災害支援を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>道の駅について考え方、手法、高度化、災害支援などの先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第5回</p>	<p>地域創生における官民連携の取り組み 地域創生を効果的に進めるうえで欠かすことができない、官民連携の取り組みを学習し、議論しあう。PPP事業の体系、PFI事業やパークPFI事業、指定管理者制度などを学びその課題や方向性などを議論しあう。</p>	<p>インターネットで官民連携を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>官民連携事業についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第6回</p>	<p>SDGsの概要 世界規範となっているSDGsの経緯、目的、内容等の概要を理解してその知識を習得する。また17の目標の先進事例を学習し議論する。</p>	<p>インターネットでSDGsの概要を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>SDGsの概要についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

第7回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その1 17の目標と先進事例の概要などを解説して、課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員 木村 俊昭、熊野 稔			
第8回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その2 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員 木村 俊昭、熊野 稔			
第9回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その3 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員 木村 俊昭、熊野 稔			

<p>第10回</p>	<p>SDGsの17の目標と先進事例解説 その4 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。</p>	<p>インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)</p>	<p>SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第11回</p>	<p>SDGsの17の目標と先進事例解説 その5 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。</p>	<p>インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)</p>	<p>SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第12回</p>	<p>SDGsの17の目標と先進事例解説 その6 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。</p>	<p>インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)</p>	<p>SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

第13回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その7 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第14回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その8 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第15回	全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。	今までの学習の総復習を行う。(90分)	今までの議論をもとに課題レポートを仕上げ提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(20%)、各授業の演習シート等の提出(30%)、全体レポート等(50%)。
その他	0	なし。
<b>教科書</b>		
講義時にオリジナル資料を配布するものとする。また、適宜、参考資料を紹介する。		
<b>参考文献</b>		

必要に応じて、適宜紹介する。

**履修条件・留意事項等**

原則すべての講義に出席のこと。

**備考欄**

インターネットによる資料検索等を事前学習で行うこと。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		地域コミュニケーション・コース 地域コミュニケーション領域					
科目名		地域創生・SDGs特論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている」内容に位置づける。                      「地域活性化システム論」「地域創生・SDGs特論Ⅰ」と関連している科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>地域創生・SDGs特論Ⅱでは、地域創生・SDGs特論Ⅰで学んだ知識や技能を活用して、具体的に自治体の総合計画(基本構想、基本計画、実施計画)のオリジナルの改訂版を地域創生・SDGsの考え方を活用して策定する。                      アクティブラーニング方式の授業とする。</p>							
<b>到達目標</b>							

地域創生・SDGsの概念を理解して、先進事例等が説明できる。実際に自治体の総合計画の改訂版を地域創生・SDGsを活用して地域の実情の元に考案できること。

**授業の方法**

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

**ICT活用**

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

地方自治体や国家公務員の実績、地域資源活用調査の実績のある大学教員。

**課題に対するフィードバックの方法**

返却時にレポートや質問への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>SDGsを活用した自治体の総合計画改定 その1 いくつかの自治体の総合計画をダウンロードして、学習する。企画書を検討する。</p>	<p>シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)</p>	<p>授業の概要を復習し、演習シートに取り組み提出する。(150分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第2回</p>	<p>自治体の総合計画改定の適用地域を探索する。その2 住んでいる自治体の総合計画をはじめ、関心の高い自治体を探索して適用地域の議論をする。</p>	<p>インターネットで自治体の総合計画改定の適用地域を探索し、検索して学習する。(90分)</p>	<p>復習して作業を継続し、演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第3回</p>	<p>地域創生・SDGsを活用した自治体総合計画改定の適用地域をさらに深く探索する。その3 地域創生・SDGsを活用した自治体総合計画改定の適用地域をさらに深く探索して、個別指導で相談しながら議論を進める。</p>	<p>インターネットで自治体総合計画改定の適用地域をさらに深く探索して、地域を絞り込む調査をしておく。(120分)</p>	<p>適用地域をほぼ絞り込み、演習シートを提出する。(60分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第4回</p>	<p>適用地域の現況と動向、地域資源の探索 適用地域が決定後に、人口や土地利用等の現況と動向、歴史、文化、産業、特産品等の地域資源の探索等をネット情報を基本に行い、課題抽出も検討する。必要に応じて自治体への質問も行う。</p>	<p>インターネットで事前に調査しておく。(90分)</p>	<p>さらに作業の継続を行い、演習シートを提出する。(120分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第5回</p>	<p>適用地域に類似した自治体総合計画を探索して先行事例調査を実施する。</p>	<p>インターネットで適用地域に類似した自治体総合計画を検索し、先進事例などを調査しておく。その1(90分)</p>	<p>類似地域の自治体総合計画について考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第6回</p>	<p>適用地域に類似した自治体総合計画をさらに探索して先行事例調査を実施する。その2</p>	<p>インターネットで適用地域に類似した自治体総合計画を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)</p>	<p>類似地域の自治体総合計画について考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第7回</p>	<p>適用地域の自治体基本構想の改定内容を企画、検討する。 その1 適用地域に見合った自治体基本構想の内容を企画、検討して議論をする。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の自治体基本構想の内容を企画、検討する準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の自治体基本構想の内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>木村 俊昭、熊野 稔</p>		
<p>第8回</p>	<p>適用地域の自治体基本計画の改定内容を企画、検討する。 その2 適用地域に見合った自治体基本計画の内容を企画、検討して詳細に議論をする。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の自治体基本計画の内容を企画、検討する準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の自治体基本計画の内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>木村 俊昭、熊野 稔</p>		
<p>第9回</p>	<p>適用地域の自治体基本計画の内容改定を企画、検討する。 その3 適用地域に見合った自治体基本計画の内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の自治体基本計画の内容改定をさらに企画、検討する準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の自治体基本計画の内容改定をさらに企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>木村 俊昭、熊野 稔</p>		

<p>第10回</p>	<p>適用地域の実施計画の改定内容を企画、検討する。その4 適用地域に見合った実施計画の改定内容を企画、検討して詳細に議論をする。 5W1Hは確定し、実施に向けてのフローチャートは完成させる。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第11回</p>	<p>適用地域の実施計画の改定内容を企画、検討する。その5 適用地域に見合った実施計画の改定内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の改定内容を企画、検討する準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の実施計画の改定内容を企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第12回</p>	<p>適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討する。その6 適用地域に見合った総合計画全体の改定内容を企画、検討して詳細に議論をする。 全体的な企画書を完成させる。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			

<p>第13回</p>	<p>適用地域の総合計画全体の改定内容をさらに企画、検討する。その7 適用地域に見合った総合計画全体の改定内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の総合計画全体の改定内容の準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第14回</p>	<p>適用地域の総合計画全体の改定内容を最終的に企画し発表する。発表後に議論を深める その8 適用地域に見合った総合計画全体の改定内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。</p>	<p>インターネット等の活用で適用地域の総合計画全体の改定内容を完成させ発表の準備をする。(90分)</p>	<p>適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討して考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>第15回</p>	<p>全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。</p>	<p>今までの学習の総復習を行う。(90分)</p>	<p>今までの議論をもとに総合計画全体の改定全体総合計画を仕上げて提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 木村 俊昭、熊野 稔</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(20%)、各授業の演習シート等の提出(30%)、改訂版総合計画等(50%)。
その他	0	なし。
<b>教科書</b>		
講義時にオリジナル資料を配布する。講義時に必要に応じ、随時、紹介する。		
<b>参考文献</b>		

講義時に必要に応じ、随時、紹介する。

**履修条件・留意事項等**

原則すべての出席。

**備考欄**

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う。